

1. 件名:「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-105)、
廃棄物管理施設(80)、MOX燃料加工施設(2-65))」

2. 日時:令和5年10月6日(金) 10時00分~12時05分
13時30分~18時00分

3. 場所:原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、大橋上席安全審査官、大岡主任安全審査官、岸野主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、藤原主任安全審査官、新井安全審査官、小野安全審査官、上出安全審査官、武田安全審査官、横山原子力規制専門員

日本原燃株式会社

決得 執行役員 再処理・MOX 設工認総括副責任者 他7名

九州電力株式会社

テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部 副本部長

三菱重工業株式会社

原子力セグメント 安全高度化対策推進部 主幹プロジェクト統括

株式会社大林組 原子力本部 設計第一部 担当部長

東電設計株式会社 土木部 耐震技術部 担当職

5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年10月2日及び10月5日の提出資料に基づき、以下の事項について確認を行った。

- ・今後の進め方
- ・耐震設計の基本方針に関する建物・構築物の入力地震動の算定に用いる地盤モデルの設定について

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

- ・今後の進め方については、全体計画が明確になるよう整理するとともに、これを着実に進めるための作業段階及び作業時期を整理する。

- ・耐震設計のうち岩盤部分の減衰定数については、地震観測記録を用いた減衰定数の評価におけるデータの着目点、判断基準の考え方、評価結果の妥当性等の技術的な説明を拡充する。
- ・耐震設計のうち表層地盤の物性値等については、埋戻し土を全体平均して扱うことの妥当性の説明及び流動化処理土の地震応答解析モデルの妥当性を引き続き整理して説明する。

6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

7. その他

提出資料

なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html

- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）

「日本原燃(株)から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html

- ・ 日本原燃株式会社 MOX 燃料工場 規制法令及び通達に係る文書（令和5年2月28日）

「日本原燃(株)から再処理事業所 MOX 燃料加工施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/FAB/180000242.html

- ・ 日本原燃株式会社 MOX 燃料工場 規制法令及び通達に係る文書（令和5年2月28日）

「日本原燃(株)から再処理事業所 MOX 燃料加工施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/FAB/180000243.html

- ・ 令和5年10月2日

「日本原燃(株)再処理施設、MOX 施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

- ・ 令和5年10月5日

「日本原燃(株)再処理施設、MOX 施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	規制庁の感じですか。それでは日本原燃と設工認、ヒアリング、
0:00:06	思います。
0:00:08	それでは今日のですね。
0:00:11	まず、出席者、規制庁側の出席者から、
0:00:16	まず規制庁が本庁会議室からコサクハバサキキシノカミデが出席しています。
0:00:23	それでは日本原燃の方から本日の資料と出席者、あと、議題ですかね、説明をお願いします。
0:00:35	はい。日本原燃事務局の中浜でございます。
0:00:39	エミ本レンガの出席者をまず紹介させていただきます。
0:00:43	日本原燃より、ノモト、
0:00:46	当然設計様よりウノ様。
0:00:50	西三菱重工業様よりサトウ様。
0:00:54	大林組より、様より、ワダ様。
0:00:58	ウェブからの参加で、日本原燃より、
0:01:02	オガセ、
0:01:03	九州電力さんより、赤地様。以上、あと事務局六ヶ所側から事務局参加させていただきますでございます。
0:01:13	本日は耐震建物 08 ですね、こちらの方のご確認をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
0:01:22	はい。日本原燃野本でございます。そうしますと昔の建物 0 はキーのですね、他の県をあげたりするところがございますけれども本日、
0:01:33	このちょっと出席者の関係で、この減衰定数の技術的な部分ということで、下水、行政、本文パートそれから別紙 2-3、こちらをちょっと先に、
0:01:50	やらせていただければと、いうふうに考えてございます。差し支えございませんでしょうか。はい。はい。対象分なので、減衰のところにかいつまんで、
0:02:03	説明いただければ。
0:02:04	承知いたしました。そうしますと減衰のパートですね、もう逐一等を提出してございますアノを、
0:02:13	江藤オオウチのご説明は申し上げますけれども、全体といたしましてですね、この記載といたしまして、

0:02:23	この今までですね、少し伝達関数による検討ですとかいったところは、周波数依存のあるものをベースにして周波数依存のないものを工学的にといったような流れを前回行ったんですけども、
0:02:42	ちょっとそういうことではなくて、すべてのデータを一度並べてみるという形のストーリーに、我々もちょっと見直す形にさせていただきまして、今回、ご提議しているというところでございます。
0:02:57	で、別紙、2-3 のところで、幾らかですね、追記もしておりますし今回大きなところでいきますと、
0:03:07	東側地盤の伝達関数による検討、それから地震は過小による検討というものを追記して、検討がすみません、その部分をまとめてきたと。
0:03:19	いうところでございます。またですね、追加調査の位置付けといたしまして、そのエザキ計算による方法が、この追加調査として、これを追記して、これをもとに、またデータ並べて参りますということそれからがフィックを用いた減衰定数による確認です。
0:03:38	とか、いったところも慣れて参りますといったところを追記させていただいているところでございます。
0:03:45	また全体に評価手順についてですね提供をちょっと丁寧にする表現を意図して、我々なし不思議なところがございますはい。はい。一応、ちょっと何ページあたりにこんな感じ。はい。
0:03:59	はい。そうしますと今のですねちょっとことで申し上げました追加調査の位置付けのところはですね、ぜひ 2-3-16 ですから、
0:04:09	通しページでは 365 ページですね、365 ページ 366 ページ、頭のところに、追加調査の位置付けといったところは、入れさせていただいてるところでございます。
0:04:22	で、
0:04:25	あとですね、観測記録を用いた減衰定数の評価結果というのが、別紙 2-3 の 32 ですので、ちょっと 300 と日比 382 ページから、
0:04:37	記載してございましてこの並びのところで、先ほど申し上げた東側下、東側の地盤の検討結果というのを記載してございまして、
0:04:47	これ先ほど申し上げました一定減衰を横並びの扱いにしたということ、それから、評価手法について手順を丁寧にする表現を米として、を前提に追記してきたというところでございます。
0:04:59	江藤全体といたしましてですね評価の結果において、有意な差がないとか野瀬属えられてとかみたいなちょっと
0:05:09	ぼやとした定性的な記載が、我々もちょっとやってしまったといったところをできるだけ改めるようにという観点で、記載をですね、機器のちょっと精度良くしたいという思いでは、

0:05:23	作成してきております。
0:05:26	また乾燥記録とシミュレーション結果を比較する上でですね着目する周期や判断基準なんかも、ちょっと記載、資料の中でちゃんと明記するといったようなところを記載したり、この評価における信頼区間の考え方ですとかそういったところも、
0:05:44	極力入れるようにしたというところでございます。
0:05:48	すいません、規制庁カミデその東側の結果っていうのが、どこを見ればぱっと見えるかという、521 ページぐらいですか。
0:06:05	減衰の結果として、
0:06:13	地震、日本原燃の方ですいません、今上出さんおっしゃいました通り521 ページのところに書いてある図ございますけれども、これが東側地盤のところの結果の、今回実施したもののすべてが載っているものになっております。
0:06:27	もちろんこれは最終的にまとめた表でしてその前のところで、各評価のところのパートでの結果をバラバラにあるんですがまとめたものとして一覧で見るという意味ではこちらのページが一番わかりやすいと思います。以上です。はい。
0:06:39	わかりました。じゃあ、ちょっと続けて。
0:06:43	で、えっとですね、あとちょっと補足で申し上げたいことが、ぜひ、
0:06:49	皆さんが176 ですので通しページ526 ページ目からですね、このところ、若干ですね
0:07:00	その振動数依存を考慮しない設定の考え方といいますかそういうようなところが少し前回は申し上げたような設計へのちょっと本来の記載が少し残っ。
0:07:12	してはおるんですけども、今あるデータを基にですねちょっと我々、これから出てくるデータもとにこういう施工の道筋をたどるのかなというところを、ちょっと消さずに今残してるというところではございますけどもてたら全部その時点でこの記載もまた、
0:07:26	見直していこうというふうに考えているところでございます。江藤。今の補足でございますけれども、一旦ご説明は以上でございます。
0:07:36	はい。規制庁菅です。最後に526 ページのところ、これまだちょっとお話しあったところが反映し、
0:07:46	すいませんということでしたけど、そういうものって、今回、耐震建物08と同じ日に、指摘の反映状況という形で、
0:07:59	別途、コメントリストのような、資料を掲示いただいてますが、そこで宿題としてちゃんと持ってるんでしょうか、説明。
0:08:12	はい元ノモトでございます。今のあれですね、減衰定数の

0:08:20	そうですね。比嘉。
0:08:23	アノとかアノデータをフラットに並べてというところにもう尽きる話では、
0:08:30	あるんですけども、
0:08:33	多分ちゃんと書いてなくて、他のところもなんか、なんだかなって感じの、非常にどう反映したかも書いてなければ飛ばし先だけ。
0:08:46	書いてあって、だけど、あれは本当にどう反映したのかなっていうところもあります。今説明があったような、またこの課題等も、
0:08:56	こともあるんですけどいう、わかってはいるんだけど、切れていないっていう状況だと思いますが、この辺りをもう少し確認させていただいて、
0:09:05	います。
0:09:06	そうですね。はい。日本原燃野本でございます。はい。
0:09:11	ました。
0:09:16	コメントに対して、どういう反映方針でどこにどういうふうに反映したのかと。
0:09:22	いうひもづけがわかるような記載を少し、ちょっと次回以降、工夫をもう少ししたいと思います。以上でございます。
0:09:32	はい、規制庁アノ工夫というか、そちらの仕事のやり方にあまり口を出すつもりもないんですけど前も言ってるんですけど、
0:09:42	じゃあ、野間さんとかSteeringチームの方っていうのは課題じゃ、まず最初に作業前にこういうものを整理するのがまず仕事であって、こういう対応、コメントに対して対応するといったことに対して、
0:09:57	こういうふうに種作業していきましょうということを検討していきましょうって言って、それで作業があり、刈り取ってみるっていうことだと思うんですけど、私がこの紙を見る限り、
0:10:09	やってから作ってんじゃないかなって感じはしてるんですね。実際はそうじゃないのかもしれないんですけどちゃんと計画的に、
0:10:19	タスクを整理して、作業始めていけばちょっとここまでのものにはならなかったんだと思うので、要は、おっしゃる通り工夫なのかもしれないですけどもう少しクリックしていただければと思います。
0:10:34	日本原燃の郷でございます。承知いたしました。ちょっと今回この資料作った我々の主催の技術部長ですね、少しちょっとお話しさせていただきますと、いただきましてコメント元に振り返りメモは都度、作成しておりました。
0:10:49	その振り返りメモを元に反映するんだらうなというところを一旦仕様ごとにですね、まとめてみてこういう方針で反映しようかということで作ったのがこの反映箇所リストでございます。これを眺めながら、
0:11:03	修正はしてるんですけどもちょっとこの範囲の方に早いですよね。

0:11:10	だとしたら、なんでさっき、
0:11:13	そうですね。はい。ですよね。おっしゃる通りです。先ほど堂本さんの説明で、ここも今後どうするか検討しますと言っていたわけで、
0:11:24	そんな最初からそう思っていたんだけど、リストに入って、そうですねはい。おっしゃる通り、ちゃんと施工が最初に、これやるんだというのが方針に落とされてその方針がここで回収されたと。
0:11:38	いう形で我々私はグリップしないといけないんですけども、それがちょっと、ちょっと気にしてしまってるというのが確かにおっしゃる通りで、私の中でも一つ入れているのは、
0:11:49	方針示して、ふんわりちょっとそれが何か反映できたようなところで、ちょっと止まっちゃってるというのが私のグループの弱さだったというふうに反映しますので、
0:12:01	そこをきっちりやっていただく、やっていきたいと、いうふうに、
0:12:05	思います。以上でございます。はい、古作です。
0:12:12	そうしていただければ大丈夫かなと思うんですけど先ほどの表現っていうと、どうもこのやりましたっていうもののメモみたいになっていて、今後こうしていきますっていうところ。
0:12:24	どうも部材の意図が少し薄いのかなあと、走り出したんですね。なので、先ほどさんが最初に、
0:12:35	振り返りでタスク素子で認識したものの、対応方針を整理をされた際には、直近でやることだけじゃなくて、将来に先延ばしにするもの。
0:12:46	ていうのを意識をしてそれをどこでどうしていくつもりなのかというのを明確にしてもらったら、はい。誤解なく進むんじゃないかなと。
0:12:57	はい、承知いたしましたはい。おっしゃる通りだと思いますので、対応して参りたいと思います。ありがとうございます。
0:13:05	はい。規制庁加茂です。それでは具体的に減衰のところですかね、別紙2-3であったりそれと管理する本部、
0:13:13	規制庁側から確認あればお願いします。
0:13:21	大丈夫ですか。
0:13:30	件数は思って、
0:13:34	どうしましょ
0:13:36	幾つかたくさんあるんですけども、ちょっとページ、
0:13:39	幾つか、はい。
0:13:41	はい。規制庁の中で、確認させていただきます。
0:13:46	冒頭ですね 387 ページ。

0:13:50	のを見ていただければ、
0:13:59	と、
0:14:01	評価に用いる地震観測記録の選定基準の説明がありまして、
0:14:07	下から二つ目のパラグラフ、
0:14:11	ね。
0:14:12	最深部において 110Gal以上のってというような説明がありますけれども、
0:14:16	本当にその通りなのかなってところはちょっと、
0:14:20	実際に選定された資料を見てみると、おやと思うところがありまして、例えば 320 ページを見ていただきますと、
0:14:28	これ中央時間、
0:14:30	選定された地震の表になってますけれども、
0:14:34	表の一番右側にGL-200メートルって書いてあるやつ、この数字はおそらくこの震度におけるガル数だと思うんですけども、NSEWは確かに10ガル以上。
0:14:47	かなってところありますけど、アップロードが特に理由があるっていう縛りを設けてないのかなというところがありますがこの辺りの選定の考え方ってのはどういうふうにされてるんだったら、正確に教えていただきます。
0:15:00	はい。すみません 6ヶ所から日本原燃のオガセでございます。こちらにつきましてはすみません言葉が足りなかったかもしれませんが、いずれかの成分で 10Galを超えているものというような意図で書きましたので、いずれかの成分でというのをきちんと適切に正しく記載しようと思えます。以上です。
0:15:16	規制庁にしますはい、わかりました。で、この選定基準ってというのは、
0:15:22	いずれか一つでも自由ガルを超えてればという、少し目安的な考え方のようにも聞こえたんですけども、
0:15:30	今回は、
0:15:32	受
0:15:33	間 10Galぐらいを目安にっていうような、そういう選定基準で考えてると理解してよろしいですか。
0:15:40	はい。日本原燃のオガセ、おっしゃる通りでここの敷地につきまして目安のところでございます。やはり伝播に関する再現する上ではある程度複数の地震というものを使うべきだというふうに、
0:15:50	考えているわけなんですけど、一応、一番の趣旨としては大きいほう記録の大きい方から取っていきたいというところで、その上で複数選ぶ上でどこかの数字を基準に、

0:16:00	目安として置いてあげて、そこでフィルタリングされる数を抽出したという そういうような流れで考えました。以上です。
0:16:08	規制庁の内野です。はい、わかりました。選定基準というかその考え方 っていうのはですね、今、200メートル、10ガル以上としか書いてないで すので、そこら辺は、
0:16:19	もう少し言葉を足して、実際に示されてる表との整合がないようにしてお いていただければと思います。で、
0:16:27	そうしますとですね、一方で許可の時にはぎとり地盤モデルを作った時 の地震動の選定基準ってのは、これよりもっと、
0:16:35	絞り込んだような
0:16:37	ものになってたかと思います。具体的にはマグニチュード 5.5 以上、信 用距離で 250 キロメートル以下、
0:16:44	標高 70 メートルの加速度で 1、1 センチメートルパーセク以上っていう、
0:16:49	本ですね。
0:16:50	今回は単にGL-200メートルで 10Gal以上という 1 条件が、
0:16:56	今夏検討の目的は、この条件で達成できるということでそうされたのか なと思いますけどカトウの
0:17:04	条件設定の違いとその理由ってのを教えていただいていた方がいいですか。
0:17:13	はい。日本原燃のオガセでございます。今回につきましては若干なんか すいません言い訳チェックになってしまうかもしれないんですけども、 たら改めて新しくデータをまっさらな目で見るといようなところにちょっ とフォーミング構図としては立ちまして、
0:17:26	その上で、やはり我々として取れてる地震をまきに見たときに、上から 取っていくというところで、その結果との連続性というところについては あえて外したようなところがあります。
0:17:37	で、やっぱり我々としてその許可の段階でご説明しているときの地震計 のあれが、古い地震計の津久井観測記録だったりしまして新しいデータ がとれているというところでもございましたので、単純に古いデータも新し いデータも全部まぜこぜにした上で、上から取っていくというところの趣 旨で考えた次第でございます。またサカイとしては以上です。
0:17:57	所長。はい。新しい目で見直すっていう趣旨は理解できるんですけど も、
0:18:05	選定条件が、許可に比べると、大分ゆるいってということについて、特に 問題視してるというわけではないんですけども、許可でははぎとり地 盤モデルを作ってそこから
0:18:18	基準地震動の算定とか、そういったステップを踏む。それに対して今回 は減衰定数の同定という目的にほぼ絞られているから、

0:18:30	そこまでのシビアな条件を設定しなくてよかったんだとかですね、今回の検討の目的とか用途に照らして、この条件で十分なんですっていうあたりをお聞きしたかったんですけども、その辺りの説明っていうのは、
0:18:44	うん。
0:18:46	はい。日本原燃のオガセでございます。十分カトウカドイ十分かどうかというところのお話というのはおっしゃる通り疑いを持つべきところだというふうなのは我々も認識いたしました。その上で衛藤は、春夏ぐらいですかねにご指摘をいただいた通り、この地震これの地震の選定結果で十分なのかというところのご指摘もありましたので、
0:19:05	やはり我々もそこにアノ疑いを持つべきだと思ひまして、ここの考え方というところの補強のために、後ろの方でこの検討に使ってる地震を30分だったら、30分ぐらいにふやした場合の検討をしております。
0:19:17	その上で伝達関数の2、さわらないことも確認しておりますので、結果的にその考え方としては岸野さんおっしゃることでいけばちょっと緩くなっているというところでございますけれども、今回目的としてやっている減衰定数の評価をする上で、目的関数とする伝達関数としてはきちんと出ているというところも確認をした上で、
0:19:37	この地震使うことで問題ないんだというところを、はい。確認しているところでございます。以上です。
0:19:43	成長の基礎ですはい。わかりました。最初に選定基準を設ける際には、
0:19:50	今のご説明をある間違っってとらえてるかもしれませんが、最初に選定基準を設定する際は、あまり
0:19:58	考えず、
0:19:59	やったけれどもあとで30個にふやして精査したら特に問題ないことが確認されたっていうような、そういう説明になっちゃう聞かせたんですけども、そういう理解で。
0:20:10	よろしいですか。今岡さんだけがご説明されてますけど、当然明石さんとかもそこら辺は見られて、これでいいよねっていうのを確認された上でのことだと思うんですが。
0:20:21	はい九州電力の明石でございますちょうどちょっと発言させていただこうと思ってたところでした。今回の基準が10、整備基準が十分かどうかの前に、
0:20:32	もともとのマグニチュードであつたり死ぬ距離で縛ってたのがなぜなのかと、いうことを1点申し上げさせていただくと、これ下根井さんだけではなく、
0:20:42	電力各社そういった基準で地震観測記録を拾ってるんですけども、何でそんな拾い方をしてるかという、もともとその地震観測記録、

0:20:55	記録にあたって
0:20:58	体制スペクトルという言い方よろしくないですけどノダの手法で地震動評価をする際、そのNodaの手法を決めるにあたって、採用されている観測記録が、
0:21:11	概ねマグニチュード 5.5 程度以上で信号距離が確か 100 キロから 220 キロぐらいだったかなと思うんですけども、その縛りを参考に、地震観測記録を選定する際は、
0:21:26	ピックアップしてたという経緯がございます。
0:21:29	逆に言うと、今回の目的に照らした場合、そのノダの手法で何か検討するわけではない。まさに、減衰を贈呈するにあたって、
0:21:41	そこそこの大きさの記録が、要は解析の土俵に 10 分乗っかる大きさの記録が欲しい。さらには、統計的にもう妥当なところを見定めるために、数が欲しいと。
0:21:53	ということで、ここはちょっと議員さんの考え方も伺い
0:21:58	我々からの意見も述べさせていただき、この選定基準で網をかけるということで問題はなかろうということで判断をしたところでございます。さらに、もうちょっと幅を広げてちっちゃいやつまで拾って 30 でやってみたらということまでやってみました。
0:22:14	したけども、統計的に大きなぶれがあるわけではないのでそこも確認を後付けかもしれませんが、妥当な拾い方はできてるというふうに判断をしております。以上です。
0:22:27	津崎シミズはい、わかりました。
0:22:33	当間許可との目的とか、の違いで目的に合致した、合致するための条件としてはこれで十分であるってところのですね、説明をきちんとしていただければ今回の
0:22:46	地震動の選定条件というのは妥当かなというふうに
0:22:49	理解できるかと思しますので、そのような説明を拡充していただければと思いますよろしくお願いします。
0:22:56	はい。
0:22:58	規制庁浜崎です。ちょっと関連しますので、
0:23:01	私の方から、今回ですね、12 とか 10 エンドウイシイをベースに、
0:23:08	現状の評価をされているというのをちょっとしてて、それに対して、10 分その数で大丈夫ですかということに対して地震の数を 30 にふやしても伝達関数に大きな作業になりませんという検討が追加されてますので、
0:23:24	基本的には問題ないと思ってます。で、その中で 32 地震の数をふやしたと。データはですね、412 ページからですかね。
0:23:35	信用一位とマグニチュードD、円の案件で書いてあるんですけども、

0:23:43	ふやした地震の諸元についても、390 ページからありますような、表の形でですね。
0:23:51	まず示してもらいたいんですけども、それは可能でしょうか。
0:23:56	はい、原燃の大賀でございますかしまりました表の形でも地震のリストを添付させていただき、
0:24:02	はい、よろしく申し上げます。
0:24:04	それと、ちょっと今許可の関係の話も出たんですねちょっとここを確認したいのがですね 398 ページ、初期モデル、これ地震動選定の地震動であって、はぎとり地盤モデルの選定の話なんですけれども、
0:24:20	要は、中央地盤に関しては、
0:24:25	今回ですね、
0:24:28	一番下のパラグラフにあるんですけども、現在の地震観測位置における、
0:24:37	と検査データから、サーのS波速度の再設定しているというのが中央地盤なんですけれども、
0:24:44	399 ページに行きますと、
0:24:47	当座に関しては再設定しないと許可の段階ですね。
0:24:52	いう記載があるんですね。これ何、なぜその同じ確か 2008 年に、当然移設してるんですけども、東西は再設定しなかったんですか。
0:25:05	日本原燃のオガセでございますちょっとすみません
0:25:09	答えとしてなんですけども許可のときに、イシイヒガシを新しいところでやり直さなかった理由というところになりますけれども、2008 年に地震計を移設してから、いわゆるこの間の許可の時までの新地震動の審査が始まるまでの間の期間の間では、大きい地震例えば 311 地震みたいなところが取れていた
0:25:29	んですけども、他のいろんなタイプの地震というところが十分にとれていなかったというところが、当時の実情としてはありました。当時そう判断したというところでございます。ですので許可昭和、9 の地震観測位置における、
0:25:42	地盤情報、地震観測記録を用いてそのはぎとりモデルを作ってご説明したというようなところでございます。ただ、一方で、こういうさっきも言ったところと近いんですけども、今回というのは新しいデータを満遍なくちゃんと見ようというところになりましたので、新しいところちゃんと使いましようというところから話を始めたという、そういうような流れでございます。以上です。
0:26:00	経緯ハバサキです。

0:26:04	今回東西時間が中央との、特に今回、東側でな、結果が出てるんですけども、やはり中央とかなりいろんな意味でサーバー出ていると言いますかですね、
0:26:16	違いがあるということを我々認識してるんですけども、許可の段階のことを今、ここでどうこう言うつもりはないんですけども、要はその
0:26:26	通う基盤より浅いところに、もう地盤の評価を、今、設工認でやってる中でですね。
0:26:33	当時の判断が本当に正しかったのかといいますかですね何で、何かこう理由があるのかなということで今お聞きしました特別な理由があるのかということでお聞きしましたがあまり具体的な理由はないということなんですけれども、
0:26:47	ちょっとそこら辺の経緯についてもですね 399 ページのところですね可能な範囲で、当時の事情について記載してもらえないと。
0:26:58	今回は新たにしたというところなんですけども、
0:27:03	何で投資しなかったのっていう疑問というのは誰でも持つと思いますんで、そこははっきりと説明してもらいたいというふうに思います。よろしいですか。
0:27:13	はい。元オガセでございますかしまりました当時の判断みたいなどころにつきましても、追記をさせていただきます。以上です。はい、規制庁です。すいません。途中入ったんですけど、この関連については私は以上です。
0:27:26	すいません規制庁関係ですけど、関連して、
0:27:30	なんで地震計移しちゃったんでしたっけもしくはその前に使っていたものをそのまま使っていたものは枚使っていたもので残しつつ新しいものっていう考えもあると思うんですけど、
0:27:41	新しいものに展示したっていうのは何だったんでしたっけ。
0:27:46	はい。元のオガセでございます。あと9の地震計の位置に、新しい増設とかそういうようなところがあり、あったりするときに、やはり多少は話してあげて地盤の振動を拾えるような位置にすべきだというような判断が当時ありまして、
0:28:02	今の位置に移設したというところでございます。以上です。
0:28:06	木瀬。
0:28:07	で、結局、前野市に今建物とか、
0:28:18	はい、原燃のオガセ時、
0:28:21	3、通しで 385-3 年度 80 億の辺りですけども、ここに地震計の平面図ついておりますけども、東側西側ともにちょっとすいません建屋の下

	に書いてないんですけども、建屋が、いずれも金庫に立っているところ です。
0:28:37	今はあります。以上です。
0:28:40	今ワタナベすみません当時は、当時の人が、一応今の、今建屋が建っ てしまってる場所とほぼほぼかぶっているような状況になってます。以 上です。
0:28:47	はい。規制庁深見です。わかりました。はい。すみません。以上です。
0:28:53	施設の千野です。ちょっとページ中に持って、ちょっと確認を進めてい く。
0:28:59	えっと、次 400 ページをお願いしたい。
0:29:06	東側地盤ですね。
0:29:10	初期地盤モデル。
0:29:11	速度構造の設定についての説明があり、
0:29:18	今、説明の中ではですね、高速度層が浅部に至っている。
0:29:23	呉というような説明があるんですけども、この東側地盤観測地点のP S検層って、この高速度層が浅部に至っていることっていうのは、PS検 層から直接は確認できていない。
0:29:35	ですが、
0:29:36	いう。
0:29:37	このことからですね、PS検層結果が観測地点の速度構造を正しくとら えていない可能性もあるのではっていう、そういった考え方もできるの で、
0:29:47	もう、
0:29:47	この技術検査結果を初期モデル設定の根拠に用いてよいかどうか、つ まり、ちゃんと信頼できるPS検層結果がえられてるかどうかっていうの は、現在の方ではどのように評価してるのかっていうのちょっと教えてい ただけですか。
0:30:01	はい。日本原燃の小幡でございます。401 ページに図があります通りな んですけども、
0:30:10	はい。こちらの図にあります通り、すみませんまず現状整理をまずさせ ていただきますと、今ここに真ん中に先にBと 5500 日であるものがこの 地震計位置のボーリングの位置、この穴のところでPS検層をやっている というところでございます。
0:30:25	で、それに対して獲られてる速度というものは、
0:30:30	右の図にある通りでございますけれども、この作り抜いているところの 層という意味では、この子今回この絵に、

0:30:39	におきまして拘束競争になっているというのは、これ相当薄紫もそうになります。そういうところを実際この穴のところの、この位置につきましてはオレンジのソウノ層も、上の方では堀井乾、下の方の-70より下のところでやっており、
0:30:57	抜き始めるというようなところになっておりますので、PS検層のコウノところコウノ修注意というか、ものにつきましては、やはりこの上、朝日浅井ところまで来てるほう素グドウ層というところは掘り抜いておりませんので、このPS検層自体は合ってると思ってますつまりアノ、
0:31:11	高速度層が上まで上がっていないような、PS検層としては正しいものだというふうに考えております。ただ一方で実際にあの地震観測記録に表れている、山田の性状みたいなところを考えますと、
0:31:23	この辺の高規格でこう上がってきてる高速度層が上がってきてるような影響ってのは全くないとはやっぱり見切れないであろうということも考えまして、今回その奥で高速度層を測ってきた場合、
0:31:35	の方が、合いがいいのかなというところで初期モデルの変更の方をやっているというようなところでございます。以上です。
0:31:42	規制庁の木曾です。はい。わかった気がします。
0:31:46	つまり、PS検層は、ある意味、点のデータっていうんですかね。線の直線のデータで、それを地層線に重ねると、高速度層っていうのは拾えない場所で掘ってるんだけれども、
0:31:59	この観測記録から、減衰定数を同定する際は、この点だけじゃなくてその点を含むその周辺のある程度の範囲まで含んだ形での、
0:32:12	含んだといいますか、そのある程度の領域の影響を受けた、半径をとって減衰定数を同定しているので、おそらくその高速度層が上部に乗っかってる影響が出ているんであろうと。
0:32:24	いうことからこのような速度設定をしましたというふうに、私なりに理解したんですが、この理解ってのは合ってると。
0:32:33	いうことでよろしいでしょうか。
0:32:35	はい。日本原燃のオガセでございますまさしく今岸野さんがおっしゃった通りのところの話で、合っているというふうになっているというかおっしゃる通りのところでございます。今回この東側地盤につきましてはこの、いわゆる今木野さんのことをおっしゃった言葉を借りれば、
0:32:49	PS検層、0っていうあるところなんですけども、ほぼそれに木崎アベか。
0:32:53	近づきたいところで細々等々が来てるっていうこの東側地盤のその観測点の、この辺のところのある意味レアケースといいますかそういうよう

	なところが影響してしまっているというようなそういう状況だと認識しております。以上です。
0:33:07	九州電力の明石でございます。ちょっと補足をさせていただきます。考え方のご理解は先ほど岸野さんがおっしゃった通りでございます。
0:33:17	この贈呈にあたっては私含め、施主ですが加賀イシタアノオノJapanメンバーでも議論になったところでございまして、
0:33:29	敷地と周期モデルに対して同定したところ、どうもうまく合わないので、金このPA地質断面を見てみるとなるほど、すぐそばにこういう高速度大野層が近づいてきている。
0:33:44	で、波ってのはこの辺で上がっていくわけではなくて面として上がっていきますので、そういう影響をやっぱ加味した同定をしないと駄目じゃないかということで、探索幅を広げてさらに当店の製造を上げると。
0:33:58	いうことをアドバイスをし、原燃の方で検討を行ったというものでございます。ご理解は先ほど岸野さんにご理解されてる通りでございます。以上です。
0:34:10	はい。無理。
0:34:12	そうすると、澤の実態を踏まえると、PS検層でやられたデータに縛られないと言っていい。よくわかりませんが、
0:34:23	あまり縛られ過ぎないで、同定の幅を広げることで、より実態に合った同定ができるのではないかと、判断されたのかなと思いました。で、
0:34:33	そうしたときにですね、今回
0:34:37	401 ページの図でですね、緑色の点線でPS検層だったらズドンと一定値できているところに境界を設けて、
0:34:49	その上下でBSを変えますという設定をされたわけですが、これは、
0:34:56	こういった新たな速度境界を設けて上下でそれぞれ値を設けるっていうのは、もともと速度チューニングチューニングというんですかね、側道もいろいろと調整して、同定をしてるわけですが
0:35:08	調整の範囲内でやったといえるのか、それもある程度逸脱していてちょっとここは、先ほどレアケースみたいな話もあったんですけど、
0:35:18	ある程度こう逸脱するような形でやっているのか。
0:35:22	ちょっと質問がうまくないかもしれませんが、
0:35:25	そのあたりお答えいただけますか。
0:35:28	すいません。補足します。要は初期TSつちゅうの振れ幅としてどこまで設定して良いのか、際限なく合うまでやっていいのかっていう、その辺りのお考えをちょっと教えていただけますか。
0:35:41	はい。日本原燃の尾形でございます。今の岸野さんの質問に関してまず結論から言いますと、もともと考えているところの速度のチューニング

	から大きく外れたことはやってない、30代のことだというふうに考えてございます。
0:35:54	以上で、その考え方をお話しさせていただきますと、もし仮にです仮にこのそとところこんな断層みたいなのがなくて、平坦な地盤がこう見るとつていうようなところであったとしても、よくこの地盤の
0:36:07	伝達関数に贈呈する観点という時には、やっぱり厚い層で高速度が例えば100メートルぐらいの厚さでこう一定のものになっているところにつきまして、もうそこを一応の速度としてこう、
0:36:19	下にこう動かしていくっていうところにやっていくとどうしてもやっぱり合わせ切れないというところのゼンショーというのはよくある話でございまして、そこをどう分布してあげてある程度やっぱりこの分厚い一応の層でも、上の層と下の層でちょっとした笠野比差はあるんじゃないかみたいなところの検討というのは、
0:36:37	一般的にこういう同定をするときには、その分割というのがよくある話だというふうに考えてございます。ですので、そういう観点では逸脱はしていないというふうに考えてございます。ただ一方で、探索範囲を決めるときに、
0:36:49	下の層を持ち難くなってもおかしくないような探索範囲にしようという今回ジャッジをして、探索範囲決めているんですがそこにつきましては、先ほどご説明いたしました高速度層が上まで上がってきているような影響があり得るといようなところを踏まえて、
0:37:03	三角の範囲は、この和気田内の下の方というところは片井側に広げた形でやっている、ここにつきましてはうちのこの東側のこの辺のところの特有の考え方、ある意味レアケースに基づく特有の考え方だというふうに考えてございます。そういう意味で
0:37:18	何ですかねそういう段階段階で考えているというところでございます。以上。
0:37:25	規制庁の木曾です。はい、わかりましたというか、
0:37:29	こちら辺ワー、そうですね。同定をするにあたって、
0:37:34	速度としては例えば初期のVsで獲られた値のプラマイ20%ぐらいまでの範囲で同定して良いとかそういう縛りがあるわけでは、
0:37:43	なく、周辺の地盤の状況とか先ほどの檀上盤側の添高速度層の影響なんかも加味して、そこは
0:37:57	的といいますか、適切な設定をしておくって特に数字的な縛りはないと、いような理解でよろしかったですか。
0:38:07	はい。日本原燃の大橋でございます。

0:38:10	何%までならいい悪いというのとおっております。こういうことの状態を踏まえまして、考えているというところでございます。以上です。
0:38:24	規制庁浜崎です。ちょっと今ですねヒガシが地盤モデルについての話になったんで関連するんで、確認したいんですけども。
0:38:32	最終的には 404 ページ、今回、モデルということで、これ、今までの違いは、GL-18.68 から-115.73 は、この範囲の分析を大きく二つに分けたというか、
0:38:47	この範囲をもう少し細分化したと。
0:38:51	いうのがまず要点ですね。
0:38:55	案件オガセさんがおっしゃる通り、404 ページのところの、んちのところの真ん中のところに層境界を設定して東京カジタニの数字を出しました。
0:39:08	はい。はい。規制庁浜崎です。
0:39:11	これ当初ですね地盤モデルヒガシニヌマの理論モデルは添野瀬、先ほどの地震計の設置位置の本等も含めて、Vsを
0:39:21	プラマイフリマ振って、探索しますということで
0:39:28	話があってですね、8 月からのヒアリングの時に、Vs、現実的には下Vsと減衰なんですけども、その二つのパラメーターじゃなくて層厚に関しては、いいですかみたいな。
0:39:42	1 個、こちらから聞いたというふうに記憶してますが、今回結果的に、先ほど言ったと、そうですねほぼアノ支所に相当するものを、
0:39:53	大きく分けたということなんですけども、
0:39:56	400 ページ。
0:39:58	資料の 400 ページの記載をしたから 4 行目を見ると、
0:40:05	例えば、今対象としている、J-R-115.73 のレベルも、これのパラメーターにして、振ってみたと。
0:40:16	そのような、観測をした上で最終的に 404 ページのさ、モデルになったんでしょうかそれとも当初のはぎとりモデルの層境界は変えずに、単に、
0:40:29	18.68 から 115.73 の間だけを今回細かく、
0:40:35	分割してみたという結果なんですか。そのあたり、
0:40:39	ちょっとこの文章だとわかんないんですけど説明してください。はい。日本原燃オガセアノやったこととしましてはハバサキさんおっしゃったところの后者でございます。その他の深度の境界につきましてはもう変えていない。あくまで今回は、同一相当今までに出していた中に一つ、層境界を追加して、

0:40:57	その深さを贈呈したというところでございます。というのももとの考え方のところですけども、技術検層所の岩盤とか速度の折れ点として出ているようなところの速度境界というところにつきましてはそのセンターとしては一つ
0:41:11	フィックスできるポイントだと思っておりましたのでそういうふうになったというところでございます。以上です。
0:41:17	はい。規制庁浜崎です特に新聞の方はですね。
0:41:21	ベースのサトウいっても大きくはないかなと思うんですけど、-18.68の辺りってかなりフィーダー水も大きいわけで、
0:41:31	入力増に対しての影響って大きくだ出てくるのかなというふうに思ってたんですけども、そういったパラメーターを振って内容は、これ一番最初にも言いましたけれども、
0:41:41	減衰の同定をする上では、地盤モデルがまずしっかりしたもんじゃないと、減衰だけを検討しても、真実の値に近づけませんよという
0:41:52	そこは十分注意してくださいという話をしたかと思ってます。今回は結果的に強い看板に相当するところを、細分化したということで理解しましたけれども、
0:42:04	このあたり明石さん、お聞きしたいんですけども、9電での経験も踏まえて、
0:42:11	今回のこのモデルの設定、
0:42:13	今のようなプロセスと設定っていうのは、これで最終的には問題ないというふうに判断して、いいものなのかどうかちょっと参考に、意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。
0:42:25	はい。九州電力の明石でございます。まず結論から申し上げますと、今回、この同定にあたってのモデル野瀬であったり、これは私、綿Cだけじゃなくて、
0:42:39	関係者一同もうこれで問題ないというふうに判断をしております。で、減衰の同定に先立って濱崎さんおっしゃった通りモデルが大事である、おっしゃる通りでございます、
0:42:52	この後も実は
0:42:56	伝達関数の合い具合を見てるとやっぱりどうも合い具合がよろしくないけども合い具合はよろしくないけどもシミュレーションしてみるとそこそこいく。
0:43:07	のでちょっとその先に走ろうとしてたんですけどもそこで我々ちょっと一旦、原産にぐっと立ちどまってもらって、シミュレーションがうまくいったところで、伝達関数がうまくいう見えて

0:43:20	再現しきれないのやっぱりその伝達関数を、もうちょっと合わせるすなわち一番モデルの精度を上げるということをまずやるべきだということで、この探索範囲を広げたり、
0:43:33	まさにこれ求人宮殿の件、経験値としての職務モデルにこだわり過ぎてなかなかうまく探査、同定できなかったところがあったので一旦その頭をとっばらって、
0:43:45	探索範囲を広げて贈呈すすべきだと、いうことでやってもらった経緯があります。その結果として、伝達関数としてはかなり改善、
0:43:56	押さされました。で、ぴったり合ってるかというとまだまだ、
0:44:00	やれるところあるのかもしれませんが、かなり改善ができてさらに、応答スペクトルとしての合い具合もほぼ、小浦むしろ合い過ぎてるんじゃないのっていうぐらい、シミュレーションの結果再現できるところまでできましたので、
0:44:16	関係者としてはもうこれでかなり精度の高い同定ができてるというふう
0:44:26	に判断をしております。以上です。
0:44:26	はい。規制庁、大関です。はい。作業の、
0:44:30	経緯といたしますか。
0:44:32	プロセスですね、ということで今具体的な
0:44:36	お話いただきましたんですね。
0:44:40	やってる内容と、あと判断根拠といたしますかですね、等については理解
0:44:47	しました。
0:44:47	というのは、
0:44:49	これもうもちろんご存知だと思いますけれども中央のようなシンプルな
0:45:00	地盤構成と、かなりこれ違って先ほどの、上盤側に小速度層があるとか
0:45:14	ですね。
0:45:00	地震計がついたら、そこをつけてるだとか、結構複雑それで鉄の断層の
0:45:14	左右は随分、そういうこと間違ってるということがあるんでヒガシの地盤
0:45:20	の特性って非常にこれ、
0:45:14	慎重を期さないといけないというふうに思ってますので、今後、
0:45:20	そういうプロセスを含めての結果ということでは理解しました。我々も
0:45:32	もう少し慎重にですね東側に関しては確認していきたいと思ってます。
0:45:32	ちょっと最後、
0:45:34	400 ページの先ほどの、
0:45:36	古関さんの話ですと、結果的にははぎとりの層構造は変えてないという
0:45:36	ことだったんですけど、400 ページをちょっとこだわって申し訳ないすけど下から 4 行目の、

0:45:48	当該層境界自体の探索対象としたという、この当該層境界って何を指しますか。
0:45:56	はい。日本原燃のオガセすみませんちょっと表現がわかりにくかったですね。アノ100万。この今の下から4行目のところの言葉でいくと、GL-18.68から115.73の層の中に、
0:46:09	新たにつけた層境界という意味で、404ページにいるところの、真ん中のところ、括弧目と書いている層、ここの層境界のことだけを指している。
0:46:21	これ規制庁ハバサキですそれはその前の複数の層に詳細分館するとともにトダテスムース調査だということなんですちょっとそこわかりにくいんで、
0:46:31	先ほどの明石さんの話も含めてですねやはり東側の地盤構成に関してはしっかりと説明の方をしてもらいたと思います。よろしいですか。
0:46:45	はい。はい。日本原燃合わせでかしこまりました。
0:46:49	はい。瀬山議員すいません、本件については私は以上です。
0:46:54	規制庁上出です。
0:46:57	ちょっと頭の整理をしたくて確認なんですけど、400、
0:47:01	1ページ。
0:47:05	顔の図だと、ここの層厚でナンバー2-1って、で、
0:47:11	肥田で右側2速度構造が書いてますけど、この速度構造は、ナンバー2-1だけの速度構造ですか。
0:47:25	日本原燃オガセです。はい。おっしゃる通りです。
0:47:29	2本あることを、もしおっしゃってるんでしたら、すいません判例がちょっと消えちゃってんですけど、VSVPで、はい2本あります。以上です。
0:47:39	はい規制庁。
0:47:41	で、
0:47:43	2、地震計をつけている穴の速度構造で、
0:47:50	同定をしたんですけど、
0:47:52	合わなかった。実際に、こうやって左側の図何個見ると、
0:47:58	我々結構複雑な形をしてねってって、この
0:48:04	速度構造を多分ずらしに行っちゃったってことなんだと思うんですけど。
0:48:09	そうすると、
0:48:11	PS検層ってそもそも何と、どこまでの生徒があるのって感じがしちゃうんですけど、そういう疑問が湧いてきてくるような検討結果にはなってるってことでいいんですよ。

0:48:27	はい。日本原燃のオガセでございます。こちらにつきましては上出さんのご懸念は実際、おっしゃる通りかなというところは思います。こういうところがあるというのはまさしく今 400 の 1 ページにあるような、こういうPS検層のすぐ近くにこういうのが、
0:48:42	上がってきているというようなそういうような影響があり得るようなところに限定するというふうに考えておりますただ一方で、今岩盤部大串の物性値等のところでもう記載は、
0:48:53	いろいろといっぱい書いているところでございますけれどもこういったところの層境界の深さの差というところが果たして入力地震動に影響するかしらないかというところっていうのは、やはりその段差の大きさに応じた、
0:49:04	こういう周期で、我々今まで説明してましたけどそういうようなところへ移るかどうかっていうところはやはりジャッジが別途必要だというふうに考えておまして、岩盤物性のところではPS検層のデータを使いつつ、それを各建屋の直下でちゃんとアノ層境界の高さに、差があっても使ってもいいですよ平均化していいですよというところの説明を加えておりますので、
0:49:23	それとある意味整合した考えなのかなというふうに考えており、
0:49:28	評価です。今の説明、ちょっとよくわかんない。
0:49:35	あれですか、減衰の話があって、地盤岩盤の物性値のところでもちゃんとやっていますっていう話。
0:49:46	はい、日本原燃の大橋でございます各建屋のところのPS検層、
0:49:52	に対しての話という意味ではそういう意味でおっしゃる通り岩盤の物性時の方のところカバーしております。以上です。
0:49:58	はい、規制庁上津カバーしているというのは、岩盤の物性値の設定直下のやつ下においても、単純にこの速度構造PS検層の速度構造だけ見るんじゃなくて、ちゃんとその
0:50:10	左側の図みたいなアノソウノ図を見て、じゃあこのPS検層拘泥アピールそこの速度構造で、モデル化していいねと、
0:50:21	今回出ているような東川の復興みたいな複雑な形はないねっていうのは確認した上で、岩盤の物性も決めてますよ、そういうことですか。
0:50:30	はい、原燃の大橋ですおっしゃる通りの認識でおります。はい。以上です。
0:50:36	はい、規制庁カミデアノそういう説明は私は納得ですけど。
0:50:40	何かありますね。
0:50:42	うん。
0:50:44	ちょっとありますけど、

0:50:46	整理
0:50:47	はい。店長鎌田アノ岩盤の話もまた後であるんで、関連して、確認できる。
0:50:52	私の方からとりあえずですけど、
0:50:55	あれですかねそれぐらいの精度ですよってということなんですPS検層自体も、
0:51:01	当然設計のものでございますが、PS検層の場合ですと、この項から、ある程度5メートルとか10メートルと離れたところからですね、インパルスを打ちますんで、
0:51:12	基本的にはこの近くの物性だけをとってしまいますよね。
0:51:17	そういう意味では、それだ形で周辺のところまで考えなきゃいけないの、いけないんじゃないのとちょっとおっしゃる通り、と、周辺のところも考えなくちゃいけない。ただ、今地震の観測はをですね、評価するときには、
0:51:31	せんな発注の下からずっとこう伝わって、周りを取り囲みながらきますので、表面に上がってきた時には、その点のデータじゃなくてやはり周辺のデータも先ほど岸野さんも一緒に周辺のデータをですね、
0:51:43	巻き込みながら来ますので、やはり考え方として、これPS検層と、今やってるモデルが合わないんじゃないのっていう話ですからすると、下から上がってくるものと、
0:51:55	上からインパルスを打ったものじゃ、若干違うものがあると。で、本来はそういうものを含めて、全体的なバランスを取って設定すべきというふうに、私の方でも、
0:52:05	はい。規制庁金です。わかりました。そういうことだと
0:52:10	構想トガシせば二次限定すればいいんだけど、1次元でやってる以上はそこは工夫しろっていうか頑張り一緒にやっていますってことですね。
0:52:21	はい、規制庁カミデわかりました。
0:52:25	規制庁岸野です。今ヒガシが地盤観測点になってますんで少しページと言いますけれども、
0:52:31	436ページGですね、この東側地盤による呉電子利益の同定結果の説明が始まっています。
0:52:40	で、このページの下の方を見ますと、
0:52:46	とですね、断層上盤側の地下構造による振動特性が支配的であると考えられるというような
0:52:52	説明があって、この
0:52:55	同定でやられたものってのは、先ほど、

0:53:00	原燃から僕はレアケースだっというような説明があったように、レアな地盤状況を、の影響を色濃く受けた減衰定数の結果になっているというふうに、
0:53:11	読み取れるんですけれども、
0:53:13	そうだとしたと、まずはそういう理解で、
0:53:17	いいかというのを、まず
0:53:21	はい、原燃のオガセです記載の意図としてははいおっしゃる通りでございます。千野さんの今おっしゃった通りの認識でございます。
0:53:28	成長期、はい。
0:53:29	で、これは今、この場で、
0:53:33	細かく掘り下げたり議論をしたりするようなことではないと、認識してまずけど、単純に事実確認として、
0:53:41	今回はその東側地盤観測記録から同定した減衰定数の結果という示されていて、リニア梅林
0:53:50	であるとして。
0:53:51	で、今後それらをにらみながら、観測記録に基づくと、減衰定数はこうなる
0:53:58	あと、さらにその先のステップとしては、設計に用いる地盤モデルの減衰定数としては、さらにいろんなことも加味してまた設定がされると。
0:54:08	ということになると思うんですが、その中で観測結果による同減衰定数ってのがどの程度効いてくるかってのは
0:54:17	時の話なので、今ここで断定的に言うことじゃないんですけれども、今回観測地点の地下構造が結構レアケースだとするならばそこでられた減衰定数って、
0:54:28	東側地盤、今 5 グループ設計してますけど、
0:54:31	どの程度の範囲まで適用できる。
0:54:36	の当たりをつけているのかもしくは今後検討するとして、その辺りってのが、どう検討しているかっていう考え方って何か小口だったら教えていただけますか。
0:54:49	はい。日本原燃の小形でございます。こちらにつきましてはちょっと戻っていただいて、401 ページのところのアノ断層の陣形のところの地質の部分ですけども、
0:55:00	ここってというのは、いわゆるこのオレンジとかピンクとか黄色とかの層というところ自体を抜いていいわゆる東側地盤として、登場する慣習というところはきちんとある程度もう、きちんと網羅しているようなところの観測点ですので、
0:55:14	この看板ごとのまず姿勢に、

0:55:17	開業するような減衰定数という意味では、きちんと取れているというふう に考えてございますので、東側地盤の他の建屋のところにつきましても 同じ種類の岩盤が分布しているのであれば、同じようなものを使っても 問題なからうというふうなところの判断は一つあると思っております。
0:55:32	ただ一方で、今回これ中央も西も全部一緒の話なんですけれども、これ あくまでこの地震観測点における減衰定数というところになります。で、 今後今S波検層の評価を各12グループで見れるようなところで追加い たしますのでそこで相対的な差がなければ、
0:55:49	ここに出てきた減衰定数というところを使っても問題なからうというよう な議論も、今、すいません暫定的に行っちゃいましたけどできるかどうかと いう検討もこれからできるかというふうに考えておりますので、ちょっとそ ういうふうな形で、今回出した地震観測記録に基づく結果というところ の、
0:56:05	適用範囲といいますか、そういうところにつきましては考察を深めていく ようなところで書くところではちょっと四角棒で未利用地的に意欲的に書 いているところがございます。以上です。すいません九州電力の明石で ございます。一言補足させていただければと思います。
0:56:23	岸野さん、先ほどオガセがありました通り東側地下構造はちょっとレア なケースになってるかなと思います。ただ、その値レアな地下構造をうまく モデル化できてないと。
0:56:37	減衰まで何かレアケースになっちゃう。
0:56:41	いうことを我々としては寄付呉して今回まさにレアな、地下構造をきちっ とできるだけ正確に模擬できるように、贈呈をしても厳正にしてもらった と。
0:56:55	いうところがあります。要はそのね、地下構造レアな地下構造をきちっ とモデル化できてないと、その場所場所って減衰が非常にバラバラになっ てくる。本来、
0:57:07	原水ってのは大きな地殻構造に左右されて、いろいろ様々な反射電波 を繰り返しながら伝わってくる波の相対として減衰が表れるものでは それが、
0:57:18	ピンポイントピンポイントで何か減衰が変わってくるこれはもう、実際、実 態として認識してる実現象に対しておかしな話になっちゃいますので、 そんなことにならないためにもレアな近くをきちっと、
0:57:30	同定した上で減衰を求めるということをやっているというふう に認識しております。なので、近くをその場でワダから減衰がレアになっ てるかというふうではなくって、

0:57:43	レアでない一般的に認識されてるところと、違和感のない減衰を贈呈するために、レアな地下構造をきちんと同定しているというふうにご理解いただければと思います。以上です。
0:57:58	集中のキシノです。
0:58:00	あまり、
0:58:02	今明石さんがおっしゃったことを正しくとらえられている地震はないんですけれども、この401ページの東側地盤観測地点の地下構造自体は、
0:58:13	0なんだけども、ここで言われた減衰定数は、特殊条件に振り回されることがなく、この観測地点を含む広域に対して適用できるような、
0:58:26	ある意味汎用性のある減衰定数を同定できたと考えていると。
0:58:31	いうご説明と理解しました。つまりか。
0:58:34	そうですね。はい九州電力の明石でございます。の言いたかったこともギュッともうまとめて今岸野さんおっしゃっていただいた通りです。そこにまさに
0:58:47	ですから減衰じゃなくてちゃんと後輩にも適用できる、ちゃんとした検査がえられたんだというところは、考察としてしっかり述べなきゃいけないとは思いますが、
0:58:58	何かレアなちょっと取扱注意の減衰がえられたような形にはなっていないと、いうふうに考えて判断しております。以上です。
0:59:07	規制庁の岸野です。はい。ちょっとイメージでは、多分理解できたと思っています。
0:59:12	そうした時にですね、すいません規制庁カミデです。
0:59:17	汎用的なっていうんだと、まずレアケースって言っちゃうのがトートロジーっていうか、
0:59:25	言葉の使い方としては多分よくないですね、何て言うかも考えた方がよくて別に今回の取った観測地点は別部屋ではなくて、東側地盤の監視を一通り
0:59:41	含んでいる場所だみたいなことを多分言った方がよくて、それに対して、適用性があるっていうのがオオハシさんの主張だと。当然それがそのまま腑に落ちてるわけじゃなくて、
0:59:54	それでいいのかなとは思ってるんですけど説明の仕方としてはまず言葉はちゃんと選んだ方がいいですねレアと言いつつ、汎用っていうとすごいみんな混乱しちゃうんで、そこ
1:00:06	綺麗に説明してください。で、もう一つ、
1:00:11	的場さん言ったその、この適用性を見未来予告的に四角なところで書きましたって説明があったんですけどそれ具体的に何ページの記載をさして、

1:00:22	言っていましたか。
1:00:24	はい。日本原燃のオガセでございますすいません。いろんなところに書いたんでちょっとどこかちょっと今すいません、高嶋です。
1:00:38	まず1点は、わかりやすいところでいくとですね、
1:00:47	うん。
1:00:54	違うか。
1:01:03	うーん。
1:01:05	と。
1:01:07	そうですね。すいません。一つ考えたところが512ページとかのところなんですけどちょっと先に言ってしまいます。
1:01:20	今回、すいませんこちら512ページ、図ですけどその前の文章のところに施策とかって書いているわけなんですけども、SR検層結果、今後活する、追加していくというようなところに対しまして、
1:01:33	今、えられているところのエザワ検層との相対的な比較、ないし、あとは高振動数側のちょっと先取り。
1:01:42	すいません、先取りになってしまいますけれども、材料減衰との整合性みたいなのところっていうのを、相対的な観点で各グループで相対的な差がないかというふうなところを確認するようなところで、下書いてございます。まずここ施設です。
1:01:55	あと、何か観測記録に出したやつごとの整合性という観点でも取ったニシカワさん、赤瀬さん、澤井委員さんから、今ちょっとご発言を挟まれましたんでちょっとお聞きしてください。
1:02:09	あ、すいませんはいすいません。規制庁管です。今あったのは、7ポツのところですね、509ページから始まって、だから、
1:02:17	次回、
1:02:19	またさっき言ったのを聞いていて思ったのが、東側地盤の地震観測位置の層構造の特徴。
1:02:30	から、適用範囲について、また、
1:02:37	今度考察を深めますって書いてあるのかなと思ったんですけどそういう記載はなくて、いろんなデータを並べて、
1:02:47	東側の地震観測局が、それでそれであります。3軸圧縮試験の結果もあるし、えさもこれからだんだん増えてきますという中で、並べて考察します。
1:02:59	それを未来を目的に書いてますってそういう説明だったってことですか。
1:03:05	はい。日本原燃の小形です今上出さんがおっしゃった通りでございます。いろんなデータえさ検層もコア試験も含めて全部フラットに並べた上でちゃんと全部そろってからアノシンボ改めてやりますというふうな旨の

	追加を、今上井さんおっしゃった 510 ページですかね、のところではないというところでございます。以上です。
1:03:27	はい、わかりましたというのは、そういう、その程度だったっていうことがわかりました。はい。すいません。
1:03:35	辻野キシノです。ちょっと東側地盤に関連して、次はその観測。
1:03:42	結果の前に、
1:03:46	初期地盤の設定条件について、もう一つ二つ確認したいんですけども、
1:03:53	ページで言うと 437 ページ。
1:04:01	左側に表があって、
1:04:04	で、
1:04:07	S波速度の値が 6405090 になっている。
1:04:11	ここは、
1:04:12	先ほどの、
1:04:15	麻生分割しましたよというところの上限に当たるかと思うんですけども、
1:04:19	ちょっとこれは、
1:04:20	細かい確認なっちゃうかもしれませんがこの上の 640 っていう数字は、もともとの初期地盤モデルの設定の考え方として、
1:04:30	VS数、
1:04:33	2、プラマイ何%っていうの振れ幅を持って、
1:04:36	この 640 に相当するところというのは、確か 404 ページのですね。
1:04:43	表で見ると、820 プラマイ 5%で設定しますと言っているところの数字が、結果的に 640 になっていると思うんですね。
1:04:54	820 プラマイ 5%から随分大きく外れちゃった結果になっちゃったんですけど、そのあたりっていうのは、この 440 ページ野瀬記述が間違えているのか、さらに何か新しい
1:05:06	考え方を加えて、結果 640 落ち着いたのかそのあたり教えていただけますから、
1:05:11	もう申しわけござい日本原燃のオガセです申し訳ございません。すいません 404 ページの方のすいませんかっこプラマイ 5%の
1:05:22	すみません、多分誤記だというふうに考えます申し訳ございませんきちんと正しい数字確認いたします。
1:05:28	同定としまして結果として出てきているものにつきましてはこちらの 400 万ポイント、37 ページで書いているところ、間違いないところは開確認していますチェックつけておりますので、

1:05:40	間違いないと考えてございますのでこのプラマイのところの設定について、
1:05:45	25%とかちょっとすいませんそういう数字だったかもしれません。そこをすいません確認させていただきまして修正いたします。申し訳ございません。お願いします。はい、わかりました。
1:05:57	820KURAMA英語ではなくって、プラマイ 20 とか、
1:06:02	それぐらいの幅を持たせたということなら、
1:06:05	そうなのかなと。
1:06:06	820 そのものを見直したとなると、401 ページの図にあるPS検層の呉 0.82 という数字。
1:06:15	から持って帰ってきたということで、
1:06:17	思います。そのあたりもですね、多分最初はこのPS検層の結果からスタートして、そこからうまくいかないということで分割してそれぞれを振幅幅の中で変えて、
1:06:29	場合によってフルハウスってのはあるかもしれませんが、そこら辺のプロセスは、ブラックボックスにしないでちゃんと説明をしておいていただければと思いますので、よろしくお願いします。
1:06:39	はい。日本原燃のオガセでございます不備がありまして誠に申し訳ございませんでした。岸野さんがおっしゃいました通り初期の速度につきましてはPS検層から動かすということはずに、あくまで層境界の追加と探索範囲の拡充というふうなところで、
1:06:53	検討を進めるようにやっておりましたので、きちんとその辺のプロセスとか考え方でその上でちゃんと正しい数字を記載するようにいたします申し訳ございません。
1:07:03	議長にしますはい。
1:07:05	よろしくお願いします。で、また 438 ページ。
1:07:10	2の方に戻っていただいて、
1:07:13	チラー
1:07:15	をですね左側の表に、
1:07:17	ミイ波速度の数字が載っているんですけども、
1:07:20	のVpの設定については、特に資料見る限り説明はされていないと思います。
1:07:27	VPって何に基づいて設定されたのでしょうか。またチューニング等された結果がここに載っているのでしょうか。そのあたり説明お願いします。
1:07:38	はい。日本原燃の大脇でございます。確かにすみません、VPの動線に関する機械、あまり書いてないです。はい。ここでやったことといたしましてはまず水平方法のところ、

1:07:51	つきまして先ほど追加した層境界みたいなところを、まずフィックスさせました。この表の中でいきますと 71.88 名ー71.8 メートルというところで、この数字は水平の増税結果から出しました。
1:08:05	で、そこで出てきた震度のアノ層境界の厚さを固定してあげて、Vpにつきましては後は同じような形、S波と同じように、PS検層のものを初期値としまして同じ考え方で、
1:08:18	探索範囲を設定して、想定かけているというところになってございます。ちょっとここをすいませんきちんと書かせていただき、
1:08:27	規制庁の木曾です。はい、わかりましたっていうか、わからないんですけど。
1:08:31	諏訪と同じように、PS検層結果のVpを初期値としてそこにプラマイ幾つかの振れ幅を設定、
1:08:41	していますよと、等-71.88 の境界は、先ほど説明があった水平の方で決まったものを適用して、その上下で、
1:08:51	Vpについても、振れ幅の範囲で同定できるような値を設定したと、そういう流れで、
1:08:58	やったということによろしいですか。
1:09:01	はい。元オガセですおっしゃる通りでございます。
1:09:05	成長機能ですはいわかりましたそこら辺も、先ほどと同じですので、しっかりと説明をしていただければ。
1:09:14	は、規制庁ハバサキです
1:09:17	念のためにですね、和装弾いの情報を入れてもらえればと思うんですけども、変な値にはなってないと思うんですけども、
1:09:24	QSTの関係っていうのは、コイケんで、
1:09:30	最終的な防災時、
1:09:32	のデータも示してもらいたいと思いますが、よろしい大丈夫ですか。
1:09:40	衛藤日本原燃のオガセでございますいませんちょっと音声がブチブチッとしてしまったんですが、この承認はハッタカワセを記載することということのご指摘です。
1:09:53	はい。かしこまりますし、
1:09:56	遅いので、VsとVpの、はい。はい計算警察同定してるわけではないので、そういった計算した結果という形になりますが、それによろしければつけさせていただきます。
1:10:13	規制庁の岸野です。衛藤。はい。お願いします。東側地盤の結果について先ほどちょっと表ものって言いました 437 ページから、
1:10:23	440 ページについてはその伝達関数、
1:10:27	言っておりますけれども、

1:10:28	これは現時点で最もよく合っているというような結果として、
1:10:34	この資料の中で出されているんですが、
1:10:39	前回のですね、東側地盤については、なかなかうまくいなくてという状況は聞いていて、
1:10:46	今できましたってような結果が出ているんですけども、前回までの観測がうまく再現できていなかった結果との対比を示してですね、
1:10:58	左側の表についても、モデルの変更点を同様に対比を示していただいて、
1:11:04	モデルをどのように変更して、結果伝達関数がどのように改善したかということですね、ご説明いただければと思っています。
1:11:15	伝達関数の改善点と、もう伝達関数の図を単に並べただけだと、ちょっとわかりにくいかと思しますので、具体的に、前回まで、
1:11:27	もうどこの部分があってなくて、要はどこに着目をして、工夫した結果、ここの再現性がよくなりましたってような、
1:11:35	どこに重きを置いて回せる言ったのかっていうのがわかるような形での説明をしていただけると、
1:11:41	これまで、
1:11:43	いろいろとてこずっていたのが、これ言って、大分良くなってきたんだなと、こういう観点で良くなってきたんだなっていうのが、わかるかと思しますのでそういった説明を、
1:11:53	加えられないかなと思うんですが、
1:11:56	イメージってわかりますでしょうか。
1:11:59	はい、原燃のオガセでございますイメージははい。伝わりました。わかりました。ありがとうございます。で、一応この今岸野さんがおっしゃったところのこういうところに着目して、こういうところの、何ていうんすかね手入れが必要だと考えましたみたいなのところの考えは400ページのところで、
1:12:18	書いているところでございますのでこれをきちんと9の同定結果のズーッと紐づけるような形にして説明してあげて、その上で今回の整理した結果に向け、ここが改善しましたみたいなのところは言えればいいのかと思いますのでちょっとそういう、
1:12:34	説明を追加しようと思います。ただちょっと実はこの資料作る時に旧の何ですかね伝達関数の結果とかもちょっと載せて作っていたらですねちょっと資料としてあっちこっちでござい、
1:12:47	すごく見にくい順番がわかりにくい資料になってしまったので、添付資料とか参考資料の形でちょっと別のところで、書きたいというふうに考えます。以上です。

1:12:59	部長の岸です。はい。お願いします。
1:13:03	対応すると表があっちってこっち行って見にくいていうおっしゃると。
1:13:07	今の資料、実はこの原水に限らずいたるところでそういう設備が見受けられてですね、ちょっとどっかになかなか困難なところがあるなど。
1:13:16	できれば全般についていえることなんですけれども、図表に基づいて説明を展開しているところというのは、
1:13:24	後ろの方に離れたページの図表とか読み込んでとかですね、参考資料とか、
1:13:30	もう読み込んだりとかって言うよりは、説明しやすいように内野代表。
1:13:35	図面、文章のすぐ下に持つてくると思うんですよね。説明の内容が理解しやすいようなことって言うのをちょっとデータをいただくと理解。
1:13:46	やすいかなというふうに思いますので、ちょっと関連してこの資料全般に、
1:13:52	保険証になっちゃいますけども、ご検討いただければと思います。
1:13:57	谷保険等でございます。承知いたしました。
1:14:01	規制庁の金です。
1:14:02	はい。先ほどの尾形さんのご説明の通りと、アノベッショタカギするかもしれないというのはそれおまかせしますので、先ほど言いましたように、前回までと比べて、その地盤モデルの設定を、
1:14:16	どうか、どこをどうかで結果伝達関数のどこがどう変わったのか、特にどこに着目をして、ここを合わせにいったところこうなりましたっていうのがわかるような、対比図、比較図といったものをイメージして、
1:14:31	資料を追加を検討いただければと思いますので、よろしく願います。
1:14:39	はい、元オガセです。かしこまりました。
1:14:44	市長仁木陳です。
1:14:48	ちょっと先走ってヒガシは先走ってるんですか、東側地盤についての確認は私は以上で後は、2点ほど、それ以外のところで、
1:14:58	あるんですけど、何かヒガシノジリについての方がありましたら、できますか。
1:15:03	はい規制庁浜崎です。では私の方から、これヒガシに限って、先日の
1:15:10	全員でもお話をちょっとさしていただいたんですが、例えば今回 441 ページに、
1:15:17	Cの周波数依存の形での同定結果ということで示されてますけれども、
1:15:24	この長周期部分の適用外ですね、について、今、授業まで来、聞かれてるんですけども、

1:15:32	長周期部分、
1:15:34	について、10 秒までこれ信頼区間といいますか、できる欠陥という判断 していいものかどうかなんです、その点いかがでしょうか。
1:15:43	はい。日本原燃のオガセでございます。こういった伝達関数使った同定 をやるときっていう時にはですねタテ、解析条件のところにも書いてた んですけど、
1:15:55	基本周波車の 0 技術から何十 Hz までというふうに徹底するのが割と一 般的な設定でございまして、長周期についてはある意味、今の話を言い かえれば無限に適用性があるというふうなところの設定にはなりません。
1:16:09	ただこの考え方につきましてはベシアのヤマザキからタカミチれると 思うんですけれども、長周期っていうのは種
1:16:17	わんぱくの中に入る波の数も少ないサイクル数が少ないわけですので そもそも減衰がほとんど効かない領域というところになります極長周期 というところは、そういうところもありますので、特にそちらの周期につ きましては、
1:16:31	効かない範囲であり、ありますので、適用範囲該当しなくても問題ない というようなちょっとそういうような話になっているというのが一般的な考 え方かなと思っております。さらに、この考え方の裏図形みたいなものな んですけれども、例えば
1:16:46	120 ページ、すいません違う 470 ページとか見ていただきたいんですけ れども、
1:16:54	これは長周期側の減衰定数の設定が全然違う日程減衰とリニア減衰 の伝達関数の比較になりますけれども、やっぱり
1:17:05	例えば 1 秒よりもさっきのちょっとこの間、0.2 個、1 回、1 に漸近するよ うなところにつきましては、やっぱり全く感度がないんですね、長周期側 というところの減衰定数の差がやはりこういうところを踏まえてもやは りいずれの手法につきましても、
1:17:19	いずれの林野等がバイリニアだろうがというところにおきましても長周期 側の適用範囲というところにつきましては特に縛りかける必要はない というふうな判断で分析の方を実施してございます。以上です。
1:17:30	規制庁阿部です。今は原燃の判断ということで理解はっていか
1:17:36	話を伺いましたけれども、
1:17:39	例えば 521 ページに既往の評価との比較をされているわけですがけれ ども、
1:17:45	既往の評価ではこれ既往のこれ、
1:17:48	私は緑川さんの論文からとか、聞いてると思うんですけど、既往の評価 では基本的には、その対象地盤と 1 地震動、

1:17:58	ここタカヤ振動数よりも長いところは、対象外とするというような観点で確か経営周波数のところを線を引いていないと。
1:18:08	いうふうに理解してるんですが、
1:18:11	原燃は、いや、結果的に影響がないから、研修版を
1:18:19	ひよ正門、
1:18:21	聞いてますと、
1:18:23	いう、今、説明と理解したんですが、そういう判断でよろしいんですか。
1:18:30	日本原燃のオガセでございます判断としてははい。今ハバサキさんおっしゃった通りのところだと思います。文系の話につきましても今野ハバサキさんおっしゃった通りの考え方はありますが、
1:18:41	今回の同定にあたって、そこから先が信頼できないかというふうなところの話でいったときに、信頼できないわけではないというふうに考えたので、
1:18:51	すいません。
1:18:52	適用範囲を、長周期側まで広げましたけれども、広げたというような考え方でございまして決してこれらの知見を否定するようつもりで言ってるわけではないあくまで我々の評価の目的に、
1:19:04	減らしての判断というふうなところでご理解いただければと思います。はい、規制庁浜崎です。先ほどの大橋さんの説明だと、長周期の部分のスペクトルはほとんど変わってないから、影響がないからっていうような、
1:19:17	それはあくまでも結果であって、こういった評価の、その信頼区間が既往の研究とは違う、ある意味判断をしようとしているわけですから、
1:19:27	そこはしっかり例えば 521 ページ、表施策等の観点で、表現は、低振動数についても、階層というか、いいますかですね、一定の、
1:19:40	信頼性を持つては、評価しますというふうにしっかりと説明してもらわないとある意味、企業の研究を指定するものではないと言ってもですね。
1:19:52	ある意味新知見といいますか、かなりこれ、非常に躊躇周期の構造物に対してどうだとかそういう話もありますんでですね、
1:20:03	ここ丁寧な説明が必要だと思ってます。
1:20:07	521 ページのところ等ですね、しっかりそこ考察を、今 521、中央ですけどヒガシですけど、その前の 519 ページと含めてですね。
1:20:19	しっかりと既往の研究との差異は説明をして、が必要だというふうに思います。
1:20:25	その準備の方よろしいですか。
1:20:28	はい。日本原燃の間瀬でございますかしまりましたきちんと既往の寺知見に照らした適用範囲っていうところをきちんとまず定義した上で、そ

	の上で我々の結果として影響がなかったというところの事実を踏まえて、その上でどう判断するか、そこも、
1:20:42	ガイソウ範囲としては使えますっていうふうな判断をするというような順番できちんと
1:20:46	期待をしたいと思います。以上です。
1:20:49	はい。規制庁新垣です。記載或いは考え方について我々の方もちょっと、しっかりと検討したいと思います。
1:20:56	あともう一つは、すいません。規制庁、伊井です。ちょっと、
1:21:02	確認なんです。
1:21:03	既往の知見に合わせて、この
1:21:07	分をカットしちゃうとすると、それはあれですか、計算がまずできないんですよね。ミズタ。
1:21:16	日本原燃の方で、今上出さんがおっしゃった計算というのは減衰定数の同定の計算のお話でございますでしょうか。はい、そうです。
1:21:29	減衰の同検討低であったりその伝達関数であったんです。
1:21:35	これ何かやるために、あれですよね。何か評価するだ何かのインプットになってるわけですね。
1:21:43	はい。日本原燃の加瀬でございます。こちら、関連するかっていうところで行きますと、
1:21:50	試験的に
1:21:59	0.5 秒から 0.5 秒よりも短縮というところで、
1:22:14	されますので、オガセさん、オガセさん、かなりもう、ブチブチでこっち聞こえてないんですけれどももっかいしゃべり始めてもらっていいですか。
1:22:29	はい。はい、しゃべります。今我々の解析としまして、応答スペクトルによる評価というところで地震観測記録のシミュレーションをやっております。
1:22:44	地震活動記録のシミュレーションで藤スペクトルで比較しますけども、この火急範囲とプロマネというところになりますので長周期に関しましても 5.2Hz、
1:22:58	A、
1:22:59	伴委員。
1:23:01	なぜ、5 秒ぐらいまでの長周期というところがございまして、やっぱり増収理想というのは我々としましたというふうなところになります。以上です。
1:23:16	規制庁カミデすべてを書くのに元素の範囲の減衰は必要だ
1:23:21	なんだけど、ねえ。

1:23:24	じゃあそれガイソウしなかったらどうなる。
1:23:28	スペクトルは大きくなる小さく、どういう判断ですか。
1:23:33	原燃のオガセでございます。衛藤。
1:23:37	ガイソウしない場合は、その周期体における地盤の応答解析が、
1:23:44	できないことになってしまうので、
1:23:46	やっぱりその応答解析をする上でもガイソウ
1:23:49	しないわけにはいかない、その減衰定数が存在しないというところにつきましてはちょっと、変更にも寝かせちゃうとかですね。
1:24:00	ナカセちゃう。例えば基本野瀬ちゃうまではナベタ、いっぱいあるけど、それ以上はよくわからないで、あとはもう寝かせた減衰でやりますとか、いろいろあると思うんですけど。
1:24:13	どんな感じでしょうか。日本原燃のオガセです。正直、あくまで予想予想でしかないんですけども、変わらないと思います。やっぱりこってほとんど調子。
1:24:23	長周期側っていうのは原石きませんので、変わらなが見込まれる結果だと思えますただ一方で、この周波数移動件数というところの算段というところにつきまして
1:24:35	短周期側で頭打ちする知見はあっても長周期側で頭打ちするっていう知見もございませんので、まずそれと整合を考えるとちょっとその設定をしちゃうのもちょっと乱暴かなというふうな気持ちはちょっとするなというところでございます。以上です。
1:24:51	規制庁の三角やりましたというか、
1:24:57	どの程度ガイソウ範囲がどれぐらいこうスペクトル 2 聞いているかっていうのを、
1:25:05	多分ないだろうだけで、以下とはちょっと思いにくいですね、もうちょっと定量的に何か説明があるとうれしいなと思いますけどね。いきます。
1:25:16	はい。日本原燃のオガセでございます。今スペクトルの話でお話ちょっと進めさせてもらったところですけども、同定をしている結果についても、ここに差がないのは確認していますさっきお見せした 466 ページのところでございますけれども、
1:25:34	このイマダで同定につきましては 0Hz からそういうところなんで町長長周期側まで含めた贈呈をかけているわけですが、そこに書い検討結果に与える差がないことは確認してございますので、そこも含めた評価として、なぜ監査、監査が入ってるか。
1:25:51	信頼区間を決めたというところに問題はないというふうな考え方は説明できるかというふうに考えてございます。以上です。
1:25:59	規制庁亀井です。

1:26:02	ある計算をしたときに、結果が出るから、大分別に大丈夫でしょっていう話と、あとは結果が出るんだけど、ここが信用できるかできないでカットしますっていうのもあって、最初はやっぱ、
1:26:18	まずは計算が出るんですけどっていう話だったんですけどそのあと信頼区間としても正しいんだって言ってましたけど、その信頼区間として正しいっていう根拠なんですか。
1:26:45	少々お待ちください。
1:27:18	日本原燃のオガセでございます。ある意味すいません検証的な形信頼区間が正しかったというふうなところだったのがあんまり良くなかったんじゃないかと思いました。
1:27:32	をですね。
1:27:33	ちょっとすいませんここは考えさせていただきます。ごめんなさい。元ノモトです。ちょっとオガセさんとちょっとごめんなさい。谷津瀬田ですけども、この
1:27:47	企業知見は、長書記側のところを、線ひいていないっていうのは、
1:27:57	これおそらくこの応急知見の検討に置いて、そのものの物理的な特性として、信頼が置けるか置けないかっていうような、
1:28:09	考え方で、おそらくここ線を引いてないという考え方に基づくんだらうなというふうな想像するんですけども。
1:28:20	今回我々の検討をする上においてその同定解析するとき、その長周期側は物理的に、
1:28:30	それが正しいのか正しくないのかということは、まずさておき、そこを計算範囲に含めないと、結果として、タイ物替えられないので、
1:28:44	計算の便宜上、入れることにしていると、いうことで、それが結局、そういう便宜表としてそこまでと。
1:28:55	でも良いのかということに対しては、結果的にそこを会社の形で取ったとしても、
1:29:05	最終的なスペクトルに効くような世界なり、全体俯瞰してみても影響するようなことではないから、それを計算の範囲に含めるような形で検討いたしましたって何かそういうふうに私は、
1:29:18	すいませんちょっと赤字だから理解したんですけども、そういうことではないですか。
1:29:25	はい。元オオハシですやってることはその通りです。
1:29:29	そうするとそういう考え方なんであるということ、
1:29:33	明記させていただくというのがこの相対になるようなイメージを私も確かすみません、またすいません。うん。規制庁、大家アノ。

1:29:45	そういう考えを明記してくださいって、さっきの私の借入からの話は、それって、そのアトベしての、うん、議会費。
1:29:58	本当にですね、していいんですか。なんかもう、エビデンスというね数量的な聞くと、結果として聞かないからそこを計算として含めていいと、その結果として聞かないというのは、これですよねと。
1:30:13	いう形で示せないかそういうことをおっしゃっていると。
1:30:18	今すみません衛藤オガセさんは伝達関数の引き合いに出して、今おっしゃったけれども、この伝達関数そのものは、
1:30:31	その長周期側のケースも含んだ形での、同定に結局結果結びついちゃってるやつだという気がして、
1:30:44	長周期側をどうとんでも変わりませんということの説明になってるんですかね私そこが理解できなかったんですけども。
1:31:01	すいません九州電力の明石です横から口挟んで申し訳ございません。
1:31:07	長周期側の話について今一連の話についてまず、信頼区間というものをどう考えるかって言う様は、
1:31:18	やっぱ後段の方のページにあった 500 呉 21 ページですかね、にもあった基本の知見なんかでもこれ多分、物理的に信頼できるできないというよりは、
1:31:29	どういいにあたってまさに特定するモデルとして、周波数として取れるのがこれまでと、どちらかというところから来てるんじゃないかなと思いますので、今回の同定にあたってそのモデルから、
1:31:45	かなり深い深部まで取ってるわけではないので本当に 10 秒 20 秒というような周波数についても同定できてるのって言ったら、そうではないと思いますので、
1:31:55	計算の結果として、データとして
1:32:00	減衰が元求めている周波数は講演ですよという、
1:32:06	整理はしなきゃいけないかなと思います。その上でその長周期の原資をどう考えるかということについてはこれ先ほど来オガセ君も、
1:32:18	話してた通り、それをその伝達関数の図で説明した方がいいのかどうかはありますけどもこれ減衰を 0.5% で取ろうが、例えば 10%20% でののか。
1:32:29	もう長周期は伝達関数でも応答スペクトルでも、線が別になってるかどうかわからないぐらいの差しか出ないので、あとは設計上の考え方として、
1:32:42	これ先ほど上出さんからご指摘あった通り信頼区間として設定できたところでタマウチっていう考え方もあるでしょうしそっからぎゅっと伸ばして外挿して考えるというやり方もあるんですけどそれは設計上、

1:32:55	どっちをとったところで、もう差は生まれないというのが明らかなので、これ
1:33:02	使い方悪いかもしれませんが設計書はあまり長周期のは気にせずに取り扱ってるっていうのが実態です。なのでそこがもう気にせずに取り扱ってるからそれでいいでしょうじゃなくて、
1:33:14	長周期については、まず、到底解析からえられる、まさに適用範囲というか信頼区間としての周波数対応はこうで、そのあと設計上設定上の取り扱いとして長周期はこう考えるということ、
1:33:30	しっかり整理して乗ればいいのではないかと思います。あとは、長周期でいろいろ減衰を変えたところでも差が出ないんですよっていうのは、伝達関数なり、オートスペクトルにできればこれは、
1:33:43	実際の同定結果というよりは、何がしかのパラスタパラメータスタディの中で、お示しするのが一番わかりやすいんじゃないかなというふうに考えます。以上です。
1:33:58	はい。
1:33:59	物損の説明等がありますので、
1:34:03	うん。はい。これだけじゃなくても気をつけてもらった方がいいのか、今の話を聞くと、同定できた減衰の、要は信頼できる性っていうのがまずあって、今度それを使ってスペクトルを作るっていうまた作業があるんですけど、
1:34:21	それに対しては、これだけじゃちょっと足りないから、追加の情報があるんですかというときに、この部分だけはすいません。
1:34:31	設計判断で改装したものだということがまずわかるようにしなきゃいけないです。519 ページはそれも含めて、同定結果みたいな感じになってるので、そこがわかりにくいですね。
1:34:43	わかるように思ってますので、それを示してもらってですね、このちょびっとだけ何か改造入って小さいっていうなっちゃうと、わざわざそのハラさなんかやれる。
1:34:56	必要もないよねっていう話がお互いの認識があるかもしれないし、でもこれぐらいだったらもしかしたらいいかもしれないがカワセようになるかもしれないっていうことでまたそこ
1:35:07	しっかりどこまでが出てきて、どこまでが設計なんかでなんでそれでいいのかっていうところをまず説明してもらおうんです。
1:35:22	はい、出野でございます。六ヶ所側どうでしょう。衛藤今野をご提案。
1:35:30	のに沿って検討ができるんじゃないかというふうに私はなんか思ったんですけどもどうでしょう。

1:35:38	はい。元オガセです今のお話で、はい。大体方針見えたと思いますのではい変えてみます。ありがとうございます。
1:35:45	はい。あ、あ規制庁浜崎です。はい。準備をお願いします。もう1点だけ私の方から、
1:35:54	444 ページ。
1:35:56	だから応答スペクトルによる評価ということで、これ前回8月のヒアリングでも言ったんですが、
1:36:04	減衰を周波数依存させるような場合の、16条の3K方法について説明してくださいってことを言ったかと思うんですが、ちょっと今日今回の資料にその記載が見当たらないんですけども、
1:36:20	具体的に、SHAKEではなく、SHAKEのような形でやってると思うんですけども、どういう方法でやっているのかを教えてください。はい。日本原燃のオガセでございますすいません記載したつもりで言いました書いているのが445ページの
1:36:37	パテに聞いているところの、六、七十あると0でございます周波数応答解析でやっているところでございます、さらに先ほどもお話ありましたところの件数定数のところの適用範囲外になっているようなところを外挿して設定していますというようなところを書かせていただいたところでございます。以上です。
1:36:56	田崎です。404
1:36:58	ページ
1:37:01	基本的には、議会としては、主軸と同じで複素減衰でただ減衰が周波数依存させているという理解でいいんですか。
1:37:20	日本原燃の大橋でございますちょっと私の理解力がよくないのかもしれませんが、本当今ハバサキ一定減衰を、振動数依存としてあったよっていうのはおっしゃいました複素減衰。
1:37:32	SHAKEは複層減衰なんで不安水の、
1:37:36	減衰を、
1:37:38	周波数依存させて、はい、以上です。
1:37:43	はい。日本原燃大橋ですおっしゃる通りでございます。そうです。
1:37:47	社長は滝井です。ちょっと445ページ。
1:37:52	からは、
1:37:54	もうちょっと、
1:37:55	丁寧にしてもらって、はい、日本原燃大橋です。すいません確かにフクダ減衰とかそのチェックのコウセイソク的なところまで、すみません全然踏み込んで書いてないのは、

1:38:07	その通りなので、規制庁、要はですね今後入力地震動算定のときに、例えばリニアバイリニアじゃなくてって、種は推定しますというのが多分落としどころだと思うんですけども、でも、
1:38:22	言い方としてはリニアとかバイリニアの方が、
1:38:25	合ってるとしたら、じゃあなぜそれで入力地震動算定しないんですか。
1:38:30	それって、ある意味、
1:38:34	周波数依存の減衰って、
1:38:37	昨日のその入力と算定ではあまりないというふうに理解してますんで、ある意味、そういったものよりも、既往の方法をベースにということで周波数一定ということで、
1:38:48	評価し、を考えるとかですねそういうプロセスになってくるわけなんで、そのためには、今、減衰の評価を通していいのかというところを、説明を、
1:38:59	してもらい必要があるというのが私の考えです。
1:39:03	日本原燃の間瀬です。よくわかりましたありがとうございます。今のお話踏まえたところのそういう、ここだけのやり方だけの話だけではなくて、後で例えば 526 ページなんかで、
1:39:15	その振動数依存性の扱い方についての考察なんかも 526 とかで書いてたりしますので、そことの繋がりを意識した上では、記載のほう拡充したいと思います。以上です。はい。
1:39:25	北崎です。お願いします。
1:39:27	私については以上です。
1:39:32	部長の岸野です。では、ちょっとその他の確認を、大きく二つさせていただければ。
1:39:40	ページでいうとちょっと 428 ページ戻っちゃうんですけども、
1:39:47	人数、こちら中央地盤の結果で、前回からすでに示されて、
1:39:53	2-2、伝達関数が不在となってって、
1:39:59	①から⑥という進藤区間っていうんですかね。
1:40:04	の図が載っています。これは地震計が震度方向に四つあってその四つの組み合わせを考えるとこの六つ分になるということなんですけど、
1:40:14	例えば左上の①番っていうのは、そうですね、これ表層時間についての一発関数で、⑥番、右下の⑥番っていうのは、解放基盤表面よりも深いところの伝達関数ということ。
1:40:27	なるほどと思います。今回のAID底させたい減衰定数っていうのは、表層地盤よりも下で、解放基盤よりも上、深度だったら、

1:40:41	この地震計のGL-18 からヤノー-125 メートルについて、減衰定数を贈呈させるというのが主目的であろうと理解しているんですけども、
1:40:52	その目的っていうんですね、長ソウノ01 とか、深いところの⑤とか、
1:40:59	もう、もう伝達関数を出して、おそらくここら辺も、
1:41:06	減衰定数もちゃんと観測に合うような、合わせ込みをしていく過程の中で、GL-18 から前野関 25 区間のものに決まっていると思うんですが、
1:41:20	その①とか⑥っていう、本来のターゲットとは違うところの、
1:41:26	同定っていうのが、最終的にこの欲しいと。
1:41:31	減衰定数にどう影響しているのか。
1:41:34	そもそもなぜこの表、表層とか深いところの伝達関数も同時に、
1:41:40	検討しなければならないんですか、その辺り。
1:41:43	考え方ないしこの検討のプロセス、震度区間取り方のプロセスというのをちょっと教えていただいて、
1:41:51	はい。日本原燃の加瀬でございます。まず岸野さんをおっしゃっていただきましたような今回求めたい地盤っていうのが、-125 から-18 の例えばこの図でいけば④のところ为主かなというふうなところの考え方。
1:42:04	これにつきましては実際の見るときにはここの層が合ってるかなってないかなというところで見るとは事実では我々としてもよく考えとしてやったりするところではあるんですが、この評価というのはそもそも1次元波動論に基づいてその伝達関数を合わせる必要があって、合うような地盤物性、来週研修所すぐどうこうするという観点です。
1:42:24	で、重複反射アノ地層内の重複反射というところをきちんと考慮したような形で全体を検討しています。ですので、今私申し上げた④の125 から-18 の伝達関数と言ってがありますけれども、
1:42:39	これも必ずしも岩盤だけの話岩盤だけを通る波による伝達関数の比率をとっているわけではなくて、やはり地表まで、①で書いてる領域、マイナス18 からマイナスみたい。
1:42:50	も通って反射してきた波もしくはそれがコウチョウクハンシャ繰り返されてる波みたいなところもきちんと入ったような形で入っています。
1:42:58	イクノでやってる三つの、このゾーンで伝達関数を合わせているっていうのは、やってることとしては、減衰定数としては右側の左側か。
1:43:08	の表のところでありましてけれども、この全部の層を同時に同定しているというところでございます。ですので、これたとえ、例えば極端な話をしますと、もう地表はもう適当で、あまり
1:43:19	合わせにいけませんみたいなことをしてしまうと、それはそれで当然このナカノば減衰のバランスとか、あと速度構造、非現実的なところを見てし

	まったりとか、そういうふうなところが起きてしまうというようなところはよくある話でございまして、
1:43:34	ここを上から下までの伝達関数を重複反射込みで合わせることによって、各層全部について、それなりの説明性のあるものが出てくるというようなやり方だというふうに認識してございます。これがまさにこの鉛直アライであれ、複数の地震計を使うというような、この電気関数の方法の強みだと。
1:43:52	思っておりますので、これは必ずしもやっぱりこの層だけに着目してやるとか、他の層は示さなくていいないしアノ合わせなくていいというようなところにはならないというのが思っているところでございます。以上です。
1:44:08	表層、
1:44:10	なるほど。
1:44:11	伝達関数を評価しなければならない。
1:44:16	理解しました。丸井。
1:44:19	もう、図を中心にここが一番合うように、なるほど。一番重きをですね。他はまあまあそれに追随して何となく、
1:44:30	いうふうにすればいいのかなと思ったんですけども、そうでもないです。やはり全体としては合ってこないと、この④番、鷺尾さんもいいよね。もうあやしい結果になってしまうという、ご説明だったのかなと思う。
1:44:43	鳥居君。
1:44:47	が、その理解でいいですか、計算。
1:44:50	はい。日本原燃の間瀬おっしゃる通りの理解でございます。はい。
1:44:55	これ全体が大体合ってくるよっていう場合も、100万円。そこに着目して例えば①番だったらこの辺りやればいいよね。
1:45:06	この辺りに見せてもいいよねとか、④番は、特に今回ターゲットなんだけど、別にここに力点を置くわけじゃなく、その他と同じような意味でやっぱりここが、
1:45:17	合ってるんですけど、この辺り切り捨てていいよねってというような判断があったかもしれないんですが、その全体が大体よく合ってるねって、判断するための着目点と判断基準っていう、あるんですよ。
1:45:32	はい。日本原燃のオガセでございます。正直こっついても悩ましいところではあるんですけどもやはりコアてる合っていないの正式というところは どうやってすいません
1:45:43	その正式の基準というものがあわけではありません。ですのでやっぱりここで我々として見るところとしましては、やはり地盤の一次のピークとか、ニシノピークそういったところの明瞭にヤマダになってるようなとこ

	ろがきちんと再現できているか、少なくとも、一次の固有周期とかの、横軸が桃井桐山の位置がずれているというそれはやっぱり地盤の振動特性を、
1:46:03	うまくとらえてないよねというふうに判断する判断したりもしますので、そういったところの、割とあの中から、長周期成分の山を設定した上で、ごく短周期側のところにつきましてレベル感がいきなりどんと落ち込んでないかとかそういうようなところの、
1:46:18	見方でもって確認をすんですので適合しているかどうかというのを、さらに裏付けといいますかそういうようなことになりますけどシミュレーションでも確認しているというようなというような位置付けになってございます。以上です。
1:46:30	規制庁の金です。はい。おっしゃってることは大体理解できて、
1:46:34	多分、この区間がこれぐらいの比率に収まってなきゃいけないって言ったような、数値的なあ、決めっていうのはないんだろうなというのは思っているんですが、
1:46:45	当然、どこに着目してそこは特に合っていないとおかしいと、ここが合っていると、大体再現性があるっていうような評価ができるものだろうなと思いますので、
1:46:56	その考え方っていうのを、ちゃんと説明していただきたいなと思って、
1:47:02	427 ページはずっと
1:47:05	どこが攻略
1:47:07	っていうようなことが書いてあって、前回までと比べると確かに説明が具体的になっていて、よりわかりやすくなってきたかなと思えるところもありますが、
1:47:19	上の1ポツ2ポツのあたりってのはほぼほど手付かず。
1:47:23	状態で、なかなかちょっと具体性を持って説明されてないところもまだ見受けられるなというところありますので、そういったところがですね、
1:47:33	着目的に判断基準の説明っていうのをより明確にしていきたい。
1:47:39	と思いますが、まずその点もよろしいですか。
1:47:42	はい、原燃の大橋でございます。かしこまりましたあの私が先ほど申し上げたような地盤の、もう大まかな特徴というかそういう、速度構造のを規定する、に規定されるのがやっぱり一次とか二次とかの長周期側のピークだと思います。
1:47:57	短周期側のピークというのはやっぱりぎざぎざが細かくてですねどうしても細かく合っているかどうかというところの判断は難しいですので、今申し上げたような長周期側のピークというところが、その中央地盤の地盤

	の特徴なんかとも照らしてちゃんと同じになっているとかそういうようなところの判断。
1:48:12	これで合ってるんだというふうに判断した判断フローという考え方ですかね。そういったところをちゃんとはい。今の、その図ついているところのマイページのところの1ポツ目とか、そこに記載したいと思う。
1:48:23	以上です。
1:48:24	社長の岸野といい、まず申し上げたことについては伝わったかなという気はしたんですけども。
1:48:31	今、岩月の中にはですね、中央の特徴をとらえてとかっていう、そういった観点での評価考察ってのも大事なのかなと思っていますので、
1:48:42	427,428.00
1:48:46	載ってるってのは中央地盤ですけども、後ろの方に東側地盤の結果も同様に出てきて、
1:48:53	それぞれその地盤の特徴をちゃんととらえているのか、これまで説明を聞いているところだと、東側地盤は中央に比べて表層地盤がやわらかくて、なかなか難しくってという話があったかと思うんですが、
1:49:07	そういったヒガシの地盤のやわらかさといったものが、企業に比べると東側ではちゃんと、ちゃんとといいますか、
1:49:13	やっぱり見てくれるねっていったことがいえるように、入力した地震動ですね、特徴をちゃんと反映したような形で例えば徴収しているのが少ないんで、短周期の卓越してるみたいな。
1:49:26	こういった観点で、地震発生の特徴をちゃんと表現できていてこの伝達関数がどうだねっていうようなことをいえるのかという、そういった観点で、一つ一つの図についてというような、
1:49:38	事業については、或いは東側については次は総じての評価になるかと思えます。そういった観点でも、今回の結果が妥当であることの説明っていうのも、
1:49:48	ある意味考えたいなと思うんですけども、
1:49:52	そういった説明を追加することは、
1:49:56	可能かというか、まずそういった目で見ているかという点でちょっとまずは考えてください。
1:50:01	日本原燃宇津かしこまりましたそういった目線で言うべきだろうなという意味で先ほど中央の特徴というふうに見ました。また今城長さんおっしゃったように表層の厚さとか、
1:50:12	お話しきましても例えば428ページの中央の浅いところなんてのは結構耐震改修機側に1イワサってるだけで、いわゆる表層によくあるような、ちょっと中長周期側で変わるところ。

1:50:22	データが下がるような山が見れないとかそういうふうな特徴も東側と中央の相対的な競争の分布の違いとかも含めて見えるような、何か文章のアイデアが出てきてる。
1:50:33	出たんで、そういうのもちょっと期待したいと思います。以上です。
1:50:37	規制庁浜崎ですちょっと今も関連するんで、私の方から、今 428 ページは、確かにはぎとり地盤に関しては、1 角山要素の表層のVsがそんなに軟らかってないわけだ。出野、いわゆる中央のつぺりした地盤なんですけども、
1:50:54	実際の中央地盤に立つものは、支持岩盤の上いわゆるめどがあるわけで、これVsにするともっとやわらかいわけですよ。
1:51:08	はぎとり地盤とそういう違う条件の地盤条件の実際入力地震動の算定においても減衰評価では、問題ないといいますか。
1:51:18	このはぎとり地盤の減衰を使って問題ないという、まず理解でいいんですよ。
1:51:26	はい。元の松井でございます。今ハバサキさんおっしゃった通りでございます。きちんとこの地震計のうちの表層のところの硬いナラハタ地震計の位置が社会ナカタニなりの表層を込みした込みにした上での、
1:51:38	重複反射を考慮した岩盤部分の減衰定数っていうのは、やっぱりこの上から下まで全部出た上で、視野であれば、ここ、ここまで全部そろった上であれば、この中の岩盤自然のところの、
1:51:50	岩盤の部分の減衰定数っていうのは適切に評価されているというふうに考えておりますので、最初の方のご指摘でもありましたのは汎用性があるかというような確認をした上で、上に埋戻し動画乗ってる場合であろうとこの岩盤の減衰を使ってもよからうというようなところの話に持っていくっていうのは、
1:52:06	特段おかしな話ではないというふうに考えてございます。以上です。はい、規制庁ハタケ最終的には入力地震動算定用の地盤モデルの減衰の設定が妥当かどうかということですので、
1:52:17	そ、そこのターゲットに向けた考察なり、書類の資料の作成ということで、準備の方をお願いします。
1:52:27	はい。元オガセです。かしこまりました確かにおっしゃる通りですね、設計における、
1:52:32	地盤との違いみたいなのも踏まえた上で背弧が岩盤部分がちゃんと求まっているかどうかということの、記載が必要だというふうにしましたので、こちらは経緯です。
1:52:47	規制庁の岸野です。関連してなんですけども、先ほど 427 ページからですね、着目点とか判断基準とかをより明確にしてくださいねという、

1:53:00	話をしましたけれども、
1:53:02	それに関連してですね、427 ページの 1 ポーラー名の文章を見ますと、
1:53:11	建物構築物の固有周期体として 0.2 から増えて、300、
1:53:16	やってここに着目してますよっていうんですけど。
1:53:19	3 パラ目ですと、建物の固有周期体として、0.3 から 0.5 という形です ね、ちょっと着目してる範囲とか、いわば、
1:53:29	判断を休み変わってきているようです。
1:53:33	感じもします。
1:53:34	4 パラだと周期が 0.1 秒付近って書いてあるんですけど 1、1%だと周期 0.2 分の短周期があったような形で、その図の見方を変えてるような記 載になるんですね。
1:53:46	やはりこの点っていうのは、幾ら決まったものがないと言ってもその都 度その都度大丈夫、いいとこどりをしてるかのような、説明するじゃこっ ちはどうなんだって聞かれたときに、
1:53:57	やっぱ答えられないみたいなことにはならないですね。
1:54:02	ケースケースで見る場所を変えるっていうんだったらそういう説明で結 構です。そこら辺は、単にフナツくんじゃなくて、しっかりした考えを持っ てやってることだということです。
1:54:13	単なる不整合だったら、適正化するよということ、
1:54:17	適正化をしていただきたいと。
1:54:20	まず、
1:54:22	なぜこの点よろしいですか。
1:54:24	はい。ギアの元のマツムネ申し訳ございません。私がいつもヘルツで考 えるもので 3 から 5 って数字が頭に残っちゃってたもので、本当はこれ はすいません、0.3 から 0.5 ではなくて、0.2 から 0.3 秒の誤りでございが 正しい数字になりますので、
1:54:38	きちんと統一した考えでやってございますが資料として不備になってし まいました申し訳ございません。きちんと修正した上で、今お話いただい たところの話を踏まえて、こういうふうな形で考察してますというふうな形 に見えるようにしたいと思います。申し訳ございません。
1:54:53	規制庁の岸です。はい。お願いします。
1:54:56	で、藤下から二つ目の、
1:55:07	コサクさん、大学から、
1:55:10	すいません。あと事例としてですね、年くちばし他の
1:55:15	なんかでもですね、周期 0.1 秒付近で若干の乖離があるものの、
1:55:20	吉年ているような説明であったりとか、

1:55:24	へえ。
1:55:28	一番最後、
1:55:29	感度は有していないっていうような結果が出られて、
1:55:33	これは何を示しているのかわからないといったところもありますので、そういったところをちょっと全体に直していただいて、
1:55:42	何に基づいて判断したのかっていうのがわかるように、
1:55:45	説明の方していただければ。
1:55:50	はい、日本原燃オガセですかしこまりました。
1:55:58	モリ 364 ページ。
1:56:01	お願いしたいんですが。
1:56:05	この表の一番したかですね、その他となって速度層断面による検討という項目を挙げられています。
1:56:14	その説明、右側の説明を見ますと、
1:56:17	速度層断面については岩盤の物性値等により整理されるため、ここで整理された。
1:56:24	所ソウノ加来
1:56:25	る傾向と、上記、
1:56:28	並びに調査結果の対応を確認するってあるんですけども、
1:56:33	これに対応する説明って本市ユーザーが、
1:56:36	それっていいですか、該当するのは 517 ページかなと思ったんですけども。
1:56:41	この 364 ページの説明に対応した中身は、
1:56:45	この説明がどこにあってどういうふうに説明され、
1:56:50	以前のオガセでございますこれにつきましては、今思っていることとしましては、岩石コアとセットで考察に使うものだというふうに私は認識して今書いております。
1:57:00	やっぱり岩石コアの結果がとある高で深さ方向にボコボコ複数出てくるわけなんですけれども、それが果たしてそのソウノ、あそのPS検層のVsの深さ分布と対応しているかどうかとかみたいなどの観点で見れるかなというふうに思っております、これあの確か 9 電さんも同様な検討をやられていたので、
1:57:19	そういうふうな意味合いで今回は書いておりました。なので今はちょっとこの速度層断面による検討という結果はこの資料の中では入っていないというところになっています。でも確かに、
1:57:29	解釈をもうちょい広げれば先ほど佐野記者さんもおっしゃっていた只野サトウさんの論文の企業との速度との比較とかもあると思うのでそれも

	ちょっと含めた形にするのもなくはないなというふうに思った次第です。以上です。
1:57:42	村長の金です。えっと、まず 364 ページの表の位置付けというのが、検討内容を示してないので、
1:57:50	これが、今考えてるまだ計画段階で、今後追加しますと、現時点ではまだありませんということであれば、それは表外の外の注記とかですね、ちゃんと補足をしておいていただかないと、漏れがあるんじゃないかなという。
1:58:04	思いますのでそういう対応をお願いします。
1:58:08	で、
1:58:10	9 年のやり方に必ずしも合わせる必要はないかもしれないんですけど、9 電の玄海仙台は岩盤部分の速度層断面ってのは、既往のケース検層で大量に獲られている、PS検層Dだから、
1:58:24	敷地全体の速度層の境界線を引いて、
1:58:28	それと、追加でやったPS検層の代表やっていたような記憶が私あるんですけども、そうですねと何か認識が違う。
1:58:40	九州電力の明石でございます。給電限界でやってたこの速度層断面による検討っていうのは、今ちょっと岸田さんがおっしゃったDISケースのデータに基づいてという話とは、
1:58:53	別に既往のケース検討Dたも敷地の深さ 200 メートルいっぱいありまして、さらに追加ボーリングを同じく 200 メーターまで突破
1:59:06	で
1:59:07	ですけども、それより深いところを、
1:59:13	との連続性連続性で共通性がありましたり、要は 200 メートルより深いところについても、
1:59:23	いわゆる速度層断面、これは速度層断面というか速度層自体が変わらないので、減衰としてはその直接的なPS検層なり広義のデータ替えられてないところ、
1:59:38	でも一緒、そ一緒ですよそんなに変わりませんよねっていうそういう相対的な論じ方として速度層断面を使って論じております。
1:59:49	で、岩石コアについては、そういう今度はボーリングデータがある範囲、の話ではありますけども、直接的な減衰の数字がえられてるところは限られるんですけども、
2:00:03	直接的な減衰がえられているところと、見えられてないところ岩種機構を分析してみると、違いはないので減衰は一緒と考えてもいいですよっていうような使い方。
2:00:17	として、使ってたものでございます。

2:00:24	以上です。はい、規制庁の岸です。ありがとうございます。確かそうだったというのを今記憶
2:00:29	ドイスズキ。
2:00:30	そうする等、先ほどの小形さんのご説明はここで言ってるノザキコガから分布状況を見てっていうようなご説明だったので、特に9電でやろうとしてる時は少し違うものをオガタさんイメージとしてお持ちなのかなというふうに、
2:00:44	理解しました。で、必ずしも、9電と同じ手法、同じプロセスをとらなきゃいけないと。
2:00:51	思っていなくて、今回のその目的ですとか、或いは項番と何の違いかというの、保安特性の違いなんかも踏まえるとちょっとやり方を変えますよっていうのはもちろんありかと思しますので、
2:01:03	そこら辺は、どうも今お話を聞くとあんまり、
2:01:08	その中身についてしっかり固まってるような感じでもないなと思ったんですけども、今後やるということですので、今後どういうことをやるのかっていうのはもう明確にした上で、364ページの記載は適正化して、
2:01:21	どの段階でやりますっていうような、補足も、追記した上で、ちょっと説明を加えていただければと思います。かしこまりました。今のお話踏まえての修正は行います。あとは
2:01:38	やり方自体も9電さんのものにとらわれず、何がサイトとしての特徴とか我々で出したい範囲とかの、あと地震計はここまであるとかないとかっていうところも9電さんの状況が違ったりしますので、その辺を踏まえて我々として必要な評価っていうところをもうちょっと具体化して、はい。
2:01:55	あとは中期なんかで、なんていうかステータスというか、そういうものを期待したいと思います。以上です。
2:02:00	すいません。9電のアカシです。今、先ほど私しゃべってたことし、間違えてたっていうのちょっと気が付きましたんでちょっと訂正いたします。速度層断面による検討私アノ200メートルまでと200メートルよりも深いところで言い方しましたけども、
2:02:17	すいませんそこではございませんでしたので、ソフトする断面自体は、200メートルまでの範囲でいっぱいPS検層のデータとしてえられてさらに、
2:02:27	追加でボーリングを掘ったんですけども、減衰の数字自体は浅いところで限られた範囲でしか撮れてなかったんで、
2:02:38	その浅いところの減衰のデータについて、ボーリングも含め、追加ボーリングを含めて取得するとともに、もう深井角栄。

2:02:47	いえ。
2:02:48	特に 100 メーター程度よりも深いところについては特に観測記録から同定したりは、観測記録とれてないので、できなかったんですけども、浅いところと深いところ 200 メーターまでの範囲で、
2:03:00	速度層を自体が変わらないので、そこはその減衰として一緒にいいと思いますという説明の仕方において使っておりました。すいません、訂正でございます。以上です。
2:03:12	はい。規制庁の岸です。わかりましたそうですねちょっと私もこんがらがってましたけど、確かそうだったなというふうに今思い出します。
2:03:23	はい。ありがとうございます。で、そういった条件の違いもあって必ずしも、9 電の方法プロセスにならなきゃいけないこともないですよと申し上げつつもですね、
2:03:33	前例は前例としてありますので、説明材料として、説得力ある手法であるということでももちろん活用するということも念頭に置いてですね、
2:03:45	金、このあたりの説明の方、今後ちゃんと充実していただければと思います。
2:03:52	はい。はい。かしこまりました。
2:03:56	規制庁の木曾です。私から確認したかったのは以上になります。
2:04:01	てる状況ですとか、厳正関係もあって、特にその 5 分の時間で、明石さんっていう、
2:04:11	規制庁本木ですけども、明石さんはもう午前中で退席されるので、よろしいですか。
2:04:20	九州電力の明石でございます私基本的に僕も参加いたしますが、どうしてもですね、16 時ごろから 30 分程度、ちょっと席を外さざるをえない時間体がありますので、
2:04:33	それ以外、後はそれが終わりましたらまたヒアリングでも取りますので、僕も基本的に参加させていただきます。はい。以上です。はい。規制庁浜崎です。はいちょっと契約勸奨の件で大橋さんも含めてお聞きしたいことがあるんでまたじゃあどの位置でお願いします。
2:04:52	残っちゃう。
2:04:53	ごめんなさい、955192 は、
2:05:04	九州電力のアカサカ 10 時半ぐらいからですね、引き取ります。
2:05:13	振替作業。
2:05:17	まずは午前の部は閉めたいと思いますよろしいですか。はい、じゃあどこの会社です。

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	それはあまり。
0:00:01	規制庁深見です。それでは午前のヒアリングに引き続いて、オオクボ
0:00:08	永で午後はですね、まず先に進め方のヒアリングをしてまた耐震の耐震 タテノムラハシモト。
0:00:16	いう形で進めます。出席者の入れ替えがあったので、まず規制庁側か ら、本庁会議室から、方のアライタケダカミデオクえてコサク調査。
0:00:28	修正します。ウェブからヨコヤマforオオハシフジワラが規制庁行う出席 です。
0:00:38	それでは原燃側から出席者と、資料の説明ですので、よろしくお願いま します。
0:00:47	はい。日本原燃事務局の仲間です。
0:00:50	今後の進め方のメンバー調査終わりましたので、改めてご紹介いたしま す。
0:00:56	Steeringチームより、
0:00:58	ケツク、
0:00:59	ハセガワ、
0:01:00	ノモト、
0:01:02	イシグロ、
0:01:03	タカヤイシハラ。
0:01:05	次、
0:01:07	事務営業部から事務局ボックス及び再処理の事務局、参加させていた だいてございます。
0:01:15	それでは、今後の進め方についてご説明を開始させていただきます。よ ろしくお願います。
0:01:22	はい。弓削西尾でございます。それでは、10月5日付で提出をさせて いただきました今後の進め方の必要
0:01:30	つきまして、
0:01:31	説明をさせていただきます。
0:01:33	前回からですね1ポツ、先回の進め方、前回別添1でつけたものを、ど ういうふうにどういう順番で進めていくかという大枠のところを、まず1ポ ツとして示させていただきました。
0:01:46	結局は別添13ページに書いてある図の123に進めていくということ。
0:01:55	1の中で、今優先的にやっているのが、2-1、朝、2-2とかですね計算 の関係についてくる入力地震動の策定というところを、
0:02:07	まずは優先して進めさせていただいているということ。

0:02:12	ございます。
0:02:13	加えて、入力地震動の策定部分が第1回で終わっているも複数として、共通中に2の2ポツの話ですね。
0:02:24	構造設計等の話を進めさせていただいていると。これが今平行して走っていただいているということでございます。
0:02:33	また、最初に廃棄物管理も1ポツが終わる前にですね直接か影響しないような範囲については、先ほどあったMOXの共通にとっては2の関係の中で合わせてものを進めていきたいということで、
0:02:49	今の共通要因関係の説明グループの設定ですとか、溢水化学薬品竜巻に関する共通に入る場合に整備が必要な事項と、
0:03:00	いうのを整理させていただいているということでございます。
0:03:04	2ポツの中には、解析評価等の話もありましてこれ、今日の別添3をつけておりますがこちら、
0:03:13	並行して形を作っていくとですね2-2の話が結局2-1に目的、影響が出てくる範囲もありますので、
0:03:22	どうやって整理をしていくかということと並行して、厳冬のを進めながらご説明をさせていただく。
0:03:30	ということで考えております。
0:03:32	それぞれで申請書に書く設計方針ですとか、申請書離隔評価方針評価結果というものにどんどん紐づけをしていって、最終的には00資料の反映、申請書への反映とか、
0:03:47	いう流れで進めていきたいというふうに思っております。
0:03:51	1ポツの大分項目をブツブツと書いた時になってますので次の段階ではもうちょっと全体の流れがリンクがいい形がわかるように、
0:04:01	ブラッシュアップをさせていただきたいと思っております。
0:04:05	1ポツの全体の進め方で今、歩道、優先的にといったものが正しく、2ポツの今後の審査会合での11月11月の案件に繋がっているというふうに整理をさせていただいてございます。
0:04:19	10月11月の審査会合のアイテムは特段前回から変更はございませんで、次のページの3ポツのところ、
0:04:29	3ポツ3ポツ2、前回の2ポツ3としてたところ全体、今ほどの全体の進め方の中のそれぞれの個別のパートの活動状況と、
0:04:40	ということでA3の中でそれぞれ項目を立てて、
0:04:44	現状ということと当面の進め方と、
0:04:47	ということで整理をさせていただいてございます。
0:04:51	3-1のところについては、特に今、二つ目のポツのダイヤモンド型の三つ目。

0:04:58	これが昨日もヒアリングをさせていただいた、要求事項を踏まえた構造設計等々解析評価等の説明事項の仕分けですとか、
0:05:06	DSN共通事項の整理といったものをやらせていただいております。
0:05:11	これも今、館野鬼頭科学溢水というのを走らせてますが昨日の話も含めると、
0:05:19	この流れとして、エポックやんなきゃいけないタスクとしては、枠として四つあると思ってまして。
0:05:26	まず全体としてSAの整理をちゃんとやらないといけないということ。
0:05:30	あとは竜巻一斉か客員の二つは今まで走っている通りなんですけどそれ以外に説明グループ1は、竜巻だけではなくて外部事象も含めて他の、
0:05:41	事情についてもDBの設計項目の整理というのはやらないといけませんので、それも同時並行的に進める必要があると思ってますので、
0:05:50	優先事項としてはSAの要求事項の整理と、竜巻以外の説明グループ1に関連する事象等のDBの設計項目の整理、
0:05:59	あと井清化学薬品のDBの設計項目の整理というのを優先的に走らせて、SAの整理が終わった段階で、それぞれ全体に対してBSM紐づけの整理を詰めていくと。
0:06:12	いう流れで検討を進めていきたいと思っております。
0:06:16	昨日の今日ですいません文字にできてませんが全体として機能もどう進めていくのかということの宿題については、そういう進め方で90名を決めてやらせていただければと思ってございます。
0:06:29	はい。あとは、二つ三つ目のポツですね。マルで、2-2の話、これも、
0:06:36	今日、別添
0:06:39	2 イダにつけさせていただきましたがまだちょっと整理が、
0:06:43	十分できてないと思ってまして、今後も継続的に整理を進めて、11月の審査会合につなげていきたいというふうに思っているところでございます。
0:06:58	の進め方の具体のところでございます。
0:07:01	この流れは前から記載といいますか目標の日程等をそれから項目等に記載変更はございません。両括弧1で机上検討を進めて参りまして両括弧2物が本、
0:07:14	それから資料(3)で、それらのデータを踏まえまして一番フジタ=サカウエたってって今日一番問題設定で今回ですな両括弧4でその入力地震の策定に結びつきますのでそこまでの流れを最後まで書くと、
0:07:29	この形で情報を出しては参りました。日程等は先ほど申し上げましたように、特に変更ございません。以上でございます。

0:07:40	はい。
0:07:44	来まして、
0:07:46	多分できた方がいいですか。
0:07:49	はい。
0:07:51	規制庁菅です。では1ポツ後関心理屈だと思います。
0:08:07	五つ制服ですけど、
0:08:10	1ポツの最初のポツの
0:08:16	耐震計算を行いその結果を3-2に展開するっていうのは、
0:08:23	3ミイ、オク12T.カセスズキ
0:08:27	わかんない。
0:08:28	どういうことを考えて、
0:08:32	はい。はい。まず、
0:08:35	この表現が001すぎてて、2ポツって言ってるけど、2ポツ12ポツに、2-1、2-2があって、
0:08:48	2-1。
0:08:50	と事業には全然筋が違うので、
0:08:53	丸めて書かれてるのかわからん。
0:08:56	いうこと。
0:08:57	がまずあるわけですよ。
0:08:59	特に前回もお話しましたが、今1ポツでやっている地震動の策定は、
0:09:07	極論言うと2-1は関係しないんですよ。2-2になってくると関係するけど、
0:09:12	ということなので、
0:09:15	それでの前後関係とかを話をして欲しかった。
0:09:20	その上流が整理できたら当然2-2-C、
0:09:26	そいったらサノに行くっていうことなのはわかる。
0:09:30	ので、
0:09:31	そんなのは書かなくてないっていうぐらいになって、
0:09:37	まずそのステップを明確にしてください。なのでいきなり耐震計算とか入れない。
0:09:43	その前に構造設計なりなんんりの2-1の説明をしっかりしてもらわないと我々は聞けませんと。
0:09:49	幾ら地盤モデルができたって聞きませんよっていうことなので、
0:09:52	その工程を1回、
0:09:54	作るという意識を持っていただければと。

0:09:57	ます。
0:10:00	はい。
0:10:03	はい。
0:10:09	そういう意味だと。
0:10:11	はい。
0:10:12	地震動とかFRSができ上がらない等、
0:10:16	2-2に行けないから、そんなことはない。
0:10:21	2-1、2-2ができて、
0:10:23	で、
0:10:24	それに地震動が押されれば、アノさんに、それは3ページに書いて、はい。
0:10:30	一方で1発って地震動だけじゃないでしょうけど、
0:10:34	まず施設
0:10:36	のものがありますか。変更したのはどこですか。そうですね。そういうものがあって2-1の設備。
0:10:45	2-1に進むわけじゃなくて、資料になるわけだから、資料1で、全体があり、どんな変更がありますから、どんな要求を測ってますかっていう整理をした上で、
0:10:56	これは構造設計で説明します。これは評価で説明しますというのが1ポツの辺りで整理があり、2-1-2、
0:11:06	ことなんだと。
0:11:07	そういうことが、整理してくれるかもしれない。何かあまり体はないんですね。
0:11:16	コサクです。
0:11:18	今、上出が言ったように別添1の3ページに行けばそうは言って、はい。はい。
0:11:26	あまりその文章、
0:11:28	言いたくも、
0:11:29	なので、はい。はい。書くならない。
0:11:35	ヤギニシダでございます。はい。それぞれのバトンの渡し方みたいのがちゃんとイメージがわかるように、はい。担当部長は、はい。もうちょっと伺います。はい。
0:11:48	はい。
0:11:49	そうです。なんかそういう感じだと一番つらい。あんまり。
0:11:55	すいません。ちょっと言葉じりを掘っていてもしょうがない。他の方。

0:12:03	古作です。なので、言葉じりは言いませんけど、全体像を示せということをお話したので、
0:12:14	文章を変えていったんだと思うんですけど。
0:12:19	今みたいな感じのことが書いてなくて、妙に分割して書いてあって分量が多い。
0:12:25	ということで、何、何でこうさんだっけってわかりにくくなってるので、その別添1で書いてある趣旨を単純にまとめて書けばいいよ。
0:12:35	てってということだと思います。
0:12:39	で、1ポツそんな感じで、2ポツは、
0:12:46	前も書いてあった部分はそのままあれなんですけど、結局その後って言ったところの計画が大事で、
0:12:54	というのは結局何もしてないから意味がないんですよ。
0:13:00	それって、
0:13:03	今言えないって言う古藤の表現なんだとすると、いついえるんですか。
0:13:10	はい、西田でございます。そうですね。はい。
0:13:16	その後土肥っていうのも、いわゆる地盤の話と、2-1に係るものであったりのに関わるもの、ごめんなさい、時間忘れましょう。わかりました。はい。はい。
0:13:28	それは言えないのわかっていて、年明けに分析をした結果を踏まえて、全部聞いて。はい。
0:13:35	ということなので、そういうふうには、ここには書いてないです。そう。別の場で言われてるので、それはいいんですけど。
0:13:43	今言ったように、2-2なり、
0:13:46	見直すは峰さんに行かないだけであって、手前でやれることがいっぱいあって、それをどう進めるんだって聞いているのに、いや地盤はって言うてもしょうがないんですよ。
0:14:01	その積み上げをっていうのをいついえるんですか。
0:14:05	はい。稲毛ニシダでございます。はい。そうですね。そこも宿題になって考え、認識をしております。はい。
0:14:13	現状やっている、いろんな立場で走らせていくもの、あと結局はそのタスクもやっていることは、資料3が実際手元にはない状態で幾ら、
0:14:23	こねくりまわしても影響が整理できない状態の中でやっているのもその
0:14:28	積み上げの状況も含めて、
0:14:32	示させていただきます。はい。
0:14:35	特に最初に側、いっぱいパーツがあって、どう進めていくんだと、いうことも、まだ全体動向、

0:14:43	一つのパーツ見せない場合は、
0:14:45	はい。
0:14:51	最初には数多いといっても、累計を6でしたっけ、というのはさすがにちょっと物量感をイメージするとわかりにくくて、
0:15:02	それぞれ、特に屋内機器ですかね、はい。
0:15:07	のところっていうのはその内数の中で説明しなきゃいけないことっていうのはかなり多くて、はい。その中でまた類型が必要なんだと思うんですけど。
0:15:17	といってもう容器配管、特殊な機器ないぐらいですね、いう大枠捉えればそんなに、
0:15:27	細かく説明しなきゃいけないことっていうのは多くないはず。
0:15:31	なので、
0:15:32	そのあたりを早くつけるっていうことが
0:15:36	線表を引く上では大事だろうな。
0:15:39	いうふうに思いますので、
0:15:43	それ以前に、MOXIは1000引けるとか数少ないような、
0:15:50	いうことでいいけど、はい、現状では、グローブボックスを仕上げた上で、
0:15:55	その周辺という機器を言うだけでも、
0:15:59	まだ右往左往おっしゃっていて、ちゃんと軌道に乗っていない。
0:16:03	ということなので、昨日話をしたところですね、作業方針的なところをクリアにしている、
0:16:14	浸透していったところでようやく実際の、はい。
0:16:19	かかる期間が見えてくる。
0:16:21	ということなので、その点ではあれが整理できるのが5日にかかっているわけですよ。
0:16:29	なので、それが書けないうちに線を引くっていうのは難しいってのは私もわかっていて、だからこそ、いつ線引けるんですかと今聞いたということなんです。
0:16:40	なので、メモをいつまでに作ります。
0:16:43	で、完成できるように、ヒアリング、
0:16:46	どんどん入れていきますとかっていうふうに、
0:16:48	言われればよくて、
0:16:50	その過程の中で、
0:16:53	直近で言えばグローブボックス関係の

0:16:57	搬送設備なり、換気設備の人たちに話をして理解できるかと理解しましてやってみました。
0:17:03	これで合ってますか。
0:17:05	合っていない。
0:17:07	じゃまだ駄目なんだ。
0:17:08	時間かかる。
0:17:10	やはり、方針書を、
0:17:14	ブラッシュアップしても多分無理だと、だったら、それぞれの作業期間をとって、教育を順々にしていくっていうふうにシフトする必要があるっていうふうに判断できる。はい。
0:17:27	必要もあって、そうだとすると、期間を長くとりながら、ただ、だらだらと長くてもしょうがないだろうから
0:17:37	並行して走らせつつ、
0:17:40	順々に仕上げる。
0:17:42	いうプロセスを引いていくんだろうなと思うので、
0:17:47	そのジャッジをするにも、まずペーパーを求めると。
0:17:52	ということにかかっているわけですよ。
0:17:55	ということで、もう1週間なのか1ヶ月なのかわかりませんが、その見積もりをいつまでに立てるか。
0:18:02	ということをもう実務は知ってるわけだから、
0:18:06	見通しを立てましょうと。
0:18:10	ということです。それによって、一番純粋に言うと、説明グループって分けてるわけだから、月1の会合で、一つずつグループ片付けていきます。はい。
0:18:21	もうそれだけでも実は6次考えですけどね。はい。
0:18:24	皆さんの本来の竣工予定時期、
0:18:28	超えるんですけど、
0:18:32	だけど、現実問題、それでもきつきつっていうと無理じゃない。
0:18:37	それをねじを巻くためのペーパーであって、
0:18:41	ということなので、
0:18:45	年明けには地盤の関係も踏まえて、線を引くという時期があるはずで、その時にこっち側がいや、実はそれよりも後にありまして、
0:18:58	普通は言いませんよ。
0:19:02	もし本当にできないんだったらそれを先に行って、
0:19:08	その範疇内で耐震対応できれば大丈夫ですと。
0:19:12	無理に無理くり、そこを20枚とか意味ありません。

0:19:16	だからしっかりとこの期間でやらせてください。
0:19:19	言うのですねいけばいいわけで、
0:19:23	ジャッジするときに、元ネタがないっていうのが一番判断する人にとってはつらいはずだから、
0:19:29	ちゃんとデータの積み上げをする。
0:19:32	ということで、やるとですね、グループ1だけでは多分、
0:19:38	そのリードタイムができちゃってる分、後見積もりがわからないわけですよ。うん。
0:19:43	とすると、次のグループの着手してみて、
0:19:47	やっぱりぐらい必要だ。
0:19:49	て思わないと、その後わかんないですよ。
0:19:53	なので、そこら辺ぐらいまでをこの時期までに着手をしてみて、見積もっていきますと。
0:20:01	私がマネージャーだったら、そういうことをして、差っ引いて、その期間が持てるように交渉。
0:20:09	いう。
0:20:10	ふうにするんだろうなと思うんで、次回、少しそのあたり、
0:20:15	はい。最低限その教える期間はいいですから、昨日の行ったペーパーをどういうふうに進めて、その後ろの方で組んでいくつもりかって言うのを聞かせてください。はい。
0:20:28	はい。乳井の石田でございます。はい。
0:20:31	いたしました。はい。おっしゃっていただいてる
0:20:35	ただつくれと言っても当然できるもののレベルは、当然それができないから今こうなってるわけですね。はい。ので、そうですね昨日お話をした作成方針というか、ガイドというのか、
0:20:50	それをいつまでに作ってそれを教育して展開をし、アウトプットのレベルを御霊上げていくということが一步一步進めていく上で必要なことなので、それも含めて全体どうやって、
0:21:02	進んでいくのかという絵姿をちょっと作って、来週にはお示しをしたいと思います。
0:21:08	はい。私もいいですか。はい。原電の長谷川です。私も同じ問題意識はあって、過去見通しを
0:21:14	ちゃんと立てたいと。
0:21:16	ただ今、丹新居。
0:21:19	その線だけ引いても、何かその何ていうんすかね。ベースがないので、
0:21:24	今何ていうんすかね社内では、

0:21:27	何ですか、作らないといけない資料が、その資料 3、こんだけの機器が あって、誰々が作って、
0:21:34	いつまでにファーストドラフトセカンドドラフト、STのレビュー、
0:21:39	一応これでもってグループを 1 回やってみようと、それグループのグル ープ 1 だけなんですよ。
0:21:46	うん。そうなんですよ。でも現実はどうなんですよ。で、これになるべく、 関西から来てる新しい人って動かせるものとかを、まず作業に入れて、
0:21:58	です、ちょっと習熟なんかも作業会みたいな形でしてもらって、それをグ ループ 2 以降にちょっと展開していこうというのが今のやってる活動でし て、
0:22:11	どんだけってまだ引けないんですけども、ちょっとこういうのをちょっと 今、
0:22:15	一緒に連携したやり方。
0:22:18	はい。
0:22:20	その取り組みをやって、
0:22:24	相場感を、
0:22:25	まずこういうことをやらなきゃいけないんだ、だっていう事実関係が明確 になったそうで次の、先ほど私が言ったように、グループ 2 なり何なり、 次のアクション行ったときに、
0:22:35	どこまで立ち上がるか。
0:22:38	というのが大事だと思うんで、やっていただきたいと。
0:22:42	と、あと先ほど、ファーストドラフトセカンドでチェック、
0:22:49	フェアリングのっていうことで言われたんですけど、やっぱ最初からいつ てやらないと、全体さまよう人達なもんで、最小のインプットなり教育な り、
0:23:02	指導なり、
0:23:03	いうところをコミュニティ。
0:23:07	そうですね。なるほど。はい。逸見ハセガワサノ同じことを思っ てまして、もともとの原案だと、例えば今月下旬に、STのチェックって いうような、
0:23:16	ホールドポイントあるんですけども、ちょっと、
0:23:19	来週早々に 1 回ファーストドラフトで見せてくれと。うん。でもレベル感 を、やっぱちょっとずつこう、
0:23:25	合わせていかないと、特に、
0:23:27	一番認識あると思うんで、
0:23:30	ちょっとそういうのやっていきたいな。

0:23:31	てます。
0:23:32	はい、古作ですよろしく。
0:23:38	等、
0:23:40	僕はそんな感じで進めていけば、見通しが立てて、はい。
0:23:44	いうことができるかなと思って、3 ポツの方にも入りますけど、再処理の方については、
0:23:53	竜巻溢水がやっぱり一番、その論点があってこれを片付けないことには、
0:23:59	全体展開できないということ等で、
0:24:03	これを軌道に乗せるのにまだ、
0:24:06	いつぐらいに軌道に乗るかということがわからない。
0:24:10	いうことなのでうまく引けませんというゴトウだと思って、
0:24:17	ます。
0:24:18	で、
0:24:21	なんですけど、
0:24:23	この議論を始めてから何ヶ月経つかなあ。
0:24:27	本当ですね、そろそろ。
0:24:32	方向性を見据えて、
0:24:34	具体的な作業ができる。
0:24:38	状況にしていけないということだと思えます。
0:24:43	昨日でしたっけ。
0:24:44	はい。
0:24:45	溢水は
0:24:49	基本設計方針の項目ごとに、
0:24:51	少しお話をして、どういう視点が必要なのかというのをご理解いただけたと思いますし、
0:24:57	竜巻については溢水で議論した。
0:25:01	ポイントを踏まえながら、竜巻ではこうすればいいなっていうのが、
0:25:07	ある程度見えたと思えますので、次の段階です、キックオフできるような
0:25:14	形っていうのを見せていただければ、
0:25:18	院長、
0:25:19	受けます。
0:25:22	それで言うと、その時に課題になったSAの部分の整理と、
0:25:29	というのがまだ形が見えてないので、それを見せていただいて、

0:25:36	できれば、統合して行って、
0:25:40	実際のその共通準備の作業、はい。
0:25:44	ことができてその頃には多分僕須川からその作成方針が、はい。
0:25:49	田力。
0:25:54	はい。
0:25:56	MOXでの展開の実績が出てくるころかどうかわかりませんが、
0:26:02	お互いに進み具合っていうのがさ、
0:26:05	錆びてるんじゃないかなと。
0:26:07	思うんです。
0:26:09	そうなるように、
0:26:11	順々に行った。
0:26:12	ステップをアノなんですかね。
0:26:15	無駄にその歩数をふやすのではなくて、確実にステップアップするような、一本1という形にしてもらえればと思います。
0:26:25	はい、由井西原でございます。はい。おっしゃっていただいて既存の花Cでもありました
0:26:32	まず、二つの人スイカ平均なんかをDの整理をちゃんとまずやりましょうという、
0:26:38	あと、昨日もあったSAの整理も、
0:26:42	ちゃんとやらないと結局はジョイントの仕方も決まらないので、
0:26:45	SAの要求事項の整理なんかもしていきながら、やるということともう一つは議論をお話した竜巻以外の事象をどうしてもグループ1になると、出てきますんでその整理も同じようにしていかないと、
0:26:59	グループ1の資料に資料3への展開が全く
0:27:03	同じような状況にならないということで、SAの整理後竜巻以外の事象のDB側の整理ということも並行してやっていく必要があると。そういったものの優先順位だったりスケジュール感だったりを進めて行って、
0:27:17	最終的、共通12をつくれると、作るフェーズに行くのがいつかということ整理をしていく。
0:27:23	いうことだと思ってますのでそういったところも、スケジュールも含めて整理をしていきたいと思います。はい。
0:27:30	はい。
0:27:32	そうです。今言われた竜巻以外のグループ1での外部衝撃、
0:27:38	外部のハザードですね。
0:27:41	私自身はそんなに難しい設計方針はないと思っているので、お作法さえ決まり、

0:27:48	ポイントをきテイル作業者であれば、
0:27:52	そんなに、
0:27:54	回数を重ねてブラッシュアップする必要もなくいいと思うので、
0:27:58	しっかりやっていただければ、
0:28:02	出井衛藤。
0:28:05	京野。
0:28:06	資料で言うと、別添 1 は、あまりかわりばえなんて日付とかもあれですけど、結局は昨日よりも前の状態でしかはい。
0:28:17	つくれてないってことだから、
0:28:20	昨日のヒアリングを踏まえて改めて、今お話したようなことを念頭に、作業計画立てて
0:28:28	またそのスケジュール感を示していただくってことなんですよ。はい。
0:28:33	はい。
0:28:37	とりあえず、途中で止めたのであれです別添 2 はこの後、
0:28:46	排水の方は、
0:28:48	午前中もヒアリングやっていてここでどこをいう。
0:28:52	必要もないかなと思いますけど、何かありますか。
0:28:56	神戸さん。
0:28:58	ここでは、
0:28:59	なるほど。
0:29:04	お話もあります。
0:29:08	はい。
0:29:09	はい。西尾。
0:29:10	それでは別添 2 でございます。これも前回、前回別添 3 でしたかね、出た。
0:29:19	資料 4 の推移をどうしていくかという、
0:29:24	前回からという意味でいくと一つは 7 ページ目にある、
0:29:29	フローですね、前回、体系整理できてますかというところで YES のわかるときに十分じゃないものが右に行きますと言いながらそれって十分かどうかってどう判断するんだってところは、
0:29:41	吹き出しに書いてますけども計算書の作成方針の類型整理ができていない、または、
0:29:47	計算書にそのものに作成方針が入っていたり、そういった体系、どこに何を書くかということの整理も十分できてないものは、ノーのほうに行こうということで整理をしたいと思ってます。

0:30:00	ただこれは全部の計算書並べ計算書ダテ方針を並べてみて、どこにどれが行きますかっていうのをちゃんと全部整理して、ええかなと思ってますので、フロアフローとしてまず、
0:30:11	どこに落とすんだ、落ちていくんだというところを全体を網羅的に整理をまずちゃんとしたいと。
0:30:19	はい。あとは、まだちょっと私も頭を整理しながら読みながらやってるところではあるので、
0:30:27	9 ページのところの、資料 4 のところの、①は前回と変わりませんが④の 4 の②ってところですかねここを
0:30:39	前回は計算書そのものというよりは、体系的な説明っていうのをまずちゃんとした上で後ろに計算書なり、作成方針に計算書がつくんだよねというようなことで、44 の②の 1 に行くチームと②の 2 に行く日を分けてみたんですけど、
0:30:54	分かれるかっていうと全部一緒やろっていうと、体系整理はみんなしないといけないので、全部同じボックスに 1 回入れて、
0:31:02	整理をしていくのかなというところでもうちょっと考えたいと思ってます。はい。コサクです。そ、その言葉が聞けただけでも、
0:31:12	そうだとすると、この後の話とかもあんまり関係なくない。はい。はい。そうだと思います。っていうのは、そうするとですね、
0:31:23	先ほど言ったフロー図もいらないんですよ。そうですね。はい。全部。
0:31:27	そもそも最初から説明項目について、
0:31:34	概要を、今日で言うと資料 402-1 と、
0:31:38	言っているものを作っていけば、おのずとその内容について説明すべきことっていうのがピックアップされて、その補足っていうのが必要なものが、
0:31:50	整理ができて、作り込んで、
0:31:53	いうことで終わって、その補足っていう内容合点ぶ一書類のやつに、ちょっと色つけをするぐらいで済むものと、ガッツリかないけないものっていうのがあって、ガッツリ書かなきゃいけないものについては、
0:32:08	添付書類の拡大をするかどうかみたいな話が必要だと思います。或いは複数には跨っちゃってるけど一つにまとめるっていうような作業があるのであれば、添付書類をまとめる。
0:32:19	いうことの体系整理は、いうことに気づけばいい。はい。
0:32:25	いうことで、
0:32:29	ことが最初のフローにあるんですけど、結局その 02 の 1、2 か。

0:32:36	取れてる②-2をやってみないと、多分築けませんっていうのが現状の元の状態で、なのでやってみますっていうふうに書いてあるんだと思ってるので、
0:32:48	そこは早めに触ってみて、程度感がわかるようにしたらどうかということだと思います。
0:32:57	逆に、その入口として項目、
0:33:01	カドイいうのを項目として挙げて、はい。この切アノ02-1だったり022というものを作っていくかと。
0:33:11	いうことを少し整理をした方がいいんじゃないかなと。
0:33:15	出まして、
0:33:17	それで言うんですね。
0:33:24	通し10ページのところの7分の5、設定根拠というふうにしてあげられて、
0:33:31	設定根拠説明書で書いている、その資料がありますよね。
0:33:37	その資料の説明の仕方っていうのが幾つか種類がありまして、
0:33:43	ということなんですけど。
0:33:45	この類型に、その説明の、今回その資料4-02-1だったり、2だったりっていうのを作るのに、
0:33:55	何かパターンとして分ける意味がある分け方になってますかっていうのがちょっとよくわかんないんですよ。
0:34:07	説明のパターンでいうと、
0:34:14	ここで言っていたいている、例えば括弧2の例で言っている、強度経産省のインプットになる。
0:34:24	いうものについては、強度計算書の説明の時に一体でやった方がいいよねっていうことなのかなと思うんですよ。
0:34:32	一方で、(3)のような個数っていうのは共同計算にも関係ないし、
0:34:39	ということといいと、ある意味システム設計のところで説明し切れそうですよねっていう項目も多分書いてるんじゃない。
0:34:46	思うので、ここでは以下作りませんではなくて、ここで説明しますと、という言い方なんだろうなと思うんですね。
0:34:58	ということで、
0:35:02	一連の説明がつくように、
0:35:06	どこで説明するかを整理をしますと。はい。いうことでまとめてもらえばいいかなと思って。共同計算関係は、インプットからアウトプットも一式まとめます。まずは評価方法を説明しなきゃいけないのでと。
0:35:20	ということじゃないかなと思うんですけど。

0:35:23	そうすると、強度計算関係っていう枠が、まず、
0:35:29	作ると。
0:35:30	そうするとーインプット、
0:35:34	大元のインプットですねと。評価方法、はい。評価方法の中にも根拠が必要だと。はい。
0:35:42	インプットって評価条件結果。
0:35:47	評価条件っていうのもあれなんですけどね、方法の中にも条件が入ったりするんですけど、そこはどこまで分ける必要があるかわかりませんが、あって、
0:36:02	判断基準。
0:36:04	ところの、
0:36:05	NISみたいな。
0:36:09	ということの一連をこういうふうに説明してきますということがあればいいんだ。
0:36:13	ます。
0:36:14	で、評価条件のうちですね、ちょっと今のお話にも入れたんですけど、
0:36:22	仕様表で書いているものの、はい。
0:36:26	ものが評価条件になってる場合っていうのは、
0:36:29	設定根拠説明書あるわけですよ。
0:36:32	はい。なので、その説明を体系的にしていけばいい。
0:36:36	ということなんですけど、そうではない条件っていうのが評価には必要な、
0:36:42	項目があって、
0:36:44	それも、
0:36:47	一通りピックアップしてみて累計で説明していただければ、
0:36:51	より、
0:36:53	効果的、
0:36:54	説明がし切れるのかな。
0:36:57	思い、
0:37:02	はい。人間ニシダでございます。そうですねはい。ちょっとその辺も含めて整理を進めます。あとはおっしゃっていただいたように資料4でどうするかみたいなのところに大分偏ってしまったので、資料3も含めて全体で、
0:37:13	どこで説明できるんだみたいな、体系の整理も含めて進めていきたいと思います。はい。
0:37:18	はい。
0:37:19	加来です。それでですね。

0:37:21	ここの設定根拠説明書っていうのを挙げていただいて気づいたんですけど、
0:37:25	これまで、上流要求を踏まえながらとって作って
0:37:30	基本設計方針で変えていって、仕様表が出てきてない。
0:37:34	ですよ。
0:37:35	で、
0:37:36	資料 2 とかで仕様表のことを意識してっていう話はしていたものの、
0:37:43	資料 3、
0:37:44	なりの議論の中に、その仕様についてってのがあまり。
0:37:50	ピックアップできてなくて、
0:37:54	寸法については触れましたから入れていただいていると思うんですけど、
0:38:00	あと個数ですかね。
0:38:05	発言していたし、それが少し明記されているので、
0:38:11	いいと思うんですが、
0:38:14	それ以外がちゃんとピックアップされ、
0:38:19	資料 3 なり資料 4 なりと、
0:38:22	いうことで説明項目だということ等が明確になるようにしていただく必要がある。
0:38:30	思っています。
0:38:32	で、そうすれば先ほど言ったように、説明項目立てしたものについて累計をして、こういうものはここで説明しますこういうものはここです。
0:38:43	いうことになってる。
0:38:45	で、
0:38:48	共同計算については、今例示してお話しましたけど、あと、別の類型何があるかねと。
0:38:56	いうところで言うと、
0:38:59	今回はないかもしれませんが臨界計算みたいな。
0:39:03	これも共同計算と類似だと思うので、
0:39:08	強度計算は材料の耐力になるけど、委員会の方は、臨界計算だけなので、
0:39:18	そこのパラメータが違うだけっていうことで、説明する流れっていうのは一緒だろう。
0:39:25	思うんで、
0:39:28	整理をしていただければいいと思います。そう。そうですね。
0:39:32	臨界計算も、寸法なり何なりがインプットとして使用料払って、

0:39:39	判断基準みたいなものが、これも資料表の中で成立という形であるという ことでひもづいていくんだと思うんで、
0:39:48	体験的には資料4の作り方って意味では、
0:39:52	図でまとめられるんだと思います。
0:39:55	そうでないもの。
0:39:58	ていうのは計算ではなくて、何らか
0:40:02	規格類なり何なりでの算出をして、その数字を決めてますということですが、 それは設定根拠説明書そのものだったりするので、
0:40:15	そういうパターン化して
0:40:17	設定根拠説明書の中でこういうパターンのものっていうのをまとめて、 それを使用資料4ではこういうふうに説明していきます。
0:40:25	いうことをまとめていただければいいかと。
0:40:38	要領。
0:40:41	なんないポンプだと。
0:40:44	QHがあったり、はい。それで原動機出力だったりとかっていうパターン があるので、
0:40:52	もうあんまり処理多くないでしょうか。から、あまり累計って一生懸命束 ねることを考えても、それぞれ1例説明されたら終わるような気もする ので、
0:41:03	その時に、設定効果説明書だけではなくて、
0:41:08	0とかでもやってますけど設定根拠説明書の補足じゃない。はい。
0:41:13	が、セットで入れれば、それで一体で終わるんで。はい。
0:41:18	そういう形で作っていただいたら、
0:41:34	あとあれですか、
0:41:36	一番肝心なというか溢水評価だったり、
0:41:40	多分、
0:41:43	許可からずっと宿題になって、最終的にけりをつけるとか、はい。
0:41:48	火災影響評価をしますよね。
0:41:50	ていうところですけどまあそこわあ、多分、タンク単品ですとか、ちゃんと 作りたい、月曜までに従って作らせればいいんじゃないかなと思うので、
0:42:01	はい。あんまり、あんまり悩むことはないかなと。
0:42:07	はい。弓削西田でございます。はい、ありがとうございます。今お話があ ったのも踏まえて、はい。整理をして、
0:42:15	こちらも体系的にかつ累計がどういうポイントでできるのかっていうのを 意識して、

0:42:21	ミイがしていきたいと思います。はい。はい。補足です。そうするとー11ページなんですけど、
0:42:29	資料 401D、どこまでのことを明確にしてその分類をしていくかということになると思うんですけど、
0:42:40	現状、書いてるところ
0:42:44	今の整理からずっと真ん中よりちょっと左側の設定根拠の説明内容の分類っていうのは、ちょっとペンディングですね。はい。されればいい、良くて、整理した上でラベルはあるよ。
0:42:57	修正していけばいい。
0:43:00	いうことだと思いますし、その次の、
0:43:05	右側の内容の分類に対する考えというのも、今の対応と、
0:43:11	作っていただいて、書いてある趣旨は
0:43:15	なるほどと思うところがあって、
0:43:18	強度家強度という関係を担保するための条件です。
0:43:23	こういう視点を持つのは大事なんで、そのためにこの数字はしっかり守りますっていう意味ですから、
0:43:29	それがわかるように、
0:43:34	ええ。
0:43:37	その次の、
0:43:39	関連する評価項目っていうのがちょっとよくわかんないんですけど、これどういう意味ですか。
0:43:45	はい、西浦でございます。はい。
0:43:57	強度評価です。
0:43:59	おなじみの分類ができるものって意味で確か書いたような気もするんですが、ちょっとその意味、意図も伝わらないし、何でこれがついていうのも意味が、三田三田だけでわからないので、ちょっと。
0:44:13	考え、工夫をして、ここに書くものはどういうものかっていうのと、どういう関連性で、この書いた項目をどうしていくつもりなのかっていうのを、
0:44:21	手当も含めて、整理をしていきたいと思います。
0:44:24	はい。
0:44:25	そうですね、今の説明の観点からずっと累計。
0:44:31	配布のうちに入れてますっていうことであれば理解はできなくもないけど、はい。
0:44:39	そもそも漏えい液受け皿の強度って言ったって要求拠点、いけないっていうのがちょっとよくわかんないんですけど。
0:44:47	はい。

0:44:54	今後何か必要かどうかも含めて、
0:44:58	はい。
0:45:00	そうです。最初に分類するときグルーピングするときになる考え方を 持ってグルーピングしてどれがここに入ってるかっていうのが整理でき れば、記念体系的なものができると思う。
0:45:10	その入口も含めて整理していきたいと思います。
0:45:16	それでいうとこの表細かく書いていくよりは、大枠のこういうパターンで いきますという整理をして、つけてみて、そのパターンに入るのが何かっ ていうのをリストアップしたら、
0:45:28	その中でこれで代表できるねってあったり、これとこれをやんなきゃいけ ないねっていうのがわかると思うんで、それやってからじゃないですか。
0:45:42	はい。
0:45:49	てに、
0:45:51	ありますけどちょっと資料いただけたらよくわからないことが多かった。
0:45:57	成長カミデですけど、
0:45:59	まず 0.2 が資料 40 から記載方針整理っていうタイトルで、
0:46:05	1 ページ目に、同 11 月の会合、
0:46:17	日本の整理方針。
0:46:22	2 ページ目に行くと 2 ポツのところ、別添資料 4 にオク衛生て人って いうのが、資料下ホシノてるんですけど、
0:46:32	私は今 1 ページ、別添 2 が 11 月メニューになるのって、読んだんです けどどう思ってます。
0:46:40	はい。乳井石原でございます。はい。11 月、この考え方だけでは意味が なくてある種、先ほどあったグルーピング呉の整理結果であったり、具 体的にこういうふう
0:46:54	資料 4、計算書なんか結びつけるところもやっていくんですけどいう。
0:46:59	菅田。
0:47:00	と、0 時ぐらいないとですね 11 月審査会合ネタにもならんかなと思っ てます。
0:47:05	それが、
0:47:08	あると、そのあとそういうふうにいわれる資料 3 でいう、累計をしながら こういうグルーピングでこういうことを書いていくんですけどいう先月やっ たみたいなことがあって、今日今回グループ 1 学っていうのと同じ並び になるのかなとは思ってます。
0:47:25	はい、井清と。
0:47:31	ページの前で言って、

0:47:34	全体があり、
0:47:35	ページの説明が、第 10 ページの、
0:47:39	考え方も、あれ、いつも具体の表みたいなの、もう少し作って、そうですね、はい。あってということでした。
0:47:49	それで言うと 11 ページで、
0:47:52	4 番。
0:47:54	イマセ。
0:47:56	説明書っていうのは、
0:47:58	あまり
0:48:01	対し思ったのは、この耐震でいろいろこう設定、もう多分去年は求めない。
0:48:09	とは言っても、
0:48:10	それだけです。
0:48:12	説明、本件説明書から持ってくるものもあれば、関係ない、全部先生、
0:48:20	これも、
0:48:23	こういう、
0:48:25	はい。
0:48:27	そうなんです。いずれにも設定項目説明書に書いてあることだけ説明しますっていう、そういう失礼っていうことじゃないですか。
0:48:35	はい。人間の仕様でございますそうですねという意味では、この間に出てたキーワード設定根拠大分偏った資料を作ってしまったので全体的には当然、耐震計算みたいなもの含めていろんな中でどんな条件があつてっていうのを、
0:48:49	整理をする中には当然入ってますので、全体、どういうものを対象にして、先ほど言われた全体のグルーピングの考え方みたいのを整理する上でも、まず全体像がないと駄目なところもある。
0:49:01	そういうことも、
0:49:02	整理をして、枠組みがどこなんだっていうのをあまり何で商売紹介する曜日というか、全体がわかるように整理していきたいと。
0:49:12	はい。規制庁神戸です。多分、あれですか、資料 2 のサンプルも多分あるわけ。そうですね。そうですね。私が資料 2 があり、これは設定根拠にパス出して、これは耐震だけど、
0:49:24	そうですねどっちも、資料について、
0:49:28	みたいな感じも含めれば多分、3 ページで、はい。考えていうのはあります。
0:49:38	はい。一応私の方からは、今日佃さん。

0:49:42	はい。弓削理事長でございます。はい。ありがとうございます。ちょっとなかなかすいません作業が進まなくて、はい。
0:49:55	はい。
0:49:58	話せば決定さはい。
0:50:01	はい。
0:50:02	日経さんは、進捗をどうしますか。すいません。
0:50:07	私もいろいろ考えて、グラデーションのものを聞きましたけど、グラデーションだと進捗がわからんやろうと自分でも思って、
0:50:16	これをです、パーセントを書くか。
0:50:20	もしくは均等で幾つかに割って、そのうちどこまで進みましたみたいな色とか、ちょっと考えたいと思います。はい。
0:50:30	基本この説明項目に書いてあるさ、2-1なんかは説明グループ単位でどんどんメッシュ、
0:50:37	決まっていくのかなと思いつつ、それが進捗が具体的にあまりぼやけないように、わかるようにさせていただきたいと。
0:50:48	それで言うのですね、説明項目、左に書いてあっても意味がなく入って、結局これって、2-1の説明項目でしかないわけですよ。
0:50:59	なので、2-1の枠に書くだらうな。はい。
0:51:02	思うんです。
0:51:03	そうすると、3グループに分けて説明しますだったら、枠が、
0:51:08	水になるわけですね。はい。それあの横に並べるのがタテのあればどうでもいいんですけど。はい。
0:51:15	そうすると、枠に対して説明中なのか、終了なのか。
0:51:22	いう広さにつけば、
0:51:25	いいんじゃないかな。はい。いうのでそのグラデーションなり%も悩まず、はい。
0:51:31	それで整理をしていただける。
0:51:34	その際に、どこまで
0:51:37	文字を入れるかってあるんですけど、
0:51:41	のヒアリングではありましたけど、隅括弧の内容が、意味のわからないスミダウダだったら、余計な情報なんですけど、
0:51:49	わかるものであれば、こういうポイントは終わってこういうポイントが残ってるねというので、わかりやすくなって、内容がいいかどうかなど。
0:52:00	はい。
0:52:04	言葉を選んで、追加で言ってるじゃない。
0:52:07	入れるような感じ。

0:52:09	条文ごとに要素があると思う。
0:52:12	条文になった時も、
0:52:14	マキグチであってもアドバイスしたことないと思うんですけどそっちの方がわかりやすいかなと思います。
0:52:21	あとは結局、
0:52:23	これ1ポツ、2ポツ、3ポツっていうところ並べてると思うんですけど、3ポツまで終わると、何なんだっけっていうのが、
0:52:33	わからないんですよ、これの表を引いてる。
0:52:36	糸賀。
0:52:37	あんまり伝わってこないかなと思って。
0:52:40	これがすべて埋まるとどうなるんですかっていうのは、ちゃんと説明できるようにしては、方がいいと思う。
0:52:47	うん。
0:52:50	ええ。
0:52:51	類型化の作業の話。
0:52:54	類型化の作業であって、
0:52:57	類型化の作業と、そもそも本来終わっていて、
0:53:01	はい、その累計の中で、設計の妥当性を説明する。はい。
0:53:07	進捗。はい。なので、これが埋まったら説明終わりでもいいかです。
0:53:13	Bが、
0:53:14	それで申請書に適切にももちろん反映するっていうのが、ここで終わるのかなって思ってるってだけなんですけど
0:53:22	そういう意味ではそこまでプロセスかかってない。それは審査会合でそういうふうには言ってないから、それは事務手続き上、
0:53:30	はい。はい。
0:53:31	そういう意味では、委員会じゃなくて審査会合の方に説明が終わりますっていうことを、
0:53:38	政令も申請者はそこで、事務的にはできているっていう、そういう時は出てるじゃないで事務的には行きますよっていう事務的な作業に入るっていうことで、別添1の、例えば、小野瀬青野梓から、
0:53:52	村崎イセに移る。
0:53:56	ということで、全然、
0:54:00	はい。
0:54:03	その下準備としての説明はすべて終わりました。
0:54:12	はい。
0:54:13	西原でございます。はい。

0:54:22	はい。ちょっと進捗のやつ、別添 3 も、はい。
0:54:28	整理をして、次回の会合の前、
0:54:33	13 日の会合の資料に入れる形で整理をしていきたいと思いますはい。
0:54:45	古作です。それで言うと、
0:54:51	グループ 1 に入っている、搬送設備だったり、管理施設、
0:54:57	ですけど、これ、先ほど谷グラデーションかかっててよく、
0:55:04	これワー
0:55:07	終わるんですね。
0:55:10	終わるんです。はい。はい。イマダとまだ不十分。はい。
0:55:18	オカですよろしいですか。お願いします。
0:55:21	勸奨とかが終わるっていうふうになって、ただ、搬送能力とか、基本的なところ、
0:55:31	条文要求に対応するところってどうやって説明していこうとされてます今のはツジの体系に入っていないと思ってるんです。
0:55:39	日本ネシアでございます。はい搬送設備の搬送能力なんかは今の資料 3 でいくと、構造設計のところには、必要な容量を確保、
0:55:50	を持った設備を設置すると、いうこととあとは個別補足説明資料で必要な搬送する物とその重量と、搬送設備の容量との関係っていうのを整理したものを、
0:56:03	本来は、資料 3 を出すときにセットで出しますって約束してた話で、
0:56:08	ぜひ説明をしないとイケないと思ってますはい。
0:56:12	はい。しました。その通りだと思ってます。
0:56:20	ないのに何か、もうすぐ終わりそうない、いやそんなこと。
0:56:25	はい。小崎。
0:56:26	なので
0:56:28	中中途半端な資料で出されているところで、どこまで拡充されるのかが不安だから、ないのかなっていう。
0:56:37	うっすら疑問だったところが多くが言ってくれたということで、
0:56:43	入れるつもりだということのようだから、それをしっかりと示していただくということだし、
0:56:50	資料を出されたところ搬送設備がそうならなければ、足りないよっていう指摘をスルーことになるよ。
0:56:59	いう状況なので、整理を進められてると。
0:57:05	はい。弓削西浦でございます。はい。はい。認識を質問出てないところは、
0:57:12	整理をして、積み上げていきたいと思いますはい。はい。

0:57:16	コサクです。何でかちゅうと、多分乾燥設備 2、2-2 が / 入ってるから、
0:57:23	ですよ。
0:57:25	換気設備ワー / なんてないので、その部分は、資料 4 で説明するのねっていうふうになって、言いかえればできる。
0:57:34	ですけど、
0:57:36	なんで / なんだっていうところろをしっかりと、はい。
0:57:40	いえるようになっていうか資料 3 に入っていて確かに切ってるねと。はい、わかるようにということだと思んですけど。はい。
0:57:50	警報設備も含めて、何で / なんですかね。
0:57:55	はい。9 名でございます。はい。先ほどの決定根拠とかも含めてどこでどう説明していくかって整備をすると、
0:58:05	おっしゃる通り / なのかここでやることのあるのかっていうのがもう少し明示的になるのかなと思いますのでその検討を進めつつ、適切な表現にさせていただければと思います
0:58:17	おっしゃっていただいたように警報も含めて、その設定にしている根拠だったり、当然説明しないといけない。ただそれは今のところは、
0:58:26	何ていうんでしょう。
0:58:28	その設定そういうふうな回路を設けるっていうことがおそらくもとの要求事項でそれに対する回路の適切性みたいなものを、資料 2-1 かな、
0:58:39	の中で、説明しようと思いつつ、まだその辺がまだ揺れ動いてるからこうなってるのかなと思ってます。はい。
0:58:48	はい。
0:58:49	古作です。
0:58:51	揺れ動いてる最中で、会合でこう言われちゃうと、
0:58:55	何ていう感じがしますけど、ちょっと整理をして、
0:58:59	はい。
0:59:01	ええ。
0:59:04	藤。
0:59:06	どう。
0:59:07	他も同種で閉じ込め、
0:59:10	機能喪失。
0:59:12	自己評価ですよ。
0:59:14	これもそうだし、

0:59:17	さっき話題に上げた溢水なんかもフクダちょっと最初たち違うとはいえですよ。はい。はい評価まして、はい。
0:59:29	そうですね。はい。
0:59:32	何ていいんでしょう。第2回に限ってる部分でまだこの後続きますっていう話も含めて、胎動税率かっていうところではあります。はい。はい。そこは
0:59:44	そう見ていただくしかないかなと思ながらね。であれば、すぐやっぱり／じゃないんですよね。はい。第何回でまとめてどうこうっていう説明をする。
0:59:56	最初にですね。はい。
0:59:58	最終回に触れるように、ニノイチ側でやっぱ、
1:00:02	多田ヒグチさん、工事課に渡してますっていうことになったんですいません。はい。
1:00:08	そういうものを。そうですね。
1:00:11	警報も含めて全体、確かにおっしゃる通りSAも、フォーマルがまだ、
1:00:19	第2回では来ないっていうのもあるので、この枠が全部終わったっていう誤解がないようには整理をしていきたいと思いますはい。
1:00:35	はい。
1:00:36	よければ、最後、
1:00:39	はい。
1:00:40	新原でございます。はいスケジュール、すいませんまだ書き切れてないところが多々あります一つは、
1:00:48	FDSの関係、前回3日の日に面談をさせていただいて、
1:00:57	近いうちにまたブラッシュアップしたやつと報告書等の関係の機器は振り分けというのも含めて整理をして資料を出してヒアリングをさせていただくということでお約束をしてました。
1:01:09	現状、
1:01:16	今現状、やってるシバタ8限は16ニチイぐらいに資料を出してその周早いうちにといいながら現地確認とかもあるのでその辺含めて、日程調整、
1:01:28	させていただければと思ってました。はい。
1:01:32	あとは、昨日ですかねやらしていただいた設計プロセスの運用改善の関係も、
1:01:40	全体取りまとめをどこでやるんだも含めた全体のスキームもありますし、

1:01:45	進めていく様も、まだ具体がちゃんと示しきれてない部分もあるのでそのイメージもちょっとまた社内で調整して、スケジュールに落としていくようにさせていただきます。
1:01:56	はい。
1:02:00	はい。あとは先ほどまさしくあった設工認側でいくと、竜巻大スミダとそれ以外のSAの整理もしなきゃいけないというのがちゃんとスケジュールに落ちるように、
1:02:10	整理をしてスケジュール見直したもので、
1:02:14	また提示をさせていただきたいと思います。はい。
1:02:19	あとあれか、作成講師っていうか、ガイドっていうか、はい。
1:02:24	その進め方も、はい。
1:02:27	来週お示しする時点ではスケジュールも含めて達成できるようにさせていただきます。はい。
1:02:34	以上です。
1:02:37	あとですね、来週お示しする時点っていうのが、来週はですね審査会合が金曜日にあります、
1:02:48	月曜日なんてそんな月曜日午前中に出して、午後はヒアリングですか。はい。
1:02:54	そんな感じに今は設定。
1:02:57	考え。
1:03:09	うん。
1:03:10	やっぱ物イデ 2、
1:03:12	をやりゃいいんじゃないの。
1:03:15	いう気がしますけど。
1:03:20	ていうのもですね。
1:03:22	この見通しも何か会合をやるので、我々の精神があって上、
1:03:28	よろしくなく、
1:03:30	我々の安定がないと多分きついんじゃないか。
1:03:36	で、はい。
1:03:38	木曜日、提出の介護、
1:03:43	ぐらいが、
1:03:47	ダイゴって 24 時でした。はい。24 時です。
1:03:52	夕方できる。
1:03:56	ついでに申し上げますと、
1:03:59	4 日にどっかで、
1:04:02	今週の金曜日だつ水曜日に、委員会で

1:04:07	審査の進捗の
1:04:09	して、
1:04:10	その際に院長から、
1:04:13	審査が滞ってるものは
1:04:16	課題が何かっていうのを明確にすべしと。
1:04:20	いうことがあってその場ではいろいろ取り組んでるのはわかっている。
1:04:24	いうことで、
1:04:27	原燃については、定期的に会合を開いている。
1:04:30	藤。
1:04:32	だったり、或いは
1:04:35	取り組み状況について、各層での面談をしたりと。
1:04:40	いうことは、ご認識いただいた上で、
1:04:44	発言をされていたものの、その後記者会記者会議っていう
1:04:51	記者と乗って、
1:04:54	定例県会に、
1:04:56	おいて、泊と同じことですかと。
1:05:00	質問をされそうですということだったので、
1:05:04	次の会合からは泊と同じように、こちらから宿題時、
1:05:08	宿題指摘事項、
1:05:10	メモを提示して、原燃と認識が共有できてるか。
1:05:15	明確にさせていただく。
1:05:19	必要が出てきました。
1:05:22	いうことで、泊は、それをやるからラップしてないらしいんです。
1:05:29	なんですけど、
1:05:32	ラップ必要ない。
1:05:35	病院。
1:05:36	でも、そんなに書くかっていうと、
1:05:39	泊もそんなにきっちり書いてるわけでもないんで、
1:05:43	メモを作って提示しますけど、
1:05:46	その後の進め方みたいなことをそもそもその課題認識だけじゃなくて、 進め方の話もさせていただいてましたから、
1:05:54	ラップアップであってもいいのかなと。
1:05:58	まして、
1:05:59	ドイツで今の話で、この菅田のヒアリングをやるということであれば、ラッ プアップと言わずともヒアリング、このヒアリングでやればいいでしょう。

1:06:09	いうこともあると思う。
1:06:10	来週については
1:06:13	こんな感じでやりつつやってみて、
1:06:17	会合での
1:06:19	メモも含めてやってみて、その後、会合でこうした上で、
1:06:25	どうしていきましようかっていうのは、また相談ができれば、
1:06:34	規制庁管理です。とりあえずやってみましようっていうことではあります。
1:06:40	隣とか見てて、
1:06:43	目回ってて、僕がわかりましたみたいな感じで終わっていつもらっちゃうんですけど何かもうちょっとキャッチボール。
1:06:52	対応、心配じゃあ川満さん。
1:06:58	どんなものがあるか。
1:07:04	補足です。そんなこれはどういう意味ですかって質問を受けるようなメモを書くつもりはないんですけど。
1:07:12	しかもその前にやりとりをした上でのメモなので、さらに疑問点とかっていうことが
1:07:20	あまり起きにくい。
1:07:21	んだらうとは思いますが。
1:07:23	ただ多分今の度が言いたいのは、
1:07:27	その手前のやりとりも含めてわかってもないのにわかりましたと。
1:07:31	いつてその後わかってない状態で対応が進むっていうことがないようにっていうことだと思うんで、
1:07:42	わからないことがあったらちゃんと言ってください。はい。
1:07:44	いうことだと思います。
1:07:47	はい。
1:07:51	減ハセガワです。ちょっと論旨的な確認なんすけどそれは、
1:07:55	会合の資料にホームページアップという形で、もう頭からついてる家々
1:08:06	2、資料としては出されると、
1:08:10	ヒアリング
1:08:11	の場に出されたものは
1:08:20	備忘のやつを見てもらう。
1:08:23	案つきで、
1:08:25	移しまして、これでいいですか。はい。言われて、
1:08:31	はい。
1:08:33	反発してもらってくださいそれはまた後で5 ページでは、

1:08:40	もう私がやることになるんですけど、
1:08:44	力の元何か質問ありますか、認識ずれありませんかという質問を投げかけるので、その回答がありませんっていうのが
1:08:58	もしそこで隣も、
1:09:01	試験ではありませんでしたけど、理解ができなかったり明確にしたいことがあれば、この部分はこういうことでもいいでしょうかとかっていうようなことだったりっていただいて、それを明確にしますって、その場で安定したんですから、
1:09:15	その場で修正をして、この修正で理解できます。
1:09:19	いいですか。じゃあこれであんた、
1:09:22	なるほど、アノイシダ方は、1 風景ともいいです。
1:09:25	そうなんですか。
1:09:27	1F検討会は始まって1年ぐらい結構紛糾を、
1:09:32	していて、一体何がやけ、決定事項というところちょっと言い方があるよね、認識を共有できたことかかっていうのがわからず、何となく進んでいってしまっ
1:09:42	て、後から何かわかんなくなっ、いややるって言ったじゃないかって、そんなこと言っ
1:09:48	てませんみたいな。
1:09:48	なっちゃう。
1:09:49	た感じがあって、整理した方がいいよねと。
1:09:53	いうことで、
1:09:56	事業者側からではなくてこちら側が、
1:09:59	1フチセババ頑張っ、
1:10:01	見せて、
1:10:02	議論しながらこれでいいですか。いや、僕はちょっと本当にその場で書類を作るみたいな。
1:10:08	やりとりをされていてあんなのやってみようよっていうのが、
1:10:12	井口です。
1:10:16	ございます。
1:10:24	他、全般通し手当スケジュール。
1:10:33	じゃなければ、
1:10:36	振り返りも口頭で、
1:10:42	はい、峰石原でございます。はい。
1:10:48	本体の本文の方ですね1ポツは、はい。来年度距離を含めて、別斉一化した方がいいんですけど、

1:10:56	思いが全く思っておりますので、別添 1 を作ったときの考え方趣旨がわかるように、1 ポツは、
1:11:04	かつもうちょっとあんまりナカナカイてもしょうがないのでSsをちゃんと書くということで整理をさせていただきます。
1:11:09	はい。
1:11:10	阿藤さんぽつの関係でいくとサポート位置の共通に関係は、今走らせてタスクの関係だったり、どういうふうに進めていくか。
1:11:21	あとは実際、MOXでやってきたときの歴がなかなか上がらないというところで作成ガイドみたいな作って進めていくといったものも含めて、どう進めていくのかと。
1:11:33	それが 1 ページ目でいう、その後の進め方にも繋がるということで全体のスケジュールがちゃんと引けるように、積み上げていくということで、検討していきます。
1:11:44	はい。2-2 の関係の資料 4 の関係は別添でつけてますけど、これ全体までちゃんと対象になるのもの的に上げた上でどうやってグルーピングして整理をしていくのかという全体の様をまずちゃんと整理をしていきたいと思えます。
1:12:01	そこに設定根拠は当然入るんですけどそれがすべてではないのでそういうところがわかるように、
1:12:06	あと自体の具体的な例でも考えながらどうグルーピングしていけるのかっていうのを整理をしていきたいと思えます。はい。
1:12:15	はい。あと、別添 3 のやつは、まずは進捗がちゃんとわかるように、変なグレーレーションではなくて、統制説明項目が 2-1 の説明項目ですので、2-1 の欄に入れつつ、
1:12:30	多分何回分で全体なのかということの進捗が見えるように整理をさせていただくというのと、
1:12:36	特にMOXの場合は第 2 回と第 3 回というところでゆ分断されて項目がありますんで、誤解がないように、整理をしていくと、ニノイがないわけじゃなくて、第 3 回に入っているものがあれば、
1:12:49	そこに続きますよということがわかるように整理をさせていただくと。
1:12:54	ということだと思ってます。はい。
1:12:58	はい。
1:12:59	三瓶。
1:13:01	すいません。はい。あとは、スケジュールは先ほど口頭で申し上げたまだ抜けてるものについては、
1:13:08	足して、整理をしていきたいと思えますはい。
1:13:14	とりこ。

1:13:15	今後の進め方、来週は来週の審査会合のार्टプラン。はい。
1:13:23	はい、規制庁からです。振り返りもよろしいですかね。
1:13:33	で、
1:13:34	引き続き対象ですけど、時間は、
1:13:39	はい。はい。
1:13:43	じゃあ、

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はい、力を外しました。
0:00:05	では、また、
0:00:09	の方ですね。
0:00:13	メンバーまた説明等が終わります。
0:00:18	メンバーの確認をしてはまた、規制庁側から確認を進めていただく。
0:00:24	規制庁側のメンバーですけど、鳥海側からのハバサキタケダ組での、
0:00:33	本件の方から、出席者
0:00:39	はい。日本原燃事務局、中浜でございます。
0:00:43	日本原燃側の出席者の午前中と変更ございません。以上でございます。よろしくお願いいたします。
0:00:53	まあ減衰のところですね、引き続き、規制庁は確認あればお願いします。
0:01:00	はい。規制庁浜崎です。
0:01:03	ちょっと前提について幾つかまだ確認事項がありますんで、ちょっと行ったり来たりになっちゃうかもしれませんが、最初に地震干渉法を県で確認します。
0:01:15	資料ですと490ページからの参照の資料なんですけれども、
0:01:21	今回、衛藤、
0:01:24	観測位置、GL-2メートル、それとGL-125メートル介護基盤表面ですね。
0:01:31	との記録を使って干渉法による
0:01:37	減衰評価をしていると、いうふうに理解しています。
0:01:41	実際今ここで評価しようとしているのは、例えばGL-18メートルとかですね、岩盤部分の減衰評価をする、しようとしてるわけで、
0:01:52	要はその表層部分の10メートル以上の部分っていうのを、
0:01:57	減衰評価としてはこうだした形で評価しているのか、或いは岩盤部分に特化して、処理を施してですね、岩盤部分についての下水の評価をしているのか。
0:02:11	その点を確認したいんですが、いかがでしょうか。
0:02:14	一本件の方でございます。一応、うまくいった中央の話はしますけれども、そちらにつきましては、地中の入射地中から地表に対しての入射は、地表から変えていく反射はについて、スタッキングした形に基づいて減衰定数を評価しているわけなんです。

0:02:33	その考慮しているパスというのは、今ほどハバサキさんもおっしゃっていた岩盤部分を上げてきた波プラス競争も入っていた胸像、行って帰ってっていうふうに通ったパスの、
0:02:43	ものに基づいてやっていますので求められる減衰定数の物理的な意味としては、岩盤と表層を、何て言うんすかねトータルした減衰定数といえますか、そういうようなものが評価されることになります。以上です。
0:02:55	はい。規制庁浜崎です。具体的には資料の 507 ページに、中央地盤の減衰の周波数特性が出てます。ほぼ 5%ぐらいですかね。
0:03:05	で、大きな取得がないというのが今回の結論ですけど、
0:03:11	ということは、これは、
0:03:15	表層も含んだ形での減衰の所、評価結果であるということでした。ただ、表層に関してはご存知のように結構やっぱり減衰定数って大きくなりますよね。
0:03:26	それも含めた形での結果というふうにはこちらは理解すればよろしいですか。
0:03:33	はい。日本原燃のオガセでございます。今私先ほど申し上げた物理的な意味というところは間違っていない表層が入ったものというふうになってございますけれども、実際に先ほど今浜崎さんがおっしゃった 500A棟、7 ページ下のグラフについても、物理的な意味としては表層も含んだような減衰定数にはなりません。
0:03:52	ただ、この中央地盤の地震観測地点のVsの構造なんての先ほど午前中の部でもお話させていただいたところだったかなと思うんですけども、いわゆる表層に該当する部分が非常に薄いというようなところの特徴もございまして、結構岩盤部分のところの、支配的になっているものであろうというようなところは思っているところでございます。以上です。
0:04:14	規制庁浜崎です。
0:04:17	これ以上細かい話はしませんけれども薄井と言っても 10 メートルや 1 割前後の話もあるわけで、
0:04:24	そういった
0:04:26	市販干渉法の場合は、そのパスの地盤モデルの、その具体的な何ですかね物理的な影響っていうよりも、あくまでもインプットとアウトプット、
0:04:40	の相互相関といいますかですね、それで減衰定数を同定しようとしているわけで、
0:04:48	そのあたり
0:04:50	明石さんの方 9 電の方で選考されてる場合ですね、おぶつ数値の違い。

0:04:57	による減衰への影響というものを何かこう考えられたかどうかその辺りをちょっとお聞きしたかったんですがいかがでしょうか。
0:05:06	はい。九州電力の明石でございます。まず、9電の方でどうだったかということについてはちょっとこれ結果論になるかもしれませんが、限界を超えてちょっと仙台も同じことやった。
0:05:18	ですけども、票数もちろん無理をしてるんですけど、表層まではほぼかたいところで、地震観測やってましたので、
0:05:29	あまり気にしなかったっていうのがちょっと結果なんではございます。とは言いながら、気にしなきゃいけない場合がどうなるかということこれ、耐震建物08年の後段の方にありますけども、
0:05:40	東と西がやっぱなかなかうまいってそういう解析状況わからない。何でだろうと見てみたら、かなりやっぱり表層の影響を受けて、要は表層でガバツと。
0:05:50	うん。重複するというか10個反射の影響を受けてどうも、かなりアノ波の輸送が変わるということになってしまう。やっぱりそのような表層の影響が大きい場合はやっぱりその地震は寒色ってのはこれ適さないんだなっていうのが、
0:06:05	今回はからずも見てとれてるところで、一方、中央事故を見てみると、表層イワサキのおっしゃる通り、10メートルベースの
0:06:14	表層ありはしますけどもそこで、何がしか波の性状属性上が大きく変わるっていうようなことにはなっておりませんので、これ、結果論という言い方は正しくないのかもしれないんですけども、
0:06:27	表層も含めても、岩盤も含めて、
0:06:31	減衰、運営については適切に見積もられている。
0:06:36	いうふうに判断をしております。
0:06:39	以上です。はい。規制庁浜崎です。これ午前中の話もありましたけど中央地盤の場合は比較的インピーダンス比がほぼ同一といいますかあまり大きな変化はないと。
0:06:51	いう結果に基づいて、岩盤部分の減衰評価を今回は行ったと。
0:06:56	いう観点からすればダンダン部分の減衰と、
0:07:00	いう観点で、
0:07:04	干渉法の結果についても、大きく表層の影響を加味されたもの。
0:07:09	というよりも、岩盤中心の減衰という結果と受けとめているというふうに事業者の受けとめを理解しましたが、
0:07:17	そんな理解でまずよろしいですか。

0:07:19	九州電力の明石でございます。我々サポートしてるメンバーの理解としても今ハバサキさんがおっしゃった通りの理解でございます。以上です。
0:07:29	はい規制庁ヤマザキですありがとうございます。
0:07:32	で、二つ目にちょっと勸奨でお聞きしたかった今明石さんの方からまさに言われた、資料ですと 496 ページ、今回ですね、東側地盤については、
0:07:43	競争特にやわらかいということで、その表層内での長官者がかなり影響してですね干渉法に適さないということだったんですけども、
0:07:57	そうすると、地震干渉法の適用条件っていうのがあるかと思うんですけども出てくるかと思うんですけども、それについては、何か考えといますか。
0:08:08	明石さん、或いは元、元の方でですねこういう考えで今考えてますというものがあれば、教えてもらえればと思うんですがいかがでしょうか。
0:08:24	はい。日本原燃の緒方でございます。そちらにつきまして今回この地震観測点のところではいきますと 505 ページにあるようなところで、 V_s のグラフに対して町長があつてですね、フランスが大きいですというふうなところを書いておられますけれども、
0:08:38	実際の設計アノ地東側地盤のところではですけども、実際建物のところには埋戻しというものが分布しているところで一方でこの地震観測点というところがモリノというものが分布しているというところでモリタというのは見ての通りこのようにフランスが非常に大きくなるような看板と、
0:08:53	インピーダンスが大きくなるような、地盤になりますけれども埋め戻し層につきましては、モリノことはやわらかくなり、また、そのモリタの埋め戻しとの硬さをきちんと評価した上での入力地震動の算定を行うことになりますので、
0:09:06	あくまでこちらにつきましては、岩盤部分と表層部分モリタというところがございまして設計条件との違いがある上での紹介になるということ認識してございますので、あくまで入力地震動の算定に直接これが反映さ、
0:09:19	同じようなことが起きるといようなものにはならないと考えてございます。以上です。
0:09:23	はい。規制庁、大関です。
0:09:26	ちょっと私が聞いたかったのはですね、例えば 505 ページでもいいんですけども、
0:09:31	左の中央はインピーダンス比が小さかったエミが、ヒガシが大きかった、ヒガシなら適用できなかった。

0:09:40	じゃあ、インピーダンス比がどのぐらいなら適用できてどのぐらいは適用できないっていう。
0:09:46	それがある意味自身は干渉法の適用条件になってくると思うんですけども、
0:09:50	そういった観点では、これやってみなきゃわかりませんっていう話なんですか。
0:09:57	はい。日本原燃の緒方でございます。こちらにつきましてインピーダンスがどのぐらいであれば駄目なのかというような線引きというよりは、実際に観測記録としてえられているものやってみたらわからないではなくて、やってみる前に、この使うデータとして見てみたときに、いわゆる
0:10:14	掲示特性というかトナミの形がですね下からきちんと上がってきて帰っていったかというような傾向、こういったものがきちんと見れるような地盤になっているか地盤というか観測記録になっているかというところが大事だというふうに考えてございます。そういうふうなところの3点で判断をして、
0:10:29	できるできないというところを配置していくものと考えてございます。以上です。
0:10:33	はい。今のお話でスタッキングのそのは形を見てという観点でよろしいわけですね。
0:10:44	はい。例年は先生おっしゃる通りは形を見ての関係で、
0:10:47	はい規制庁ハバサキです。結果的に今回藤スタッフが10mかな、こういった評価を含めてもうちょっと東側に関しては、
0:10:59	やってみたけどできなかったというふうに理解しました
0:11:02	今後、西側であったりこの深夜干渉法の適用条件っていうものが、
0:11:08	これは六ヶ所のサイト、
0:11:12	に一般化するものではないのは、わかってますけれども、一つ、られた知見ということで理解しました。
0:11:21	はい。地震干渉法については私からは以上になります。
0:11:26	赤井さん五味さん、何か話そうとされてました。
0:11:29	九州電力の明石でございます。いや、もう委託とかで今浜崎さんにもまとめていただきましたが、適用条件というのはなかなか一般化して求めるというのはちょっと非常に難しいかなとは思っています。
0:11:42	で、まさに今回やってみた結果東側なんかでうまくいかなかった。何だろう。分析してみると、なるほどこのぐらい、リーダーとしては大きいと、なかなか難しいんだっていうのが、

0:11:53	改めてわかったんですよと思いますんで、それをどう判断していくのかっていう、これ先ほどオガセの方から申しあげました通り、やっぱり八卦を見ながら、
0:12:05	これはやっぱりちょっと厳しそうだなっていうのを判断していこうというだから丁寧にやっていくしかないという現時点では、というふうに
0:12:15	考えます。はい。以上でございます。
0:12:18	はい規制庁ヤマザキです。説明ありがとうございました。我々自身は最初法定かなり新しいといえますか、そんなに従前、
0:12:28	いろんなところで使われているものとは、
0:12:32	言えないかなというふうに思っていますので、今後、今回減で使ったという観点でですね、しっかり見ていきたいというふうに思っています。ありがとうございました。
0:12:44	他地震干渉法関係で、厳然な規制庁側から、
0:12:51	※アノして、
0:12:54	コメントだけではなければです。内容ですね、ちょっと。どうぞすみません。そしたら干渉法については以上なんですけども、
0:13:00	1点伝達関数の方で確認したいところがありますので、これは先週間もうヒアリングでもちょっと確認したんですけれども、
0:13:11	今回伝達関数の流れとして、例えば資料で言うと475ページ。
0:13:18	これは中央地盤で通り或いはしやすい形の減衰の応答スペクトル、GL-18メートルにおける応答スペクトルを書いているということです。
0:13:33	一方、これに対応するですね
0:13:37	これに対応するといえますかともなってきた、応答スペクトルがごめんなさい、伝達関数、
0:13:45	今回、減衰評価で、原資を同定した。
0:13:50	伝達関数は465ページに伝達関数がありますので、
0:13:55	これ、
0:13:57	全体をオフしたんですけど、あくまでも今回減衰評価をしている作業プロセスとしては、
0:14:05	まず、
0:14:07	この月間数に合うような形での、あと減衰をリニアな、或いは4月、一定の条件で、
0:14:18	フィッティングする。
0:14:21	作業でそれに基づいて、しやすい或いは使用水量なしの減衰定数を、まず同定しますと、
0:14:33	いうことをしました。

0:14:35	で、その贈呈された減衰定数を使って、
0:14:40	はぎとり地盤、或いはアノヒガシに関してはチューニングが起こされた。
0:14:45	地盤に減衰定数、その同定結果の
0:14:49	定数、減衰定数を入れて、1次元波動論で、475 ページの
0:15:00	入力等の応答スペクトルを計算したというプロセスでよろしいんですね。というのは、
0:15:07	465 ページ、伝達関数が出ていれば、
0:15:12	この伝達関数に基盤位置の不ぶれ振幅といいますか手話西暦のですね、入力度の
0:15:22	無理を入れれば、例えばGL-18メートルの応答というものは計算できるわけですけども、
0:15:30	あくまでも 465 ページの伝達関数っていうのは、減衰定数を同定するためであって、入力動は 465 ページの伝達関数からは計算していませんよと。
0:15:43	いう理解でよろしいんですね。
0:15:51	あ、規制庁岡崎です。小口さん聞こえました。
0:15:54	はい。聞こえました。ごめんなさい。
0:16:00	今やっていることをすいません、いいます。
0:16:05	465 ページにございますけれども、
0:16:09	モデルルート表と、伝達関数の各深さ間のグラフ、伝達関数のグラフがございまして。これが同定結果でございまして。
0:16:19	ここにこの隣の表にVsと減衰定数が出ていますけれども、トレイのモデルに正しくこの 125 メートルに、地震観測記録のアーチアマヤ速やか-200 メートルの最深部のところに地震観測記録を入力して、
0:16:37	マイナス 18 でアウトプットしているところになりますので、やっていることはこの 465 ページにある伝達関数を、マイナス 200 メートルからマイナス 18 メートルに掛けてあげるつまりは衛藤だからこれの中の③、違う。
0:16:53	⑤ですかね、の伝達関数を入力の地震観測記録にかけてあげて、何だ、出してあげてるっていうのがシミュレーション解析でやっていることになってますか。すいません何かおっしゃっていることすいませんそこがありました。申し訳ございません。
0:17:09	規制庁浜崎です。465 の⑤の伝達関数でGL-200 の観測記録のフーリエをイデ、
0:17:19	入れて掛け算して、マイナス 18 の応答スペクトル、475 ページ。

0:17:28	ページが出ているということですか。
0:17:32	はい。日本原燃オガセですその認識しております。
0:17:36	出ちゃう時です。そうするとですね。
0:17:46	例えばですね今 460 ゴトウ 465 の伝達関数にしても、475 号、オートスペクトルにしても、これ横軸周期ですから同じなんですけども、
0:17:59	例えば短周期の傾向が、伝達関数の傾向と応答スペクトルの傾向が逆のように見えるんですけども、
0:18:11	はい。はい、日本原燃のオガセです。了解いたしました。そして数DSFのこの比率を掛けたところで、必ずしもこの応答スペクトル上この対象関係の倍率でかかるかといったらやはりそうではない。あくまで、
0:18:25	古瀬クトルというのは波の成分ごとの振幅を見ているものであって、応答スペクトルはその時ずれている最大値を周期ごとにプロットしているというものですので、必ずしもこの倍率に対応するとは考えていません。実際にそういうふうな傾向にあると思います。
0:18:41	これが起きている理由といたしましてはどっかに書いて、
0:18:46	シミュレーションの、
0:18:49	あと 474 ページのところでございますけれども、
0:18:56	474 ページの一番下の段落と、その上の段落真ん中よりも下側ですね。
0:19:04	結局短周期側のところで伝達関数上多少小さい方に離れていたとしても、やはりいわゆる一番の一次的なところとか二次的なところを、大きく今回アノを行って減衰のほうは評価しているものになりますので、そこでやはり最大加速度とか短周期側の地震動も一緒に励起されるものになりますので、
0:19:23	シミュレーション解析上はきちんと大きな値としてなるような設定になってましたというところがこの一定減衰のシミュレーションのところの結果でございます。以上です。
0:19:32	先生浜崎です。ちょっと理解できないのは、465 ページの伝達関数で、その赤と青の相対的な関係ですね。
0:19:43	4 月 1 日エビナの相対的な関係が、応答スペクトルにすると逆転やんしてるように思うんですけども、これはなぜ逆転するんですか。
0:19:53	はい、どうぞ。すいません、九州電力の明石でございます。今ご質問いただいているところこれ 9. 玄海の川内なり能評価でも、
0:20:04	同じことが起きてるという言い方おかしいんですけどもそういう結果になってるんですけども、要はふうにディーエムエスで見るとあればハバサキさんおっしゃってる通り、この伝達関数の傾向がそのまま現れてきます。

0:20:20	それを応答スペクトルとして見た場合、要は殊、成分ごとの
0:20:28	助成の大きさじゃなくて冒頭として見た場合は、特に短周期側は、
0:20:33	より長周期側の123次あたりのピーク、これに引っ張り上げられる形で、オートスペクトル自体は持ち上げられますので、フリーベースの傾向はこうでも、
0:20:48	オートスペクトルとして見ると、短周期側特にここで言うと、コンマ2三行、或いはもう、もうちょっと先のオートスペックデータスタンスのピークに応答は持ち上げられて、
0:21:05	短周期側も上がってくるということになります。なのでもってして応答スペクトルで見ると、短周期側はこの赤線、
0:21:16	の方が大きくなったりという傾向になるというものです。だからもうそのデータ使うんです。目的関数に合わせるときに大事なのは、短周期側が合ってればよりいいんですけども、
0:21:29	この一次なり二次なりのピークの位置であったり大きさを、少なくとも過小評価にならないようにとらえられていると、いうことが大事になってます。
0:21:41	いうふうに認識しております。以上です。はい、規制庁ハバサキですわかりましたそうするとアノGL-18-Vをかけば連絡関数と同じ。
0:21:52	結構、相対的な傾向だけでも応答スペクトルにすると、
0:21:58	逆転現象が起きていると。
0:22:02	いう理解でよろしいわけですね。
0:22:05	はい、原燃の緒方ですおっしゃる通りのご理解でございます。はい。規制庁浜崎です。説明理解しました。あくまでも
0:22:16	JR-200における入力のフーリエにかけている伝達関数は、
0:22:22	今の例ですと、465ページの⑤でしたっけ。
0:22:27	⑤の伝達関数をそのままかけていると。
0:22:31	いう理解でいいわけですね。
0:22:35	はい。日本原燃はすべておっしゃる通りでございます。はい、山崎です。はい。説明理解しました。
0:22:48	と、減衰に関してはですね、あと、
0:22:55	追加調査の件もあるかと思うんですけども、
0:22:59	これに関して、
0:23:01	まだ、
0:23:02	市長がわからない。
0:23:04	ゾーンといいますか、コメントしてないんですけど。
0:23:07	そちらに移ってよろしいですか。はい。

0:23:10	時田浜崎です。
0:23:13	そしたら、ちょっと私の方から、最初ですかね、追加調査の件ですね
0:23:20	ちょっと確認したいところがあります。
0:23:26	ちょっと待ってください。
0:24:03	こちらに本年6月でございますけど、
0:24:07	社長浅尾さん、何かご発言してるでしょう、少しお待ちください。今、資料今、ご確認になってますので、
0:24:16	はい。
0:24:17	六ヶ所了解しました。
0:24:44	規制庁です。じゃあ、ちょっと間をつなぐ。
0:24:47	さっき話してたUDだと、同じ傾向でますねっていうのを、
0:24:54	実際フリーエの例を、あって、こんなもんですよっていう説明可能性、
0:25:04	衛藤、はい。できますというか重なるだけの絵になりますが、はい。
0:25:09	かけます。
0:25:11	はい。
0:25:12	はい、規制庁。
0:25:14	全部が全部じゃない。
0:25:16	だけどあのねそういう疑問に対して答えられるようにとかあと、
0:25:20	秦さんに言っていたように、
0:25:22	イエス。
0:25:24	やっぱり
0:25:26	一次の周期の辺りの周期1だったり、その国との関係が、スペクトルでいったときは大事なんだっていう、
0:25:35	そういうところがの大小関係だったりっていうのをやっぱり見るのがふさわしいんだっていう
0:25:44	結構前から伝えてきちゃうんですけどどうやってこのデータを見るんですか。ドイポンプで判断してるんですかっていうところのいい例だと思うんで、そういった説明は書いていただくと、
0:25:58	何となく合ってるんだか何だかっていう、
0:26:03	和風をですね、的なですね、いう
0:26:07	なので、意識して表現していただくとスムーズに審査を
0:26:17	はい。日本原燃の緒方でございます。午前中に確か岸野さんからいただいたご指摘の中で、判断の考え方みたいなのところを書くことになってございましたので、そのところに、今の考え方についてもあわせて記載したいと思います。

0:26:31	はい。清とか、判断の考え方というか後ろの方にだけ書いてあればって いうのは
0:26:39	それだけでもない施設。
0:26:44	作ってもらえれば、
0:26:48	はい。かしこまりました。
0:26:50	はい。木瀬はいいですか。規制庁浜崎です。追加調査についてはです ね。
0:26:56	今回追加の位置が 540 ページに表示されています。
0:27:04	BS欠損
0:27:06	それで、これ前回のヒアリングでも言ったかと思うんですが、建物近傍 の一律と建物の影響が、
0:27:16	特に減衰を大きくする方の影響は入るのではないですかということに対 して、そういったノイズといいますかそういう直達は言いたいので。
0:27:27	影響については今回は計測の中でキャンセルをしますと、
0:27:32	いう説明があったというふうに理解していますが、まずその理解はよろし い。
0:27:38	はい。当然設計のウノでございます。キャンセルするというよりはです ね、もう 20 メーター程度離すとですね、建屋の影響等がないというこ とを確認しておりますのと、
0:27:49	あと今モニター深度のですねモニターとですね、実際観測は形をです ね、コリレーションがもうその場でもかけられるのがわかってますので、
0:28:00	この荷重がその町下に入るということは確認しております。
0:28:06	いいですか。社長浜崎です。今 540 ページの観測位置っていうのはそう すると、建屋からは、20 メートル以上といいますか、それなりの距離を 離して、
0:28:19	計測しているということよろしいですか。
0:28:22	当然設計の方でございます。その次、そういうふうに設定してございま す
0:28:26	はい。規制庁和崎です。
0:28:29	その実績も多分あるかと思うんですけれども、片やですねやはり竹山 は、その建屋から 20 メートルといってもやはり建屋の大小にもよるか と 思ってますんで、
0:28:41	共同文献でもですね、やはり建屋近傍には、PS検層は、影響が、
0:28:50	否めないもので、例えば建屋幅相当に離すだとかですね、もう一つ考えら れるというような視点もあるわけで、要は

0:29:00	今、コリレーションといいますか、計測をしながら、観測をしながらという話ならばですね、これ例えば1次元波動論で、
0:29:12	当店
0:29:13	一応転換しにした。
0:29:15	形で、理論的な、深さ方向の葉系と比較をして、確かに計測と、
0:29:26	一体まったりといいますか、適用し、整合しているんで、建屋の影響はないことは確認できますと、というような作業もできるかと思うんですけども、そういう確認ができるかと思うんですけども、
0:29:42	当然設計のフローです。六ヶ所の方は何かその辺、
0:29:47	検討することができます。
0:30:03	はい。
0:30:04	多分そうだ。
0:30:17	あれ。
0:30:20	はい。日本原燃のオガセでございます。ちょっと具体的にこういう形にしないというところの計画があるわけではないのは、もし実際のところでありますタダノ、実際にこのPS検層結果が獲られた時に、表層建屋が埋まっているようなところ、表層部VSというところが、今まで我々他の部
0:30:37	場所でも行ってポイント結果を持っているところでございますので、同じ会社なのに特別に堅いような傾向が出たりとかっていう、そういうような、いかにもこれタツモのコンクリート捨ってるねみたいなのが見えないかどうかのチェックは当然やるつもりでございましたので、ちょっとそれを見ての、
0:30:52	いろんな判断が入るのかなとはちょっと思っておりますすみませんちょっとまだいろんな思案段階ではありますが、はい。これぐらいです。以上です。
0:31:00	はい規制庁ハバサキです
0:31:03	事前にそう言ったことを他の事業者がいいですね、
0:31:09	研究ベースでもやっているとかいう調査をされているというようなことはないということで今、理解しましたんで、先ほど言いましたように、一律20メートル、
0:31:21	おそらく、やはり地盤にもよったり、隣接する近接する建屋にもよるわけですし、
0:31:27	やはり、その地盤の効果っていうのは基本的には、地盤の振動押さえ込むようは減衰から、振動からすれば減衰効果になるわけなんで、
0:31:39	きちんとそこはやっぱり、問題ないです今のその計測で問題ないですっていうのは、確認する。

0:31:47	が必要かなというふうに思ってます。
0:31:51	ので、その手法が、さっき言ったような解析なのか、或いは他の方法なのかも含めてですねちょっと説アノちょっと説明を求めたいと思います。
0:32:05	よろしいですか。
0:32:25	原因の方でございます。東郷ですね、今おっしゃっていただいた話でいくとすいませんちょっと私も素人で言って申し訳ないんですけども、
0:32:35	近傍でのこの影響について、計測の上で何らかの問題ないということがちゃんと確認できてるかどうか、この検討を、
0:32:46	取り得る手段の中でやりなさいという、包括的なことをおっしゃってるんだと思いますので、ちょっと我々の中で何ができるか考えて、
0:32:57	それをご定義すると、ということのかなと思いますけども六ヶ所はいかがですか。
0:33:07	はい、元アカセですかしこまりました。
0:33:11	施設尼崎ですアカシさんの旧メインの方でもですねPS検査を追加でやってるんですが地盤条件はかなり違うんですけども、
0:33:23	何らかのそういう、地上構造物の影響とかですね事前に検討された。
0:33:31	ということはないですか。
0:33:34	九州電力の明石でございます。技術関係としましてはそういう区独自の拳呉というところまではやっ
0:33:45	てございません。
0:33:47	で、これ先ほど尾野さんの方からもありました通りやっぱり竹井から一定程度離れている統制が影響がないと、もうまさに経験値を持ってやったところもありますんで、
0:34:02	阿藤松井で申し上げた、他社でも何かそういう事例があるかって私、ちょっと浮かぶところありませんのでそこを明快に何か整理したものがないのかなというふうには思います。
0:34:15	全然関係ないかもしれませんが旧NUPECでは、隣接国家試験等々をやったことがありますので、何かその辺を参考に整理することができないかなとは思いますが、
0:34:30	いずれにしろ、浜崎さん、ご指摘されてる趣旨は理解しましたので、結果の大きな影響はないかと思えますけどもこれこれこういうことですよということが述べられるようにちょっと整理は考えたいと思います。以上です。
0:34:45	はい。規制庁浜崎です。はい
0:34:50	今回の資料ですと、これまでもさっきの宇野さんの回答です。
0:34:58	しかないといえますかですね、それは工場の

0:35:02	資料の中にもあるんですけども、
0:35:04	それをもって、本当ですねっていうエビデンスを欲しいというところが我々、私の趣旨ですので、
0:35:13	説明の準備の方お願いします。
0:35:16	はい登壇設計のものでございます。これ今、簡素腔してる技術者ともですね、この辺のところをもう一度ちょっとお話ししましてですね影響がないっていうことはもう確認を、先ほど明石さんがおっしゃっていただいたように経験上、
0:35:29	影響ありませんよっていうことで私の方も承ってたものですから、ちょっと簡単に線形を変えてみるとその速度が影響しないっていうのはわかってたんですけども、
0:35:40	今おっしゃられたようなその制震効果みたいなのが、その減衰にどういうふうに影響するのかっていうところまではですね、ちょっと技術者の人と話をしてないので、ちょっとその辺のところもですね含めて、もう一度ちょっとこちらの方で、検討させていただきたいと思います。
0:35:54	はい。規制庁大関です。よろしくお願いします。
0:35:59	成長カミデですけど、どうするかちょっと悩まれてるようでしたが、問題意識としてはちゃんとデータとれるところで調査してますよねっていうことなんですよね。その一つに建屋の地下過ぎたら、
0:36:13	現世遅れてることはありませんかっていうことに対して、どういうロジックで、大丈夫ですっていうかっていうことなので
0:36:22	提案から離れただけ離れていればいいんですけどっていうだけだと、ちょっと突っ込みどころもあるし、DOWAとかいろんな話が出てくるんで、
0:36:33	後付かもしれないですけど、出てきた結果からこういう分析をすることで妥当性が示せますよっていうことでもうありなのかもしれないし、
0:36:45	バックを見たら建物近いところと遠いところ、地中埋設なさそうなところだとれたりもしてるからその傾向も見て考え、
0:36:56	いえるかもしれないし、いろいろアプローチがあると思うんですけど、
0:37:00	収支としては本当に大丈夫なところで、調査してますか、ちょっとあやしいんだったら調査結果に副スペースがつくんであれば、抜けた幅す。
0:37:10	そういうこともあるんでしょうということなので認識いただければ、
0:37:15	はい当然設計のフローでございしますが
0:37:18	基本的には基礎も大体平均値といえるプラス 35 円ということで表層から 20 メーターぐらいまでですね、その下も連続的に、今回減衰の方は、
0:37:30	とっておりますので、下の方ですとそういう影響がなくなるのでさ、今、進藤させてるところに、そういう精神的な影響があるのかとかですね、ちょっとその辺のことで、

0:37:41	層ごとに、ちょっとその減衰がどうなんだっていうこともですね、ちょっと見ながら、ちょっと検討させていただきたいと思います。
0:37:49	全然ノモトございます。一般論にはなるんですけども、まずそういう規模の建屋についての影響が、そういう確認するようなすべが、
0:38:01	何かあるんであればもちろんそれを採用させていただくと、それが、さっき尾野さんおっしゃっていただいた技術者にちょっと確認して何かそういうふうな危険を持たないかということを確認だと思えますし、直接的にそういう、
0:38:14	影響を確認するすべがないのであればさっき神野さんからおっしゃっていただいたようにできたデータを見ながら、それに不自然なところがないかそういう影響を示唆するようなものはないかと。
0:38:28	有効性のもとに間接的にそういう、我々の考察を加えると、いっぱいあるんですけどちょっとそういうふうなアプローチできることをちょっと、とにかく我々カー杯やらさせていただくということなのかなと。
0:38:40	いうふうに理解いたしました。
0:38:43	すいません六ヶ所側のちょっと疑念とかをお伺いしなくちゃいけないことってありますか。
0:38:54	はい。原燃のオガセです。そういった進め方だと思っております基本的には多分最終的には我々れたデータを見て、今まで持ってるデータないし追加でとれたデータの中での相対的な比較みたいなところをして、いわゆる変なものがないかというところの観点から進めていくのが、
0:39:10	いいのかなというふうに考えております。以上です。
0:39:15	はい規制庁浜崎です。
0:39:18	減数に関して、私は以上ですが、清町側から、
0:39:23	ないんですか。
0:39:26	ないようでしたら減衰度、これ振り返りとか、
0:39:31	それでやりますか。それでいいですかね。はい。
0:39:35	はい。規制庁安倍です。
0:39:37	そしたら次は、良い、はい。
0:39:41	ですけど、ちょっと本文の方ですね。
0:39:45	1階部分の、
0:39:52	特にはそのホームページのところから、
0:39:57	全体の指導が、
0:40:07	結構、
0:40:11	地盤の実態を考慮したパラメーターの設定っていうのがあり、
0:40:17	それをしてから、基本地盤モデルを設定します。

0:40:22	ということですね。じゃあ、伴今の関連で、減衰でいきますけど、
0:40:30	原水における地盤の実態を考慮してパラメーターってどんな何とんどん、
0:40:37	明示して、
0:40:40	はい。はい。すいません。失礼しました。野川さんお願いします。
0:40:49	越智。すいません。はい。辨野大橋でございます。塩水での地盤の実態を考慮したパラメーターというところについては、これ入っているところがあるんですけども、
0:41:02	そうですね。
0:41:09	42 ページ。
0:41:17	ハタすみません、4、
0:41:20	45-3、43 ページになります。
0:41:26	というところで減衰のところの実際パラメーターの設定というところの検討結果のところを示しておりますけれども、減衰としては簡単に言いますと、長周期側のところにおきましてはサンラン件数が確立する。
0:41:39	なので周波数依存性を持っているであろう、一方で更新 3 周期側、
0:41:45	委員は周期側につきましては、材料減衰が 100% 来る。
0:41:50	ちょっと、
0:41:51	最終期間につきましては材料減衰が卓越していて、一定の減衰になるなどそれが実態であろうというところでございます。
0:42:08	一応すいません、補足、補足自分でしますけれどもこれらについては、いろんな評価の懸垂材料だけに着目したもの、算段も含めてのものに着目したもの、それにいろんな主要手法ごとにある、
0:42:22	シンライ周波数負担そういったところを考察してトータルとして、まず地盤の実態としてどんなものになっているのかというところの下考察でいくと、今申し上げたようなところが実態だと考えております。以上です。
0:42:39	長
0:42:42	多分あれですよねと思うんだよね。
0:42:46	そうすると、地盤の実態を考慮した減衰定数に気づいて、
0:42:54	西側中オオヒガシ、わかりますね。
0:42:58	それをエリアとって、
0:43:02	一つ。
0:43:03	要はいろんなものがある中で、
0:43:10	三種がないんでしょうけど、一つ一つの
0:43:15	Dたに沿って信じていくってということですか。
0:43:20	現にそこは、

0:43:25	分けるべきなのかどうかということも考えた上で、今、地盤の実態を考慮した、一番、
0:43:37	実態を反映してパラメータというのはやっぱり設定しないといけなくて、
0:43:41	分ける話っていうのはだから、データはいろんなものが出てきますけれどもそれ一つ一つが、やっぱりそれぞれデータではあるわけなので、
0:43:52	それが一つずつの地盤の実態表したデータなんかあったら、ちょっとそうではなくてそれをみんな見た上で減衰定数としてはこれが最もらしい値であろうということを設定することになると思う。
0:44:03	だから、今おっしゃっていただいたようにヒガシ9をですね別々に設定するということもありえる日、三つまとめて、設定するというのが
0:44:15	宗自体としては、まあ、いいんじゃないかっていう設定もありえる日っていうことなんだとは思ってるんですけども、それをちょっと決め打ちで今、
0:44:25	言う話ではないんだろうなという思いで、こういうまとめ方をしてるっていうようなところではございます。
0:44:31	日本原燃のオガセですいません補足させていただきます。今のお話でいきますと中央の中では今の観測記録と伊佐検層から出てきたものっていうところでそれぞれ中央の中でも1ヶ所ずつというようなデータに基づいているというところで、
0:44:45	代表的なところで見え方になってるかもしれません。ただし資料の中でも記載を減衰のほうの2-3のところではしているんですけども、このSは検層の評価を追加いたします。それが各中央の中でも各部分の部分で出てくるものでございますので、それに基づく相対的な比較とかそういうようなところの確認を踏まえまして、
0:45:04	実態としては、各建屋ちゅうかグループごとに、それぞれ考察すべきものだと認識しています。その上でそれに例えば相対的な差がないであるとか観測記録を用いた手法との整合性が、
0:45:18	そういったところの確認をもって、設計上、それをまとめていいかどうかっていうところは基本モデルの設定のところを考える話だと認識してございます。以上です。
0:45:33	まあな私が何を言ってるかっていうと前回の開校で、まずはその、
0:45:38	データをまずはフロッピーで技術的にこうフェアで、見たようなデータをちゃんと見て、うん。
0:45:48	何を使うと。うん。判断するんですよっていうこと。
0:45:51	に対してはイエスって言われたことを、はい。
0:45:55	どの段階でこの6ページのフローで言っている、どこでやるつもりなのかなど。

0:46:00	ということなんです。
0:46:03	ちょっと、日本原燃の加瀬でございます。そちらにつきましてのご指摘につきましては、まずはデータをフラットに見るところで、ちょっと別紙2-3の内容にもちょっと入ってしまうんですけども、やはり今後追加するデータも含めて、
0:46:17	もうフラットにマツノ、そういうものをデータを全部で見っていきますよというふうなところで今回話を始めさせていただいてございます。その上で今現状はデータにまだその各場所におけるデータの穴あきがある状態で、
0:46:29	のところとして中央認識が非常に本日の数字になっているところでございますけれども、当然そのデータが出次第それをフラットに見て、各グループの特徴というものを見ますということになります。
0:46:39	その1というのはその地盤の実態を考慮したパラメータの各評価のところ、各データの分析の中で、もう入れていくというような形を考えているところでございます。以上です。
0:46:51	規制庁亀井です。
0:46:56	そんなに変わってないのかなって感じですよ。
0:47:00	ことパーで地盤の実態っていう言葉によっ
0:47:04	ちゃってるのかもしれないですね、どこで何するんだ。
0:47:10	ちなみに
0:47:13	実態がこうありますっていうことと、あとは工学的に設計にこう使えますという設計判断があって、
0:47:22	チューニングがある。
0:47:24	うん。
0:47:26	(6)に入るところで、(6)の中にあるのかなと思っていただく。うん。もう括弧の中で、もう1回やっちゃう感じでその上でさらに、
0:47:40	本郷の中でも、これ、いろんな電車があるんだけど、いろんな減衰がとれますよね。でもこれだって、一旦まず決める。
0:47:50	それをさらに(6)のところ、設計で扱いやすいように、もう1回チューニングする。そういうことをやろうとした意味ハートランド権限のことです。衛藤君ウオッシュ者、
0:48:02	てることがその通りといいますか減衰でいうと、幾つもの、いろんな手法によるデータが全部並列には並ぶわけですけども、
0:48:14	それをもとに、減衰定数って、じゃあ何なんだというのを、一番最もらしい値を、まず、香田米と決めてやる。
0:48:26	というのが、地盤の実態を考慮したパラメータの内数でやろうとしていてそこが、何か判断配分や入ってるんじゃないのという、

0:48:36	ことでおっしゃる、おっしゃってるということだとは思いますが、最もらしいを選ぶときのやっぱ、やっぱ判断っていうのはあるんだとは思ってます。そんな時に設計で用いるとか保守性とかそういうふうな、
0:48:48	考え方は今入れずに、最もらしいところを見かけるという意味で、そのDたのあれを見てちょっと決めてくってなんか、そういう行為なのかなというふうに思っておりました。
0:49:01	規制庁管です。その辺の、うん。ここでの保守性の場面っていうところではより確からしい上がりas-isのところっていう
0:49:13	目線で判断するんだ、どうしていくんだっていうところが、
0:49:19	あんまり書かれてない。
0:49:23	多分あのページの職員とか、
0:49:28	ホデない。
0:49:29	成果は何かよくわからない。
0:49:33	だけど、何をしますか。何を休んで、(2)では(1)からもらったものがないで、それをどうして、次は(3)に何を渡すんですかみたいなことが、
0:49:48	ちゃんと書いてなくて特にその括弧 456 って何すんですかっていうのがよくわからないから、その辺を少し整理をしてもらった方がいいなというふうに思います。
0:50:02	それでいうと、4号はよりas-isに近い形の、新地みたいなのを探しにいくんだということで、それを(6)の渡すんだけど、(6)っていうのは新築等件数でいったって、傾いてるような件数がもらっちゃった。
0:50:20	そのまま、それでお返りするわけにもいかないですから周波Ⅱ既存のシゲマスとか、
0:50:29	もしくはでもそれを、そのような場合ですね、もしかしたらこの中でやっちゃうのかもしれないですよ。その辺が私はそちらの考え方の要素があって、
0:50:38	当県の方でございます設計で使うときに使いづらから一転しますとかいうようなことをもしするんだとすればそれは6の中でやらなきゃいけないっていうのは、割合に変えたとは思ってます。
0:50:51	だから、
0:50:52	うん。なんだけど今そういう総数とも書いてないじゃない、多分何かはい。
0:50:57	どう考えるかですね。
0:51:02	ちなみに、今のその件数ってまだ全部出てないんでね、
0:51:07	最近ではないですけど、今取れてるのが、リニアバイリニアは周波数依存なしの、地震は、計画による。うん。

0:51:19	下水道ですね、三本D3 軸圧縮試験の方は、もうすでにありますので、Sはもう昔のやつがありますので、
0:51:29	そのぐらいの活用がかかるんで、今のところその地盤の実態として、(5)の計算でして、減衰っていうとトレーに当たりそうだと判断してます。
0:51:43	今、全部データが出てない中ではあるけれども、今あるもので設定していけば、伝達関数に基づくと、そのリニア型っていうのにはやっぱり帰着するんだろうなと。
0:51:59	いうふうには、大臣は思ってるところです。
0:52:02	はい、規制庁さん、わかりました。
0:52:06	それで言うとあれですね、来る時点で何かロジック的におかしいな。でも施設、それはあれなのか、先取りしちゃって、
0:52:17	あと衛藤リニアとバイリニアもやってますから、その影響線量で行って減衰も、同等の表現としてやってみて並べてみると、
0:52:27	いうところにはなるのかなというふうには思いますし、その結果として、ちゃんとこの観測局をちゃんとこの再現するのはどれかというような話にもなると思いますから、
0:52:42	これをフラットに並べるなんてさほどおかしなことではないのかなという気もちょっと私ワダしいます。
0:52:49	すいません六ヶ所が私についてた、教えてください。
0:52:59	はい。うん。規制庁で、そのときに今度、
0:53:06	岩盤の非線形のところでやってることと、今言ったことって、整合とれて、
0:53:11	うん、岩盤の非線形、基本的に、
0:53:17	非線形の方が、実態を過ごしていくわけですから、だけどもまあ大したことないから、線形でやりますよっていうことですね。そうですね。その判断を、
0:53:32	実態コール者は非線形だっていう判断で、頭だったんじゃないかな、そういう設定だったと、確か。
0:53:42	記憶してるんですけど。
0:53:54	すいません9電のアカシです。話の途中申し訳ございません。ちょっと今から別件で外しますので、終わり次第また戻らせていただきます。申し訳ございません。
0:54:13	すいません元の方です六ヶ所がごめんなさい。
0:54:19	そうですね、地盤の実態を考慮したパラメータの設定として、試設計の部門って非線形を考慮するが地盤ニッタ＝下で整理するんだ。
0:54:32	でしたっけちょっとすいません記載の箇所と、ご説明指摘いただければありがたいです。

0:54:37	はい。日本原燃のオガセでございます。実態スルー化そのパラメーターとしては非線形というものは物理的に存在しますが、その実態として非線形性が影響するかどうか試験形成が、入力地震動として現れるかどうか、入力地震動の算定結果に表れるかどうかという観点で、
0:54:54	それを実態として我々とらえているつもりでございます。そういう意味でこのいわゆる4番の中で、この入力にして、線形を比べてみたときに、そこに差がないというところの確認でもって、この岩盤部分につきましては、イセ系による影響が出てこないような、実際になっていくというようなそういうような話になっていると考えております。以上です。
0:55:18	あんまり、
0:55:19	はい。すいません。
0:55:20	なんで。
0:55:22	なんかちょっと時間差と違うというか、設計に影響があるかっていう関係でやってるから、
0:55:29	それでいうと、
0:55:30	一番の実態を考慮したものを使って、
0:55:34	もうワンクッション、入力地震動に対してみたいなんだろうなっていう。
0:55:41	ウワー。
0:55:43	あんまり、
0:55:44	今の段階でやっても、
0:55:47	うん。感じますので、
0:55:50	ちょっと本当にウタいい最終の仕上がりがどうかっていうところが大事。
0:55:56	ですけど、とりあえず綺麗な整理もません。
0:56:01	いうことなので、そこはちょっと知っていただいいただきつつ、このまま行くっていうのであれば
0:56:09	舌嚙まないようにしてくださいという感じですね。
0:56:13	元の方でございます。そうですねas-isっていうのはどこまでをas-isと呼ぶんだということではあるとは思うので、
0:56:20	おっしゃっていただいた様な内容にちょっとやりたい。
0:56:28	カミデはそうでしょう。
0:56:34	踏まえて7ページ8ページ、ちゃんと書いてもらって、展開が
0:56:41	それぞれの括弧幾つ。
0:56:44	御説明繋がるような部分の方も正式にしてるんです。はい。私の方からでございます。
0:56:54	規制庁のハセガワですけど、ちょっと
0:56:57	はい。

0:57:00	細かい話は別にして、
0:57:03	ちょっと、
0:57:04	話を聞いていると。
0:57:06	少しニュアンスなり、言葉をちょっと考えないといけないんだけど、皆さん、地盤の実態を考慮したとか、
0:57:16	ていう。
0:57:17	なんかもう実態はこうなんですと、いうことがわかるようなことを言ってしまうんだけど、
0:57:26	皆さんは今何をやってるかっていうと、様々な、
0:57:32	データ、これはデータは、ある条件下でとられたものとして、
0:57:39	すぐ行くんですか。はい。
0:57:43	それはそれでいいんだけども、最終的な地盤の実態っていうのはわからないんだよね。
0:57:49	必ずこれは様々なデータから、こういう感じじゃないかという推測をするわけですよ。これ推測っていう言い方は、
0:58:00	別の言い方をすると、様々なデータ今皆さんがいろんなことをやってるデータから考察を加えていくっていうことなんだよね。うん。
0:58:10	その考察の結果、ある程度、うん。この程度なんじゃないかという地盤の実態的には推測でしかないんですよ。うん。うん。
0:58:20	でもそれは割と確からしいに近いのかどうかというのは、このDたの、量とか質とかによっちゃうんだよね。うん。
0:58:31	だから今それをやっていると、いうことにしかならなくて最終的にもう地盤の実態は正確にはわからないわけで、推測でしかないんで、
0:58:42	そこに、最後のモデリングは、設計上のいろんな配慮を加えて、
0:58:52	何て言うのかな、そこに最終的に工学的な判断という言い方がいいか悪いかあれだったけども、そういうふうにして、水素くうの結果、両考察の結果を総合的に判断して、
0:59:07	設計上のモデルを工学的に判断するというそういうことなんじゃないかなと。だからあたかも実態っていうのはわかるような言葉の使い方は、
0:59:19	ミスリードになっちゃうんじゃないかなっていう気が、今聞いていきしました。
0:59:25	以上。はい。
0:59:26	K-NETでございます。おっしゃる通りですアノ神野を知る。そういう物理現象を知ったかのようにちょっと言うのは三角瀬田ということに理解いたしました。ありがとうございます。
0:59:38	はい、規制庁カミヤアノ私が、

0:59:41	聞いてたんで、そういう意識もあって、うん。
0:59:45	なので、うん。
0:59:47	はい。
0:59:48	認識いただければ。はい。
0:59:50	その辺も何かわかるように、まあさ。
0:59:53	だから、単純にただ並べるだけじゃないんです。そこに対してしっかり考察も加えてるんだけど、ここですべてがわかるわけでもないし、というところ。
1:00:04	ぐらいまで、うん。が、それを設計すると、
1:00:10	いう時に、ある程度扱いする形、火力は基本的には保守的ということ、こんな感じで設計していきますということになると思うので、わかりやすいようにしても、
1:00:23	はい。玄野元でございます。はい。承知いたしました。今ちょっと説明の中で、ちょっと私がかかってないところがあってすみません、混乱してしまったところもあったんですけどそこちょっとちゃんと話した内容に、
1:00:36	どこで線を引くかというのも、ある程度我々の中できっちり整備するだけの話だというふうに思いますのでそこもわかるようにということで、この記載等でもですね、ちょっと、
1:00:50	整理して参りたいと思います。以上です。
1:00:53	はい。
1:00:55	本文関係、全体的なところになります。
1:01:01	はい。特になければ、続いて今度競争ですか。何か説明してもらった方が、
1:01:10	もう次。
1:01:15	私の方から
1:01:16	県の方からこれだけは、
1:01:20	いえ、特にはいい、ご覧いただけてます通り、フローを追記してグルーピングをどう設定するのかの検討を行うという後のシナリオところを、
1:01:33	少しですね電力の支援の方々との議論も踏まえて直してきたところで、
1:01:39	はい。ご確認いただければ
1:01:43	はい、規制庁花木です。今まさに言われたですね、電力なり、その外部の技術支援を受けて、
1:01:50	表層についておられましたという、具体的にどこをどう、
1:01:56	変えたといえますか。

1:01:58	はい。ちょっとそこを説明いただけますか。はい。案件ノットでございます。えーとですね、全体にちょっと下線がざっと引いてあるのが、このですね1ポツ2ポツ、3ポツのところにはなるわけですがけれども、
1:02:13	このですね少し以前まで、その表層の基盤はですね平均であることを立証するというまず平均だという仮説を立てた上で、
1:02:25	理由がこれで少しずつこれですといったような説明に若干なっている嫌いがございましたけれども、そうではなくてですねこの表層の地盤のまず実態をご説明するということがまず先頭に立つんであろうと。
1:02:40	いう考え方にに基づきまして、3.1ではこの表層の施工ですねこれ銀行物でございますので
1:02:48	非常に行われたのかということをもまず記載いたしまして、3.2です。
1:02:53	向かって、どのように施工管理されていたのかと、いうことを調査結果述べまして3.3で、そしたらそのような管理をされている、地盤についてその施工によりばらつきは存在すると。
1:03:06	いうことを前提にばらつきどのように扱うかの検討を行うという流れに少し今後ですね全体の流れを変えて参りまして、
1:03:16	そうしますと、
1:03:19	今ですね目的といたしましてこれもともこの地盤物性をですね均一にするために、別に施工していたわけではなくて、そのトラフ下ビリティの確保というのがもともと目的であったと。
1:03:32	いたところもちゃんと書く形で、これはロジック整理していたというところでございます。尾野さんからごアノホシコだったらよろしくお願ひします。
1:03:42	はい今おっしゃった農産がおっしゃった通りで、そういう指摘を受けまして最初から平均ありきというんじゃなくて、施工状態から考えて同じものかどうか、同じなのはどうかってそれぞれどう施工されてどういふ答えが出てるんですか。
1:03:58	その答えが出たものに対して、それをどういふふうな、そのばらつきとして考えるのかっていう考え方じゃないですかというのが、支援していただいた技術者の方からのご指示で、それに向かってですね、文章をつくり直していく。
1:04:13	いうことでございます。
1:04:14	はい。規制庁浜崎です。要はプロセスをより客観的にご説明をした、したと。はい。いう事態で、そのイントロのところですね。
1:04:25	いうところで東海指定されたということでは理解しました。
1:04:30	ちょっと
1:04:31	あまり我々としては、前と何が変わったんだろうという。

1:04:35	その辺がですね
1:04:38	少し見えにくかったんで、一応数、何を強調されたっていうとその導入のところっていうんですね。はい。
1:04:46	はいわかりました。理解しました。
1:04:48	変わってないように見えました。
1:04:52	かなりショックです。違う。田崎です。
1:04:58	結論ありきではない。でも最終結論は、
1:05:02	何ヶ所かな、導入部分、とにかく入口のところを、
1:05:07	ちょっと客観的な目で、
1:05:10	まず入りますというところで、そこが変わったということは理解しました。
1:05:17	のやり方で、
1:05:19	部分というか、導入部もそうなんでしょうけど、その次に続いているこの施工
1:05:27	この部分でその佐渡ニイツ君で実際の仕上がりのデータ、D0 っていうのっていうあたりはまだそこそこは変わってないっていう。
1:05:39	何かいいですか。
1:05:40	はい。データそのもの、原燃の方でございます。データそのものは変わってございませんけれども、このですね追加調査で、この面的な不足ですとか深さ方向の不足ですとかそういうことを、
1:05:53	補った上でそのばらつきについての設定は、それを総合的に見た上でまた判断いたしますと言ったようなところのちょっと結論に向かって、補足いたします床だけじゃなくてちょっとそれを並べた上で、
1:06:05	判断いたしますといったような、ちょっと考え方を我々も少し改めて、オザキで衛藤出してきたところでございます。ちょっと補足でございますけど、
1:06:16	この当施工部分のストップファイルヤードにおける材料基準施工管理基準にのにかかるデータについての説明を追加しているというところでございます。以上でございます。
1:06:34	はい。よくあります。
1:06:38	もちろん参考資料。
1:06:40	うん。
1:06:41	現場でのその調整、
1:06:44	ん。
1:06:48	アノ説明が追加され、
1:06:50	以前よりその辺りイメージがしやすかったかなと私は、
1:07:02	すいません。

1:07:04	それと、規制庁の基準です。トランスアビリティの確保
1:07:11	うん。
1:07:11	そうだろうなっていうところだと思います。どこなんで、
1:07:17	琉球は 40 アトベコミュニティは確保、当然ついてる。
1:07:20	わけです、
1:07:24	まずそこを素直に、
1:07:26	多分、最初に述べていただいたので、より実態に近づいた説明になったのかなという印象は、受けました。一方で、
1:07:36	ニワ、このところ、
1:07:40	で、今、論点、
1:07:46	第 9 年度の仕方が、
1:07:49	転圧したときの仕上がり、品質管理方法とかは、
1:07:54	何か時期によって物が違ってるんじゃない
1:07:58	1 番目のパラメーターとして設定する時であるとか、単位体積重量とか、
1:08:04	変わるっちゃうのが、
1:08:06	素直に考えると予想される場所、そうじゃないんですよという説明の根拠として、
1:08:13	一つは、
1:08:16	流量調整の方法が、
1:08:18	次期土台が違って、結果的には、ほぼ同じようなさしとりなっちゃって、そのばらつきの中に、時期の違いが全部、
1:08:28	剛性に関わってくるような縛りの協議。
1:08:35	なんかもう、管理方法が違えども、結果的に同じ数字。
1:08:42	スっていう辺りの、
1:08:44	根拠をしっかりとすれば、
1:08:47	最終時期、場所ござい間違いなんかとらわれずに、同じ値になりそうだとこのところに結びつくのかなというふうに思って。
1:08:57	話を聞いているんですけどもそういう点ではまだちょっと、
1:09:01	ちょっと足りてないところもあるのかなあと。
1:09:04	思って。
1:09:05	おりましたのでその点について、
1:09:08	ちょっとうまく確認をさせていただくと。
1:09:15	585 ページ。
1:09:18	うん。
1:09:19	はい。

1:09:34	ずっと下線が引っ張って、1パラグラフ目。
1:09:38	ですけれども、
1:09:41	下から3行目あたりですね、コーン指数、締固めこちら問題地盤の強度からして、
1:09:49	基本指数は、先ほど言われております。
1:09:54	観点ですね。
1:09:57	何かって言うと、
1:10:01	娘カタギリをある程度確保すれば、
1:10:04	間接的には繋がらないかもしれない。
1:10:08	うん。
1:10:10	正しくないんじゃないかというようなところ。
1:10:14	あります。
1:10:19	次のカードがないですね。
1:10:21	取り組み、
1:10:24	要求性能って地下水の低減を目的としてというのは、確かに議論としてあるんですけども、
1:10:31	そういう観点から、
1:10:33	表層地盤を透水成分戦してもいい。
1:10:36	するんですという説明も、
1:10:39	後日、
1:10:41	衛藤、普通、
1:10:43	残ってさしてどう使うのが一般的だと。
1:10:47	これはなぜか。
1:10:48	もう常識なんでしょうけど、材料の会議も施工の管理しやすいやつも呼び出しと共同ですべて着地っていうか、
1:10:55	あと、
1:10:56	思いますので、そういう意味で指して使うのが、
1:11:00	普通で、透水性の確保を第1、
1:11:02	そしてやるっていうのは、
1:11:05	排水性材料とかですね。
1:11:08	本当に統制を目的とした場合の説明であって、ちょっとこれ言い過ぎじゃない。
1:11:14	これもあります。
1:11:15	なのでロジック展開としていろいろと
1:11:18	差し止め持っていくために、こういったことを考えられたんだろうと思うんだけど、

1:11:22	この辺はやっぱりちょっとヤマニシがそこに持ってきて気持ちが先走ってるんです。
1:11:27	その説明の正確かなっていう気は私はしますけれども。
1:11:33	はい、当然設計でございます。
1:11:37	もう岸野さんのおっしゃる通りでございます、先ほどの締め固め度から直接強度っていうのはですね、なかなか難しい話なんですけども基本的に前から言って最大乾燥密度含水比っていう最適含水比というもので、
1:11:51	できるだけ締め固めましょうということで、基本的にアノ型サーの指標みたいな格好になります。で、あと最初にしてるってのはおっしゃる通りで最初だと、閉め方もありますし、
1:12:05	これは年セトなっちゃうと圧密沈下を起こすっていうのもあって、基本的には湿度というふうに作りなさいというふうに書いてあるんですけども、細粒分含有率をここにここまで納めな抑えなさいって。
1:12:17	いう中にはその排水っていうやつもですね、多分、私なんかはそういうふうに考えてるものですから、そういう点でですね、ちょっと
1:12:28	ここで言うところの、ある程度、ちょっと会書き過ぎたというか、そういうところもあるのかもしれないんですけども、ただ、
1:12:38	実際にその年度にしちゃって透水性が悪くなるっていうことを避けるためにですね、サッシ湿度にするっていうふうなことだというふうにも、思っておりますのでこういう記述させていただいたということで、
1:12:49	ちょっとこの辺はもう一度書き直させていただきたいと、いうふうに思います。
1:12:54	トヨシマアノ、先ほど私は、
1:12:57	言葉は悪かったかもしれない。
1:13:01	ただ、その防水性排水資料第1の目的に持ってくるっていうのはちょっと、
1:13:07	はい。
1:13:08	思いますので、多分、サブ的な目的としてついてくる。
1:13:11	うん。
1:13:12	思いますのでそういった、
1:13:14	より実態に合った正確な、
1:13:16	別にさせていただいた方が、
1:13:19	よろしいですね。
1:13:20	それと、
1:13:22	もう少し見直し、
1:13:27	配当設計。

1:13:28	ございます。承知いたしました。
1:13:33	580、規制庁一緒です。次の 586 ページ。
1:13:40	うん。
1:13:41	いますけれども、そんなに下線が入っておらず、大きな変更はないんですが、例えば 2 パラグラフ目ですね、施行前のルール、
1:13:52	物理的に均質になるように設定する。
1:13:56	あと今後攪拌伐期する。
1:13:59	泉調整なんていう説明、これも前回から変わってないと。
1:14:04	これもう、
1:14:06	例えば一つ目の
1:14:08	優良品質になるように設定する。
1:14:12	して、
1:14:13	どんな状態で、
1:14:15	調整を行ったとかっていうあたりの説明が、
1:14:17	或いは
1:14:19	ある程度、
1:14:21	収まって、
1:14:23	70、
1:14:24	思うんですが、
1:14:26	先ほどの皆様のご説明を借りつつ、
1:14:30	差止め出すとなるとさしとって非常に議論の幅が広い。
1:14:36	はい。
1:14:37	そこを目指しました。
1:14:39	制度じゃないわけじゃないので、感覚ですから、品質というのは多分現実的な表現ではないんですけども、ある程度の幅におさまるように調整しましたといったときに、さしてお願いしただけだったら、
1:14:52	それなりにある程度あまり入ってこないよねといったところを補強するとすれば、
1:14:59	物理的に均質になるように設定した方法だとか、今後、各販売による調整だとかで、どのあたり、
1:15:08	もう、
1:15:10	幅に入ってくる。
1:15:12	どのような調整を具体的にしたのかっていうあたりの説明もあった方がいいのではないかなと思って、

1:15:19	ただ、これは、これまで何度も聞いてなかなか追加されてこないところで、なかなかそこまで詳細に書きにくいのかなというところもありますので、
1:15:28	もし可能であれば、
1:15:30	という。
1:15:31	ぐらいになりますけれども、
1:15:36	もうこれ以上出ないと。
1:15:42	はい。
1:15:44	当然設計の運用でございますが、品質という言葉これ消し忘れといいますがアンダーラインがないっていうのはわかりかし消してるところもございまして均質というところを、
1:15:54	できるだけ消してはいたんですけども、少しちょっと残ってしまったところもございます。
1:15:59	流動につきましてはですね基本的に左室度ということで74マイクロ以上で10ミリ以下、100ミリ以下ということで、今回そういうふうなバンドの中でですね、
1:16:10	流動をですね調整するというので、それぐらいのバンドの中の歳出であれば大体同じぐらいの硬さに締め方が、
1:16:18	というふうに我々考えておりましたので、ちょっとこういう考え方をしたものですから、
1:16:24	ちょっと禁止という言葉を除いてですね、ちょっとこの辺のところのその粒度の範囲とかもですね、ちょっと数字的に書かせていただければというふうに思っております。
1:16:37	はい。
1:16:38	この辺りにウタいいが、新しく追加された参考資料で、ページで600、
1:16:48	上の方の、
1:16:52	本庄清今後各班の方の説明が、
1:16:56	終わっていますけれども、
1:16:59	情報だと、100mmメッシュで110オオバをカットしましたよ。
1:17:05	あとふるい分け調整ってのがよくわかんないんですけど、
1:17:09	ここはもっと具体的に説明ができるのであれば、
1:17:13	ある程度、均質な流動、
1:17:15	正常なものにそろえられているんだなというところだと思いますけど、そこは何か説明、これ。

1:17:22	そうですね。当然設計のものでございます。これ均等にするためにこういう振り分け調整だとか、しますんで、そういうふうな言葉の意味ですか、
1:17:32	そういうものをもう少し付け加えるということはできますので、ちょっとその辺は文章の拡充をできるところまではしたいというふうに思います。はい、わかりました。
1:17:43	あと最初、現地確認。
1:17:45	予定してますので、そのときに、
1:17:49	するかもしれないですけど、
1:17:59	ちょっとまた前のページ、
1:18:08	説明は、
1:18:12	他のPLUG
1:18:13	第3
1:18:14	はい。
1:18:16	参集、
1:18:24	55 ページ。
1:18:26	に対する説明が先ほどの、
1:18:30	ページの、
1:18:34	これは許可の方で示した時ですよということで、
1:18:41	うん。
1:18:41	この資料の説明の中で、99 年以前と、2000 年以降が品質的に同じであるっていうことが、
1:18:48	今日、
1:18:51	説明されている。
1:18:52	説明パート。
1:18:55	で、
1:18:57	確かにこの図を見ると、数少ないデータながらも同じ傾向を示してるんだなと。
1:19:02	思いますけれども、
1:19:04	許可で示した図ですよというだけで、
1:19:08	それぐらいの説明が、
1:19:11	実際にアリマ少し残念ながら、
1:19:14	思って、
1:19:16	まして、
1:19:19	このロードデータを、
1:19:21	市ですとか、どういう試験方法、

1:19:24	整理した結果、
1:19:27	プロセスも説明があった方が、
1:19:32	納得ができるかと。
1:19:33	もうこのデータが実は非常に偏ったところからとったデータなんですよとかいうことがわかったら、残念な結果になってしまったところがありますので、そのあたり、
1:19:43	データの再周知ですか試験方法
1:19:46	プロセスもあわせて説明していただいて、
1:19:49	これが全体を代表するデータとして適切なものであるということを説明をしていただきたいと思いますけれども、
1:19:57	可能です。
1:19:59	はい当然設計の方でございます。それ可能でございます。
1:20:03	はい。
1:20:06	そのあたりはフルタ的な、
1:20:08	はい。それで、はい。はい。
1:20:12	うん。
1:20:19	規制庁、越智です。私ばかりしゃべって
1:20:21	んですけども、ちょっと前段部分については、
1:20:24	導入部分、584 ページ。
1:20:35	になるんですね。
1:20:36	評価方針が述べられている。
1:20:40	この中で、
1:20:41	説明の体制として、
1:20:47	表層地盤。
1:20:52	もう二つについて説明するといった趣旨の説明がある。
1:20:59	一方、耐震建物 01 という資料は、このレビジョンでは載ってないですけども、第 1 回申請であったボックスだけや、もう、
1:21:09	含まれて整理されるべきもので、
1:21:12	でも、スターティアの競争地盤と、行政も、
1:21:17	補助層、
1:21:18	あります。
1:21:19	ということで、そういったものも、上流からながらですね、この資料作りを考えたときに入ってます。
1:21:31	ということが考えられます。

1:21:33	多分、一方で今議論している、表層地盤のその物性値の設定は、埋戻度として品質でできるかどうかとか、そういった辺りのことを説明する趣旨からすると、
1:21:46	放送時間としては他にそういったものもあるけれども、
1:21:50	それは、
1:22:01	まず、
1:22:06	資料における
1:22:07	表層地盤が使うように、
1:22:10	あと、整理したかということで、
1:22:17	御説明。
1:22:18	続いていただかないと、何か行事がある。
1:22:21	いうふうに思います。
1:22:26	整理してアノ積載を見直す。
1:22:33	はい。
1:22:35	はい。
1:22:36	これにつきましては、六ヶ所等もございますし造成モリ等もございまして、その辺のところは第1回のところでね、説明させて、私の方から説明させていただいているので、
1:22:46	その辺も含めて、今回は埋め戻し度にちょっと限定して、
1:22:51	説明するというので前置きで、その辺の話をさせていただきたいと思います。
1:22:57	はい。お願いしますで。
1:22:59	方で今回は絞る理由っていうのが、
1:23:02	塀造成の六ヶ所さんっていうのは、MOXBAタケノしか出てこないかっていうと、後々のことを考えると、かなり
1:23:11	どうなんか。
1:23:14	はい。
1:23:15	一方で
1:23:17	建物については直接接する6ヶ所っていうのは、ないのかもしれないんですが、もしそうであれば、
1:23:27	建築の観点では六ヶ所層ができません。
1:23:30	道路については出てくるけれども、これは本部分でも確か違うと。
1:23:36	どうどの地盤モデルについてはまた別途検討します。
1:23:40	説明があったか。
1:23:41	と同様にですね、それは別途ということなのでここでは使いませんといった、説明の上で、

1:23:50	この資料、かなりの回数といったことを謳っていただいて、
1:23:53	かなと思います。そのあたりの説明をちょっと、
1:23:57	配当ない設計のものでございます。動につきましても、六ヶ所層が直接接するところはございませんが、
1:24:09	造成モリど六ヶ所が直接接するところが1ヶ所だけございます以外に10、
1:24:15	欲しいという考えなんですけど。
1:24:17	それ以外もほとんど埋め戻しですから、改良地盤なので、ちょっとその辺も含めてですね、
1:24:23	この辺の書き方をですねもう少し考えさせていただきたいと。
1:24:28	思います。
1:24:30	はい、神野でございますおそらくですねその整理は本部側といいますか前段の方でちゃんと整理した上で、細かいところは後ろに飛ばすっていう構成ですから、
1:24:42	今のですね、銀行の表層地盤の細かいところは、後ろに飛ばすんですけども、
1:24:53	そういう基本的なところは、前である程度整理し切った上でちょっと何をとらえて何を飛ばさないかということがちゃんと整理できるようにしたいと思います。以上でございます。
1:25:02	はい、わかりました。
1:25:06	今議論してる、別紙の4。
1:25:09	地盤内なんですけど、
1:25:14	ないのは、それはもう、
1:25:18	はい。
1:25:20	そこら辺、どこどこにどうかっていう、
1:25:26	いたしました。
1:25:28	出てました。政局ですけど、
1:25:32	導入設計って、
1:25:34	あんまり見えてないんですよ。
1:25:37	済んだ。うん。そう。
1:25:42	その辺が、
1:25:47	共通じゅ、今のセンターで共通中になるものがあり。うん。評価の仕方っていうか、資料4。いえ、あとは構造の説明でいうと、
1:25:59	うん。
1:26:01	根井。
1:26:02	表していくっていう、それをさ、

1:26:06	それでいうと、再処理の道道っていうのは今説明グループという。
1:26:14	うん。
1:26:16	いうと、
1:26:19	今、グループ1なんで、最初の先頭バッテリーにいるんですね、例えば、
1:26:25	うん。
1:26:28	多分やってないですよ、やってないというか共通12の増動ゴトウ説明していこうか、建物として説明していこうかと、多分、
1:26:38	今、ヒアリングで皆さんがしかやらないんだと思うんですけど、何かやっています。
1:26:45	現在のことでございます。今、ここ、こっちは野地地盤の設定で、表層に向けてどうするかっていうこと何か考えてるのかっていうことですか。
1:26:55	規制庁じゃないですか。共通住民最少一節の教室、きょうツジのうち、再処理施設の説明グループに対して、資料3章4作るんですけど、それに対して、
1:27:09	ですか。
1:27:11	今ここにまでは関わって、いや、でも今、92の方に、建物構築物としてどうですとFAXルートが上がるということで、
1:27:21	それを考慮しなきゃいけないってことで動いております。
1:27:25	社内的には今ほど、
1:27:29	はい。ちょっと気になった。
1:27:35	規制庁の岸です。
1:27:37	うん。
1:27:37	全部
1:27:39	ん。
1:27:39	一度に関して、私は、
1:27:42	以上です。
1:27:43	タシロに関しては、
1:27:46	規制庁カミデです
1:27:49	梅本指導全体平均でって結論めいたものは言え、
1:27:54	ですけど、それに対してどう説明していくかっていう戦略が、
1:28:01	よくわからない。
1:28:02	よくわからない。今までの話の経費対応って、もともと一生懸命施工管理してますからっていったことに対して、が、
1:28:13	いや、やろうとし、計画だけでいいんですか、結果だけで、結果からも説明できるんじゃないかって言って示しはもらったけど、何だかわかりませんというのはもうちょっと考えます。

1:28:26	前の状態だったと認識していますけど、
1:28:30	今はどういうふうという形で、その全体平均であろうと思っているアノと、前はそのナカ成果調査もあるから、サトウ、
1:28:41	いうのでそれも仲間に入れつつ、説明する方法もありますよねということも言いながらまた考えます。
1:28:51	ですね。
1:28:52	今回の資料見るとあんまり何か変わるロジックの借り換えがなくて、一生懸命、
1:28:58	品質になるように管理してますから、全体平均で設定してもらいたい。
1:29:04	うん。いう説明に見えてるんですけど、実際そうなのか、ちょっと変わってるんですけどっていう話なのか、説明をいただきます。
1:29:16	元ノモトでございます。えっとですね我々の中ではですね、一番変わったのは今まで一緒ですということ、履修しようと引いた説明を志していたんですけども、
1:29:31	今我々、大きく変えたのは、
1:29:37	一緒ではないんですけども、それは、
1:29:42	分けて考えるべきものなのかというところを、検討しよう。
1:29:52	この中で説明しようという方向 2 か切ったんだと思ってますんで、もちろんこういうばらつきのそれなりにある。
1:30:02	江藤部ツリー的なものですから、その 1 個 1 個のデータっていうのはあっち行ったりこっち行ったりは逆にするんですけども、それをですね例えばこれ施工年代別にですね、
1:30:16	グルーピングして分けて、これ設定すべきもともものなかっていう観点に立ったときに、
1:30:24	ある意味、一つ一つのデータのばらつきとして、それぞればらついてるだけで施工年代別に、別々になっているのかどうかこれ、実はあやしいなど。
1:30:36	いうふうに思ってますから、だからそのところを一つにグルーピングできるのか、グルーピングをちょっと別々にしなくちゃいけないのかということ、検討するのが、我々のミッションといいますか我々の検討の道筋になるんだろうなど。
1:30:51	いう考えでこれへとまとめ直してきているところでございます。その観点に立ったときに、今の 1999 年以前 2000 年以降の、
1:31:00	データを眺めたときに、どうもデータそのものは、何か一定の傾向って何か別々の傾向になるようには見えては居るんですけども、
1:31:12	データのとってノモトから考えると、実は取ってるDたの、何ですかね、

1:31:22	ここのばらつきが表れてるだけなんじゃないのかなという疑念も我々払拭しきれない、だから分けて管理すべきものなのかといったなんかやっぱりそうじゃない気もすると。
1:31:32	ということで、そこを、今回の追加調査で、やっぱり分けてやるべきものなのかどうかというのを最終的にデータ見て判断したいと、ちょっとこういう道筋なのかなというふうに思っています。以上です。
1:31:49	そうすると、590 ページなんか、今までと同じように、
1:31:58	90 年の
1:32:04	前はこれ並べて、これは一緒にしよって言ってますよね。今は違う、おんなじもの。
1:32:11	見せて、うん。こんな感じで違うんですって言ってるってそういうマインドチェンジがある。
1:32:16	えっとですね、辨野でございます。ほら違うでしょというところという意図でもなくてそれは、に同じような管理してますよねということを示すためのこれは、説明しようとした話ではあるんだけど、
1:32:31	こういう事実関係をもとに、じゃあこの後分けて分析設定すべきですかと。ていうことのやっぱこれ材料の一つになるんだというふうには思ってます。だからコウノ、
1:32:42	プロセスが出て、概ね一緒に、ナカノアノ間力が、違う手法を使って管理するというのはあるけれども、だからといって別々に、
1:32:53	このデータ集約するかどうかと、いうことをこれ眺めながら判断していくのかなというふうに思ってます。以上です。
1:33:02	その辺の話が、
1:33:04	ベースっていうような、
1:33:15	ページあたり。
1:33:29	以上、
1:33:30	何か一緒になったら、
1:33:33	ホウツウショ物性値
1:33:39	結論、当然設計のものでございますが
1:33:42	610 ページのところですね、物性設定のまとめというところの、
1:33:48	一番下のところにですね前はですね、
1:33:51	今の平均値を使います。その確認を、
1:33:56	調査にしてし、本調査によってしますっていうふうな、そういう言い方をしたんですけども、今回は、今、新たにやる結果も含めてですね、
1:34:06	全体的なそのばらつきというものに対して、考えて先ほど言ったその平均、

1:34:12	でいいとか悪いとかっていう話も
1:34:15	今言ってる私なんか、平均±ワンシグマで設計上は
1:34:19	包絡しますよって言ってる、この辺のところとですね新しく出てきたデータをですね、見ながら、話をまとめていきたいというふうに考えております。
1:34:39	現状でございます。今さっき私が申し上げたことをですね、文章でそこで表したつもりだと、いうふうに考えているのが 585 ページ。
1:34:50	のところの、
1:34:52	一番下②のところですね、
1:34:58	それぞれ分けて考慮するか必要があるか否かについて検討を行ってちょっとここに思いを込めたつもりで書いておりました。
1:35:10	ですね。
1:35:12	メンバー。
1:35:14	多分、本文の、
1:35:16	本とかに、多分、
1:35:19	根井で、その違いを認めつつも、間瀬そんなに分けるべきものなのかっていう観点を、
1:35:28	どう、どうやって、うん。
1:35:31	確認しますかっていう、そのの、どうやってが、単にやっぱりその施工管理の話なのか、もうちょっとスペクトルまで作ってみるとか、あとは、
1:35:44	追加調査で偉いこういうデータを見てみて、判断します。
1:35:52	こういう出た見てデータを見たって何か、
1:35:55	設計として分けるか置かない。
1:35:59	いうところはちょっと今話をしているあまりつながんないなっていう気はしましたが、
1:36:06	県全体の検討をこうするんだと、こういうふうに見ていくんだっていうのは、44 で苦勞して、結果はまあまあ、そうなると、追加調査もあれなんで特に、
1:36:20	形はしないんでしょうね、こんなふうにはできませんということだけなんですけど。
1:36:26	その辺を綺麗にしてもらったらもう 1 回、今そういうフェーズなんですねっていうんで、はい。
1:36:34	とりあえず何か何も変わってないなっていう印象だったんですけどそうではないということをお願いしました。
1:36:43	はい。議員の方でございます。すいません本部の方の、やっぱりちょっと記載が弱いと。

1:36:50	ご指摘いただいて、認識しましたのでちょっとその弱いところは、改めて参りたいと思います。以上です。
1:36:58	はい。
1:37:00	あと、692 ページ。
1:37:09	各
1:37:19	カミヤダテなります。
1:37:21	560 人。
1:37:23	194 ページの前のII2、
1:37:27	管理目標値の上限とか下みたいな選定できるんですかね、そういうものでは、
1:37:35	はい。それは当然設計のものでございますが先ほど言っている、90 モンマ 5 マイクロですとか、それが 30、8%以下。
1:37:45	100 ミリ以下っていう線をですね、撮像としての流流上、粒径ヶ月カセ曲線の限界というのはこの上には、
1:37:58	2 文を配布すると、2 本あります。はい。はい。その間に入ってますね。はい。
1:38:03	はい。ちょっと、はい。
1:38:05	はい。
1:38:09	はい、規制庁です。衛藤そうですね競争埋戻。競争的になってたところ、私からは以上です。
1:38:21	今のやりとりで、住宅局積
1:38:28	より差湿度としての、
1:38:33	そうです。はい。
1:38:34	はい。結局、
1:38:36	融度はこの範囲を下げなさいっていう、原燃としての施工管理基準として現れてます。
1:38:43	そして、理由が規定されていてそれを維持、
1:38:47	一般的な、
1:38:50	一応マニュアルの方にもですね、トダテ系のものがございますが、その 38%以下に、とすると細粒分含有率を 38%以下にするという記述がございます。
1:39:00	それで管理をいたします。
1:39:03	99 万 2000。
1:39:05	ですね 99 アカセ分でございます 1999 年はもう砂アノ砂地盤なので、そういうことは書かれてございませんでしたが 2000 年以降はですね、

1:39:17	六ヶ所層に、シルト系が入ってきているものですから砂地盤にするという ことで、マニュアルに明記され、
1:39:25	はい、わかり。
1:39:28	本当に何か出展、
1:39:29	はい。はい。はい。
1:39:39	ツツミアノ。
1:39:42	梅本紫藤が言ってるんですね流動化制度について、
1:39:46	使います。
1:39:47	614 ページ。
1:39:59	凡例を見ますと、村瀬黄色の丸が、第二グループ誘導箇所 のボーリング。
1:40:07	で、おそらく、
1:40:09	ボーリンから物性値を設定したのでであろうと推測をしますけれど、
1:40:16	第二グループという。
1:40:21	にある。
1:40:25	14、
1:40:27	いわゆる中央地盤、
1:40:31	ですか。
1:40:33	根本。
1:40:36	車線斜線
1:40:43	ある。
1:40:44	もう、
1:40:45	サンプリング自体は、有税と 23 時 14 周辺で、
1:40:52	代表で、
1:40:55	ということなのかと思いますが、代表できるのかということについて、 今回、
1:41:02	教えていただきます。
1:41:04	はい、当然設計のものでございます。
1:41:06	流動化し、第二グループの流動化処理等につきましてはですね、セメン トの添加量で大体整理をされているのと、あと基準としてですね、
1:41:18	球がコンマ 6MPa 以上ということで、管理をされておりますので、今回、 ヒガシ地盤の方の 3 点で平均をさせていただいておりますが、
1:41:30	この敷地内といいますか、この
1:41:34	図の 4-4、1-1 図に書いてございます。この南側にございますところも ですね、ほぼ同様の材質であるというふうに確認して、
1:41:45	今回入れております。

1:41:48	ただ
1:41:49	ちょっと速度構造ですからそういうデータがございませんでしたので、
1:41:53	ここではそういうふうと比較するようなことはですねしてございません。
1:42:00	はい、わかりました。
1:42:02	はい。
1:42:03	伝播量と、あと管理給餌が同じです。
1:42:09	例えば、ノモトとなってる母材が同じ六ヶ所層を使っているのかと。
1:42:15	使ってるセメントとかも、同じような、
1:42:18	そういったあたりを説明。
1:42:23	藤っす。
1:42:25	はい。当然設計のウノでございませうが、すいません 6ヶ所の方
1:42:31	久野課長、この辺のところの何かわかりますでしょうか。
1:42:42	六ヶ所のクドウですけれどもすいません岸野さんの音声がですね、こちらちょっと届いてなかったのですいませんもう一度、江藤先生の方ですが、えっとですね
1:42:54	第二グループの流動化処理度なんですけれども、これについて、東側地盤と、構内の方にある流動化処理とのですね、
1:43:04	材質ですね、六ヶ所層がベースなのかとかですね、購入さ大井使ってるのかですとか、そういうふうな情報っていうのは、この
1:43:14	今回のこの整備の中で分類とかできるんでしょうか。
1:43:21	6ヶ所、日本原燃工藤でございませう。
1:43:25	基本的に第一グループ第二グループともですね、母材の方は、六ヶ所層を基本としてございませう。セメントもですね、基本的には同じ航路をセメントを頭を使ってございませう。
1:43:39	町長的一条です。はい、わかりました。ありがとうございます。であれば、東側地盤でも、
1:43:46	重要地盤にもある第二グループ、
1:43:50	品質もこれ代表できるという説明かと。
1:43:52	理解しましたので、その根拠とですね、野瀬代表できるという説明の方を加えて、
1:43:58	あればと思います。はい。
1:44:01	成長します。
1:44:03	へえ。
1:44:04	この辺りの、

1:44:06	そのあたりの説明というか、第二グループの物性値を今回新たに設定してはいるんですがその根拠は何なのかという説明が、2 ページ目、610、12 ページ。
1:44:17	説明はないんですけど、今のやりとりで、先ほどの 614 ページの第二グループのポーリングがおそらくポイントになっている。
1:44:26	確認は取れましたので、資料上もちゃんとそれを読めるように、
1:44:31	と思います。
1:44:34	あと、612 ページですね。
1:44:37	この 614 ページの図の説明をされているのですけれども、
1:44:45	111 ページか、失礼しました。
1:44:52	64 ページの図の中でこれが第二グループですよっていうふうに、明確に図示していただいた方がわかりいいかと。
1:44:59	そういったわかりやすい。
1:45:05	していただくように、
1:45:07	配当な設計のものでございます。色分けとしまして、わかりやすいようにしたいと思い、
1:45:14	なにこれが第二グループです。
1:45:21	承知いたしましたそういう
1:45:25	成長。
1:45:28	ですが 614 ページ。
1:45:31	イシタのJベップフジイ 13 の間が、特に何も無い、真っ白になっているのですけれども、
1:45:38	これは後ろの方ですね。
1:45:42	78 ページ、670。
1:45:46	78 ページ。
1:45:49	見ますと、
1:45:52	購買とか処理量という説明があって、
1:45:56	あと、それ、その他にも何か挟まっている。
1:46:01	推測されます。
1:46:03	これは流動化処理。
1:46:06	あと、
1:46:07	この資料の中で説明がないのはなぜなの。
1:46:13	この取り扱いになるかもしれない。
1:46:17	コウノ設計のものでございますAZとG13 の間のというものでございますか。はい。
1:46:24	A、これはですね、麻生夏井テフラでございますが、

1:46:28	Zの勤怠の方にですね、13の貯水槽の水が流れないようにということでですね、
1:46:35	この配合赤穂配合コンクリートの後半以降の流動化処理の濃い
1:46:42	ブルーでですね、紺色で示してるのが、それでございますんで、それさらにですね、透水性を確保するためにですねその横に
1:46:52	茶色で書いてございますけども、ベントナイトを今後を使いましてですね、さらに透水性を10のマイナス8乗までですね、下げるといふうなことで施工されております。
1:47:05	はい。はい。グラマシーは理解しました。
1:47:09	それは、
1:47:11	物性の設定には関係がない。
1:47:17	今回、流動化処理の前の設定の中では無視されてしまっているようですけど、特にこれは無視したままで構わないと。
1:47:28	もう一つ、もう少し具体的に言うと、今後の地盤モデルの中で、検討する必要はない扱いという
1:47:36	当然設計のものでございます。
1:47:40	この後にですね、表層の埋め戻しに係る影響検討ということで、
1:47:46	流動化処理を用いた場合と、事案を残した場合で、基本的には周囲の岩盤の物性値が影響しますというふうなことでそれを1浦清風
1:47:56	として設定するというふうなことがございますので、
1:48:00	この中間のものについてもですね、埋め込まれてる物性ということであれば、
1:48:07	評価すべきとは考えております。
1:48:11	何かその辺建築さんの方で、六ヶ所の方で何か、
1:48:15	ありました。明日ありますでしょうか。
1:48:27	少々お待ちください。
1:48:30	一応ですね、考えているにすぎませんけど、682ページに、今、木野さんおっしゃった
1:48:42	一番上の図を見ますと、流動化の創造に行くというレンズで、G13graded間は、多分外側に設定した誘導化すると。
1:48:54	公共、どういう教科書
1:48:57	は、はい。
1:48:58	もうイシイ。
1:49:01	ということで、この時点でも多分これは地震、建物の地盤を理論地盤モデル、

1:49:09	建物の地震応答には影響がないものと判断している、見受けられるんですが、そういった観点、
1:49:15	この扱いはどうなのかなという。
1:49:22	当然設計のものでございます。すいませんちょっとそこまで細かいところで、この検討をですね、してなかったものですから、
1:49:29	埋め戻しとか、埋め戻しと流動化処理度と、エイジアのミックスとは、タダノ、流動化処理だけの場合に、
1:49:40	どういうふうに、1+ババですね。
1:49:44	変化するかっていうことだけちょっと着目しちゃったものですから、設計段階で多分、これはもう構成を評価するということで、入れていくのかとは思いますが、
1:49:55	ちょっと私の方からちょっと今、詳細についてはちょっとわかりかねます。はい。はい、わかりました。
1:50:09	無視するという、なりそうな規模ではあるんですけども、単にこう抜けてましたという説明にしか今はなっていないので、
1:50:18	どういう扱いなのかっていうのを整理した上で、
1:50:22	もしこれを考慮すべきだったら、こうです。
1:50:26	方針というのが、
1:50:29	これはもう、
1:50:32	話していただければと。
1:50:40	六ヶ所側は追ってのご検討でお示しするというところでいいですか今お答えすることありますか。
1:50:55	はい。日本原燃の大橋ですすみませんちょっと今、確たることは言えませんが背弧っての検討というところで、はい。何かしらお示しできるように考えたいと思います。
1:51:07	そういう意味では 614 ページで先ほど
1:51:14	下側に、
1:51:18	G14 も、
1:51:21	関西カドイも、
1:51:23	隙間が
1:51:25	この辺りは、
1:51:27	流動化そういう、
1:51:29	それとも別の何か構造、
1:51:32	そういった抜け漏れが、説明の対象として議論がないのかと。
1:51:38	でこの空白はないですか、三原ちゃんと答えられるんですよ。
1:51:42	なければ、

1:51:43	思います。
1:51:46	ございますはい承知いたしました。
1:51:50	すいません. . 何ですか。
1:51:53	621 ページに、
1:52:02	次の、
1:52:04	一番下のパラで、
1:52:07	うん。
1:52:08	中ほど
1:52:09	第二グループの動的変形特性を用いて、ご検討イシイとアリマ、
1:52:16	第二グループの動的変形特性、
1:52:19	何の説明が資料、
1:52:23	受けられないんですけど、これはどっかで、
1:52:28	当然設計のものでございます。これはですね、誤記でございます。
1:52:34	ですね、動的変形特性に合った生産第二グループ、量的に用いて検討した。
1:52:43	すいません、流動化処理等の第二グループというのはですね、
1:52:48	後ろのこの参考の 8-2 に、物性値が書いて書いてございます。
1:52:53	681 ページになりますが、
1:53:00	このですね、6891 ページの、
1:53:05	このG0 の 312、あと、OT-1.71、
1:53:11	後にUD-0.40。
1:53:14	これにつきましては、流動化処理どう第二グループ、
1:53:18	の値を使ってございます。
1:53:20	ただしですね、AgずD0 γ 1 γ 動的変形特性のひずみ依存性につきましては、これは第一グループのものをですね、
1:53:31	適用させて適用させていただいております、
1:53:34	その記述につきましてはですね、
1:53:49	680 ページですね、680 ページの
1:53:53	第 4 パラグラフの下の方に、動的変形特性のうち、磁場 10 γ 、一丸ひずみ依存特性は流動化処理の第一グループの値を流用したというふうに、
1:54:04	書かせていただいております。
1:54:07	すいません。680、680 ページのですね、中ほどになるんですけども参考 8-1 表はっていうところのパラグラフの一番後ろの方ですね。
1:54:23	下から下からですとね。

1:54:26	ミナクチです。はい、わかりました。
1:54:30	以前ですね、第二グループと第 1 部に設けますって言われたと。
1:54:36	第二グループも、その動的変形特性。
1:54:40	確認中っていう、確か進め方資料、ヒアリングか何かの中で、
1:54:44	説明があって、
1:54:45	その後どうなったのかなと思っていたところを、
1:54:49	この後ろの方の資料、
1:54:51	ちょっと載ってるような紹介しかされておらず、
1:54:55	一応、619 ページは、それに基づいたものと思われず、
1:55:01	利用せん断弾性係数事情、
1:55:04	が持っているので、最終的にはここに集約されているのかなと想像しておるのですが、
1:55:13	この資料、
1:55:14	わかります。
1:55:15	各グループに分けて、政治を説明するという性格からするとその動的変形特性の試験をやって試験結果法で、
1:55:25	先ほどの参考資料、
1:55:28	設定した副参事組織です。
1:55:33	そういったところはこうなって、あと、
1:55:36	2 番までに設定する物性値としてもこうなってというような、
1:55:40	根拠データから最終結果までの繋がりが始まる説明がないと。
1:55:47	出所もわからずこれは何だっていうような扱いに困るような
1:55:51	受けとめになってしまいます。
1:55:54	根拠データがどういう処理プロセスを経て、690、
1:56:00	10 ページ、先ほど、
1:56:03	状況の中で整理するかに繋がっているのかっていうのも、説明をちゃんとして、
1:56:11	よろしいですか。
1:56:12	はい当然設計の方でございます。はい。申し訳ございません。その辺のプロセス数を書きながらですね、説明できるようにしたいと思います。
1:56:24	すいません。
1:56:25	まずけれども、
1:56:26	本塩川理事にはなくなってしまったんですが、
1:56:30	前回の代わりに 10、
1:56:32	参考の 8 として、

1:56:34	表層地盤の物性値の与え方による影響についてという資料がついて、
1:56:40	中身は何かというと、4月24日の会合のときに、示されていた層地盤のパラメータにした直下と平均で、
1:56:51	建屋ごとに基礎底面と、
1:56:53	入力地震動のスペクトル比較して、あと矢部コミコミがちょっと合わないねって言ったんですよ。
1:57:00	考察をフナツの会合でも、
1:57:03	ありますが、それに対応するような説明資料だったかと思うんですけども、
1:57:08	今回、
1:57:09	それが抜けてしまう。
1:57:14	谷抜けてしまう
1:57:16	今、まだ
1:57:20	東電の宇野でございますが、
1:57:24	これですが、支援技術者の方がですね、何でこれついてるのっていう
1:57:29	話になりましてですね。
1:57:31	内容と関係ないんで、取った方がいいんじゃないですかという
1:57:36	アドバイスを受けましてですね、ちょっと外させていただいたんですが、
1:57:39	前回は載せてるということで、もともとはついていたんですけども、
1:57:44	内容的には前回修正したところから変わってはいないんですけども、
1:57:50	資料として外すべきではないということであればですね、
1:57:55	付けておく、
1:57:56	追加させていただきたいというふうに思うんですが、県民のことです。全体のお話の中で、ちょっと浮いてきてしまって何を説明するための、
1:58:06	これデータなんだっていうのがなかなかちょっと話の中からちょっと大分浮いてきてしまう。
1:58:11	たと。
1:58:12	いうのでちょっとご指摘いただいたところで、それに対して我々も、読み返してみるとそうだねとしか言いようがなくて、これはもう後から疑義を示すような資料にしてしまうのもどうかかと。
1:58:28	思ったようなところでございます。
1:58:32	それちゃうかもしれないです。前回バージョンついてた資料。
1:58:36	私個人的です。
1:58:39	詰めなきやいけないなと思っておりました。
1:58:43	衛藤甲斐を示された上で、それに対してす会合でも説明を求めたものに対応する資料なので、

1:58:52	何らかの形で示してもらって、
1:58:55	①は介護で説明をし、
1:58:59	このままな規模
1:59:02	ということです。
1:59:03	では玉野岩橋の中で、文章の中でどうするにはちょっと見てしまうということであれば、ここで示すべきだと。
1:59:11	ていうのをちょっと検討していただく必要。
1:59:14	思いますので、いずれにしてもこのままなきものにされない。
1:59:19	示し方というのをちょっと検討いただきたい。
1:59:25	はい。現に脳でございます。
1:59:27	ちょっと検討させて、
1:59:28	いただいて、はい。ちょっと考えてみたいと思います。
1:59:33	はい。
1:59:38	コメントに対する回答の説明ってのは、
1:59:42	まず少し先で、
1:59:47	どの段階で、ある程度ヒアリングでの事実確認を経た上で、最終的
1:59:53	どういうふうにしますかっていう点かと思いますので、
1:59:56	この辺の見通しっていうのもちょっと検討していただいた上で、
2:00:02	荻野でございます。
2:00:05	少なくともちゃんとどこかで回収する必要があるということで認識いたしましたので、はい、ちょっとお示しの仕方をちょっと考えさせていただければと思います
2:00:16	します。私からは、
2:00:19	ですけど、
2:00:20	少なくとも私は、初めの話じゃなくてそもそも何でこんな話してんのっていう出発点なんだと思うんですけど、全体から浮いてきたとあって、何言われてるのか。
2:00:37	ご説明、ここの全体のシナリオの中で、
2:00:44	説明すべきもの、
2:00:48	といたしますかそのシナリオの中に何かはまらなくなってきたといたしますか。
2:00:54	そうですね。はい。きっかけが、データに、うん。
2:01:00	岩盤わあ直下でやったんだよね。うん。
2:01:03	表層はいいんですか。うん。いいんですっていう話だったんですね。
2:01:09	ていうのが出発するのに、今やってる話とそぐわないって言ったら、そもそもだから今やってる話が、

2:01:17	目的にそぐわないところにきてるっただけで、うん進んでる道が間違ってるんじゃないですか。うん。うん。
2:01:28	承知しました。ちょっと頭の整理をちゃんと
2:01:32	すいません、切り換えて、ご説明を、はい。差し上げたいと思います。
2:01:38	バーの説明の仕方でしかない気はする。はい。
2:01:44	こういうことがあるけども、
2:01:48	自分たちは、
2:01:50	平均がふさわしいと。うん。
2:01:54	そうなんです。はい。
2:01:56	どうぞ。
2:01:58	御説明。
2:02:00	はい。
2:02:04	はい。
2:02:04	はい。
2:02:14	ですけど、
2:02:16	はい、どうぞ。規制庁淡路です。ちょっと流動化処理異動の件で、私の方から1点だけ資料ですと621ページに、
2:02:29	これまとめの5-2のところ、ある意味、いきなりしちやってるように思うんですけど表層地盤に読み込まれている建屋の入力道路の話なんです、
2:02:39	具体的には、参考の8のところ、内容があつてですね、
2:02:47	わかりやすいの682ページにありますようにその次山のところを、流動化処理、一応とみなしても、入力地震動に関しては、体制ありませんと。
2:02:59	いう。
2:03:01	趣旨の説明とってますんで、それに関しては特に問題ないといいますかですねその通りだということは理解しましたが、
2:03:09	これ、現段階で聞くべき話ではないのかもしれませんが。ここの耐震設計のところの話かもしれませんが、
2:03:17	例えば682ページのエネットの建物ですね、埋め込みのある建物の、これ、地震応答解析をやると。
2:03:27	場合にですね、どういう、そこを地盤の条件にするのか。
2:03:32	或いはその解析自体を二次元でやるのかですね。
2:03:35	そのあたり今の段階で整理されてますでしょうか。
2:03:42	すいません。
2:03:43	ウノで六ヶ所の方何か答えございますか。

2:03:50	はい。日本原燃のオガセでございます。こういったような検討した上でなんですけれども1次元での評価を最終的には設計になるようなそういうようなところで考えております。
2:03:59	はい。規制庁浜崎ですそうすると埋め込みがある場合今回すべて埋め込み効果を見るということで、
2:04:05	側面入力であったり側面バネも流動化処理の物性値を考えているということですか。
2:04:13	はい。日本原燃のオガセです。おっしゃる通りでございます。
2:04:16	これ大橋さんもお存知だと思うんですけど、入力増についての影響評価があつたんですけども、実際こう、かなりZなんて埋め込みのシライ的な建物に対して、
2:04:27	側面ばねであったり側面入力。
2:04:30	物性値の違い。
2:04:34	ていうのは、今この段階で、流動化処理で一本で大丈夫ですって言い切れるんですか。
2:04:44	そのあたりは検討され、
2:04:46	する必要はないんですか。
2:04:51	はい。日本原燃のオガセでございます。建物と、その地盤の相互作用という意味ではその建物とタッチしているところの地盤が、Zの外周を囲むように、流動化処理場が入っているようなところでございますのでそこでの押し引きっていう観点でいきますと、
2:05:06	流動化処理上の剛性を、バネの構成として与えてあげるとというのが、妥当なのかなというふうには考えているところではございました。
2:05:13	はい、伊勢沢崎です。本当に建屋音として入力がいいですよ。
2:05:19	ただ、基礎下のタテ戸として本当に仮定が妥当かっていうのはやはり示してもらわないと、その流動化処理の範囲であったり、布施アノモリと、
2:05:30	周辺のですね、地盤の物性値ってのは、コントラストであったりとか、やはり、影響度合いというのはいくつにも言えないというふうに思いますので、これ、
2:05:43	現段階です、今、地盤モデルの設定のところ、それを求める必要はないのかもしれませんが、
2:05:52	各建屋の
2:05:54	エージェント等のですね建屋応答解析結果が出たときに、今の町さんの説明のモデルですと、
2:06:01	当然それ、本当にこの総物性値モデル化で妥当ですかっていうことはこちらから求めたいと思っておりますので、

2:06:08	きちんとそこは検討しておいてください。よろしいでしょうか。
2:06:14	はい。日本原燃のオガセでございます何かしらの物性で合成アノばねの剛性を決めなきゃいけないというところはどうしてもありますので、その設定の妥当性みたいなところを説明する必要があるその根拠とその妥当性みたいなところを説明する必要があると。
2:06:28	認識いたしましたので、今浜崎さんおっしゃったようにしようと解析のところの場面のところの、詳細説明のところになるかと思えますけれどもそういうところでは、今お話したような内容について、
2:06:40	ご説明できるように準備の方をしたいと思います。以上です。
2:06:44	はい。
2:06:45	規制庁ハバサキ私から、流動箇所については、
2:06:53	説教紙です。
2:06:58	は競争は、
2:07:04	今日はこの辺でってことで、
2:07:08	森岡様、それとも、
2:07:11	もうちょっと考えます。
2:07:13	現在のことでございます。できるだけ頑張っているところまで頑張りたいなというのが我々気持ちではございますけども、そこワー、
2:07:25	規制庁さんのもうちょっと柔軟に覚えたところでもございますので、
2:07:30	お時間いただけないようであれば変えるんだなというふうに思っております。
2:07:35	病気やれないことを進まないですよね。
2:07:37	全部はどうです。
2:07:39	それなりに岩盤物性について、私はお聞きしたいことはたくさん、
2:07:48	はい。
2:07:49	いいんじゃないですか。
2:07:52	はい。承知いたしました。ではまた、すいません火曜日ちょっと再開させていただきたいと思えます。はい。フジカワエザキやっちゃいます。今日、
2:08:01	そうですね。はい。
2:08:03	はい。
2:08:03	以上です。
2:08:05	はい。
2:08:07	時間をいただきたく、
2:08:15	一つちょっと一応、
2:08:17	よろしいですか。

2:08:20	はい。
2:08:23	はい。

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はい。規制庁の竹田です。それでは振り返りの方に入りたいと思います。根井の方から、振り返りの説明をお願いします。はい。それでは振り返り替えさせていただきます。1 番目、指摘事項に対する反映についての資料をですね、
0:00:15	こちらで今の記載の中では、ちょっとこういうところをまだちょっと欠けていないというような、説明をですねちょっと口頭で申し上げたところですけども、
0:00:26	そういうようなところも含めて、そのですね、今後対応すべきところといったところがわかるような形でこれは整理すべきであると。
0:00:37	いうことをちょっと発生いたしましてこれはきちんと、そういうふうですね今後の対応において、いただいた指摘事項、それからそれに基づく反映内容でその反映内容が、今ここまで反映できていて、今後ここを検討する予定であるということがわかるように資料としてまとめるということでございます。
0:00:56	2 番目、全体にですねその図がですね本文よりも離れたところにあたりしてわかりにくいということで、これはわかりやすい
0:01:06	資料の構成をということでいただいております。3 番目、ところ、ここからが減衰定数のパートでございますけれども、伝達関数による検討に用いる地震観測記録の
0:01:19	選定につきまして、その 390 ページの表と整合をとるとのこととそれから選定基準の考え方を、ある明らかにすると。
0:01:29	ということそれから許可の設定と考える期間について、説明を加えるということでございます。それから 4 番目、人員数を増えた評価に用いた地震観測記録についてもその観測記録の情報の表を追加する。
0:01:43	ということでございます。5 番目、西側東側、許可段階において、その移設前の結果からはぎとり地盤モデルを作成している経緯判断根拠について説明追加。
0:01:53	ということでございます。
0:01:55	で、
0:01:57	6 番、400 ページ文章中で探索対象として設定している、当該層境界が指すものというのを明確に記載することということでございます。
0:02:08	7 番目、東側地盤の初期モデルと同定したえさ不足増の値につきまして内容を確認いたしましてはヒロキ最後と
0:02:17	それからP波速度ポアソン比の値も大きくすることということでございます。8 番目、初期地盤モデルに適用する速度につきまして、どのような

	考え方を設定しているか、ピーク計数をそのまま用いているのかどうか等を記載することと、
0:02:32	ということでございます。それから9番目東側に対する前回までの贈呈結果と今回の同定結果を比較いたしまして、前回の悪いところがどのように、いや、どういうふうに改善したかと。
0:02:46	いうことを示すということでございます。
0:02:49	10番目、東側のここは言葉遣いでございます。その地盤がレア係数の一番何であるといったようなちょっと言い方を途中でちょっとしてしまったところがあったんですけども、
0:03:02	そうではなくって、この検討そのものはですね汎用性を持たせる形で、今の一番as-isで検討していることなんであるからして、ちょっとそういう言葉遣いをですね、
0:03:14	何て言いますか、変な言葉遣いしないということをお願いしているところでございます。
0:03:18	で、11番目、影響周期の減衰定数の信頼区間減衰定数の外挿につきまして、影響知見での記載内容との差異も含めまして原燃として判断した考え方について説明追加と、
0:03:31	贈呈した結果としての適用範囲、オートスペクトル計算における設計範囲を踏まえまして、パラスタを実施した結果を用いた説明を行って、想定した結果がどの範囲なのかを明確にするということでございます。
0:03:43	12番目、減衰定数の検討は最終的に入力日の3点を用いる地盤に設定することを念頭に、周辺表解析の改正、定期方法、条件についての説明として、
0:03:55	ふくそう減衰の与え方等の情報を記載することというコメントいただいております。域の隣接性との依存性の扱いとの繋がりを意識した記載を確認すべきということで、
0:04:08	13番目伝達関数の検討結果につきまして、贈呈できていると判断する際に着目した点判断基準の考え方、その辺地盤の特徴をとらえられているか、岩盤と表層のインピーダンスの傾向の差等につきまして、
0:04:22	難波神野をすいません一番間の相対的な差も含めまして、説明の追加ということです。
0:04:30	で、14番目、ドイ用いた表層地盤の応用検討入力地震動算定に用いる表層地盤の料金の差を踏まえ、贈呈された岩盤部分の減衰要素が適切であることについて考察を記載。
0:04:42	ということでございます。この際着目している周期体について、複数の押収機械の大きさがあることから考えを統一した記載とするということで、
0:04:51	15番目、364ページ表中の、

0:04:55	速度層境界速度層断面による検討につきまして、今後実施する内容を明確にしましてその結果が示されるか表を明確にすること。
0:05:05	実施内容が未確定なのであれば吸気等で補足することということでございます。
0:05:11	16番目シミュレーション解析結果のフーリエスペクトルを示すことで大戸スペクトルに与える影響も踏まえて、伝達関数のフィッティングにおいて、着目すべき周期について記載すること。
0:05:23	ということでございます。それから、17番目、追加調査に行って行いますPS検査につきまして、建屋近傍にて実施することに対して近傍でとることの影響としまして、悪影響がないかと。
0:05:39	適切が与えられていることを確認して、そういう説明を加えることということで、議題でございます。
0:05:48	それから、私たちも08本部、下水のところをもうすいません、下水にかかわらず、本部全体のところでございます。
0:05:58	18番目、説明の全体像に対しまして、各ステップの中で何を述べて、次のステップで何を検討するのか繋がりを明確にすることと、ということで地盤の事態を考慮したパラメーターを設定する際の考え方がどこまでそのステップでやるのかと。
0:06:15	いったようなところの頭の整理をきちんとすることということをお願いしたいと思います。
0:06:21	それから実態を考慮したという言葉につきまして、実施している内容は、その実態を推定していることであって、決して、その実態のですね、真の値を見てるわけではないと。
0:06:35	ということからこれを踏まえた言葉を使って言いますかそういう、マインドをちゃんと外しなさいということをお願いしているところでございます。
0:06:44	はい。源泉関係書きますか。はい。はい。下水本部関係で、ここまで1回切らせていただきます。
0:06:52	一番上に、はい。
0:07:19	7万なんですけれども、
0:07:22	タジリ波速度やポアソン比の値も、
0:07:26	P波速度の対応って、
0:07:29	B波速度も、
0:07:31	チューニングと申しますか、同定のプロセスの説明がないので、それを加えてください。
0:07:36	うん。はい。放送部、 V_p は何に基づいて設定したのかと、ということですね。
0:07:42	はい。それが8番に書いてあるのであれば、8番に、

0:07:48	7番からは入ります。
0:07:50	外していただいて8番で説明していただければ
0:07:58	とは、
0:08:01	ですね。
0:08:02	Vpが何に基づいて設定してるかというのがこれで読める。
0:08:07	ここであればですね、ホーム、はい。
0:08:10	そこ作るという計画速度の、
0:08:12	説明のプロセス。
0:08:14	ここで述べているのか。
0:08:16	はい。はい。
0:08:22	はい。
0:08:24	そうですね。はい。はい。
0:08:26	どのような感じ。
0:08:29	イマイクラベ鉛直地震動に対する同定のプロセス。
0:08:35	います。
0:08:37	8割は入れていただけ。
0:08:44	どのような考えで設定しているかもしれない。括弧、
0:08:48	多分BS件数をそのままっていう。
0:08:51	それを先ほど鉛直地震動、
0:08:55	はい。
0:08:57	はい。
0:08:58	間野PS検層そのままそのところが消えて、はい。鉛直地震動に対する同定のプロセスが入ります。はい。
0:09:11	ちょっと時間遅れが、
0:09:12	町、
0:09:17	9番以降、
0:09:21	ちょっとやってるんで、すいませんちょっと時間海田のに申し訳ないです。
0:09:27	ちょっと待っていただけますか。
0:09:46	六ヶ所今、作業してますか。
0:09:50	固まってる固まってるアノオガタが言ってます。ちょっと音声聞き取りにくくて、えっとですね、今の8番のところは、括弧の中の、
0:10:03	PS検層そのままここは削除で、その代わりに、上のですね。
0:10:09	7番の、

0:10:12	鉛直地震動に対する同点プロセスこれが括弧の中に入るってことです。
0:10:18	はい。はい。はい。はい。はい。はい。
0:10:25	今言葉でした
0:10:27	考え。
0:10:33	をこういうこういうことですか。
0:10:35	はい。
0:10:37	OKです。スクロールお願いします。なるほど。いや、ちょっと。
0:10:43	それ止めましょう。うん。
0:10:46	はい。あと、9番ですけれども、
0:10:49	前回までの同定結果と今回、
0:10:52	うん。
0:11:04	予定け。
0:11:06	ロック度野瀬。
0:11:08	てですかね。
0:11:10	まず設定結果というのが、これであって、
0:11:13	あと、あと、伝達関数の比較。
0:11:17	もう、
0:11:18	覚えてください。
0:11:21	ここに全部含まれてる。
0:11:24	速度の同定結果と、それと、その結果、伝達関数、
0:11:30	うん。
0:11:31	いずれも前回とコンクリートで比較をしていただいて、
0:11:37	同定結果オクアリマした結果伝達関数もこうありましたというのがわかるように、
0:11:43	はい。
0:11:44	今変えたのが食器モデルの設定ここへ足を取って入れる。
0:11:48	まあまあ色モデルですからね。
0:11:51	及び想定欠陥伝達かな。そう。
0:11:55	はい。はい。それ前回大分かっていうと今回で引っかかっ小石。
0:12:15	これでよろしいですか。
0:12:23	はい。はい。はい。
0:12:44	すいません 9 電のアカシです。こちらから 1 点よろしいでしょうか。

0:12:50	お願いいたします。11番、農作業の矢印からの先なんですけどパラスターを実施した結果を用いた説明これ、さっきヒアリングの中でやりとりでこれ私が発言させていただいた、
0:13:05	だと思います。ここ要は長周期については、減衰定数、
0:13:12	外挿するのか、タグチナカマそれで違うでしょ周期そんなに差は生まれない。だからこそ、こういう判断をしたんだという根拠を示すと。
0:13:23	いうことがよくて、その一つの手段として長式そんなに変わらないんですけども、パラスターをやったらどうだっていう私先ほど発言したんですけども、その後の議論の中で、そこまでやらなくても、常識の差異について説明できるんじゃないか。
0:13:38	いうことでしたので、どういう示し方をするかは今後考えるとしてここに書くべきは、SA、長周期について、
0:13:48	長周期の扱いにして判断した根拠を明示的に説明をするという。
0:13:58	いうふうに認識しております。
0:14:02	衛藤委員。
0:14:04	言ってること理解いただけましたでしょうか。
0:14:08	はい規制庁浜崎ですけれども確かに明石さんの言われる趣旨もわかるんですが、要は今ままでとバランスた蒲生義務になってるんですけども、
0:14:19	カミデの方からでもですね、例えば長周期一定だとかそういうことでもわかるんじゃないですかという話もしたんで、パラスターを実施し、
0:14:29	した上でっていうんやな、そこまでは言い切れないですけど例えばました通りよりという、
0:14:35	ことを残しておいた方がいいと思いますが、
0:14:40	そのパラサトウを用いた定量的な説明を、定量的にはないですね。
0:14:46	%サトウを、
0:14:49	用いた
0:14:50	今日、
0:14:53	未明示的な説明を、とかそういうことです。はい。
0:15:05	はい。
0:15:06	はい。野球のアカセです。私の方は終わり改定する、ご議論ございません。よろしいですか。はい。
0:15:15	規制庁の岸です。
0:15:17	13番なんですけれども、
0:15:19	事業部の判断基準の考え方の後ろの括弧の中身が、
0:15:25	違っていて、

0:15:26	判断基準の考え方。
0:15:29	と、
0:15:30	並列で、
0:15:32	その2行目にある地盤、
0:15:35	うん。
0:15:36	判断基準の考え方で1回、
0:15:39	いえ、
0:15:40	すると、
0:15:42	及び、
0:15:44	地盤の特徴をとらえられている。
0:15:48	頑張って競争インピーダンス傾向の差など、
0:15:54	というのを、外に出して、
0:15:57	判断基準の考え方に続けて、
0:16:00	別項目。
0:16:08	括弧を外して判断基準の考え方と並列で、地盤の特徴をとらえられているか、岩盤と表層2品タツノ傾向の差と、全部並行並列で並べるといことですね。
0:16:26	で、最後の地盤の相対的なさっきの、おそらく地盤の特徴をとらえるということと同じだと。
0:16:33	一番下の相対的な差っていうか、
0:16:36	はい。はい。
0:16:43	2番の特徴との整合性は、
0:16:46	地震の特徴との整合性という
0:16:49	んですか、地盤及び地震動と、
0:16:51	進藤。
0:16:53	2番、及び地震動の特徴との整合性。
0:16:57	ですか。
0:17:08	次、あ、すいません剣持ですちょっとコメントが聞き取れなかった。
0:17:13	そこに、及び地震動、
0:17:15	地盤の広い地盤。
0:17:18	及び地震動の特徴。
0:17:26	特徴との整合ですね。
0:17:30	はい。
0:17:32	うん。
0:17:37	はい。

0:17:44	スクロールしてください。
0:18:06	はい。規制庁濱崎です。
0:18:09	地震を干渉に対するコメントって、残ってないように思うんですが、難波あります。
0:18:21	解消法、すいません。
0:18:27	すいません。いただいたところの浜崎さんからのお話につきましては今の我々のところで書いているところで、まず木川ヒガシがいろんな病棟の話。
0:18:38	この話で、コンビニで崩れてしまうというところの認識で増えたというところの確認だったと思ったので、
0:18:48	はい。何か、何かしら、
0:18:50	何かね。
0:18:52	成果になるようなものってのはないのかなと思います。それでこの西側のデータがほぼ 98 アノ、
0:18:59	はい。規制庁濱崎です。そしたらちょっと私の言い方が伝わってなかったのが、例えば資料の 507 ページに、東側地盤の探傷法の結果が出てるんですけども、
0:19:10	これはあくまでも表彰を含んだ、
0:19:14	突端減衰の結果であるということですね。
0:19:18	を、資料の中に残しておいて欲しいんですけど。
0:19:22	はい。日本原燃の渡で申し訳ございません。確かにそれで受けてましたね。干渉法の方法によれば、
0:19:30	はい。どこの対象にするのははい、ございません。田島。はい。お願いします。
0:19:38	9 電のアカシです。それで表層含んだ技術であるということと、それを考慮しても、岩盤の減衰として適切に
0:19:52	いうところまでしっかり
0:19:54	述べる。
0:19:55	ということだと理解して、
0:19:58	以上です。
0:19:59	はい。規制庁、田崎です。
0:20:01	そうですねそこまで、その段階では、
0:20:05	記載があつてしかるべきと思っています。
0:20:08	お願いします。
0:20:13	お前、

0:20:35	これはすみません、浜崎さん、今、これ 507 ページ、会社法については、表層地盤と岩盤を今度は減衰定数として与えられるものであるが、その結果を一番の状況を踏まえまして、岩盤部分の減衰定数の扱いについて記載を追加。
0:20:51	これ表現できておりますでしょうか。
0:21:13	与えられるものであり、ありますね。はい。ちょっと細かい話は、趣旨は結構ですけど。
0:21:25	六ヶ所はすみません。減衰定数として与えられるものであるがじゃなくて、ありにしましょうということです。
0:21:32	ごめんなさい。
0:21:36	はい。
0:21:40	はい。
0:21:41	はいそうです。はい。
0:21:49	はい。
0:21:51	下の方。
0:21:53	スクロールしてください。
0:21:57	天田加古氏が違うか。
0:22:04	本分ですね。はい。
0:22:14	長谷川さん。
0:22:16	大に近づくような目的でやって、その辺も、
0:22:20	この人がいてくれるみたいな言い方したけど、ここに直せないようではないかもしれない。
0:22:27	実態を、実態、
0:22:29	に近づけようというのが目的でやったって、そういう公表するみたいな。
0:22:37	カワセじゃないと思う。
0:22:40	それだけ、ごめんなさい。
0:22:44	はい。うん。本日はですか。はい。
0:22:47	はい。はい。
0:22:48	今日は表層基盤でございます。表層地盤のところ、20 番、あそこずれてとか、21 番目、埋戻量について神野を、
0:22:59	目的の記載について適正化することですすみませんも端的に申し上げますけど排水性を目的と言うアヒツキというようなところもちょっと改めて参りたいと思います。21、22 番目、粒度について品質を目指すという言葉の記載につきまして、

0:23:15	構成の見直しを踏まえた修正を検討することということでございます。23番目に再処理施設の建物構築物として、同等の地盤モデル設定にあたり周辺にある表層の分類を整理すること。
0:23:27	4番目表層地盤として、六ヶ所層を造成モリタを、第1回申請で用いていることから、本部別紙での記載を整理すること。
0:23:36	25番目、埋め戻しの全体を平均物性として適用するのか年代別に整理するのか、3.1と3.4まとめにおいて整合しない競いが記載があるので、修正するもの。
0:23:47	26番目第二グループの、物性設定の根拠についてプロセスを、すいません。公開性流動化処理の第二グループですね、のWenchuan設定のグループについて、
0:23:57	すいません分析の根拠についてプロセスを示すこと。
0:24:01	27番目Z及び地域予算の表にある流動化処理増以外の表層物性の設定にあたり影響を検討すること。
0:24:09	28番目、前回資料にあった参考、8、表層地盤の分析を、あった与え方による影響について表層部性を説明する目的を整理した上で改めて説明すること。
0:24:22	ございます。29番目、Zの流動化処理上の面子。
0:24:27	埋め込みかかるバージョン剛性の設定につきまして、根拠と妥当性を説明できるようにすることというふうにいただいているところでございます。
0:24:47	20、規制庁、一井です。22番。
0:24:51	音声の要旨を踏まえて、
0:24:58	この部分ですね。
0:24:59	均質という言葉がまだ入ってますってということと、粒度とか、
0:25:03	含水比の調整とかってのがあって、
0:25:06	としては、これに、この
0:25:10	二つ線とか、
0:25:12	そういうことでもう少しこの文章を遂行しろっていう
0:25:16	そうさせ、構成の見直してというのが何かちょっとそぐわないっていうことでもありますよね。
0:25:22	シューターも含めて、
0:25:23	いろいろございます。
0:25:26	ルートミックスされて、
0:25:29	集約されたような、
0:25:31	まず最初の部分は、
0:25:37	流路調整と、

0:25:38	時間、
0:25:43	そういった具体的な中身をもう少し説明してくださいという。
0:25:57	曲線にその上限下限を超えてくださいっていうのは、
0:26:02	それは多少ありますので、そういう具体的にそう書いてないとか、はい。
0:26:11	それはもう上限下限は別項目で、作りましょう。
0:26:27	ここまで。
0:26:29	六ヶ所がいいですか。3.2. 6 図について、
0:26:34	加入上限下限後、
0:26:36	記載することっていうのを一つ入れましょう。
0:26:40	うんとあとは、出店ね。
0:26:43	マニュアルの出典を明示すること。
0:26:48	第 3.2-6 です。
0:27:13	あと出典を示すこと。
0:27:29	順番もあれなんですね、22 番ワダ 32 番ですね、提出を目指すという か、
0:27:36	物理的に均質になるように設定するという表現とか、
0:27:39	今後各販売することで、流量、含水調整を行うって具体的に何を、
0:27:47	586 ページの 2 パラグラフ目の記載をアビル具体化してください。
0:27:54	入ってる。
0:27:56	いいですか。
0:27:58	22 番なんだけど、P586。
0:28:07	のば 2 パラグラフに、
0:28:12	パラグラフ目を、
0:28:16	22 台、
0:28:18	米 22、
0:28:30	を具体的に、
0:28:36	記述すること。
0:28:49	大分始めました。
0:28:52	うん。均質だとか、パッキだとか、はい。
0:28:55	粒度だとか、
0:28:59	括弧ねじゃ具体的っていうところに、
0:29:03	括弧して、
0:29:05	均質だとか、
0:29:09	伐期。
0:29:17	流動、

0:29:21	内容を含水比調整、
0:29:25	含水比調整。
0:29:27	はい。過去結んでください。
0:29:31	はい。
0:29:32	後ろの方は消しちゃっている。
0:29:34	うん。そこからそこを消してください。
0:29:40	3-262 上限下限を入れて出店します。はい。
0:29:45	ちょっと荷札ですけど、今の括弧の絵の一番最後、含水比調整。
0:29:53	の作業っていいんでしょうか、品質バック流動管理調整の内容。
0:29:59	ここだけに取り出されたこと。
0:30:03	あとごめんなさい、刀禰。
0:30:06	その下にさ、3-2-8 図、
0:30:12	23 の下に、
0:30:15	23 の次入れてもらえます。
0:30:18	24 松村 24 番作ってもらえるそう。
0:30:21	3-2-8 図。
0:30:26	8 図の、
0:30:33	試験位置、
0:30:34	プロセスについて記述すること。
0:30:43	はい。
0:30:54	最後です。
0:30:56	ちょっとスクロールしてください。
0:31:22	11 年、29 番がそれに該当するのかわかりませんが、現在 13 の間にある。
0:31:30	評価する。
0:31:35	六ヶ所以外つって、そのことで、
0:31:38	こういう同場所には、この統廃合誘導箇所等にしましょうかというのは、当時 14 号、
0:31:46	男性も、
0:31:49	ね、これはですね、サブドレンの話、サブドレインで、すごいもうちょっと強い。
0:31:55	入ってですね形状的にそうか。ええ。
0:31:58	はい。
0:31:59	他に、説明の場がないかという意味で、流動化処理基準等をつけていただいて、

0:32:06	29、29 番、
0:32:09	z周辺にある理由と、流動化処理と、
0:32:13	等以外、
0:32:15	いわゆるあいあいと、
0:32:18	うん。そう。
0:32:20	ごめん。そこ等で以外を外してください。
0:32:26	もう、
0:32:29	の説明の要否を検討して、
0:32:36	の説明の要否、
0:32:46	はい。
0:32:51	要否を検討すること。はい。
0:32:54	はい。
0:32:56	うん。
0:33:02	言われたようです。
0:33:05	終わり。
0:33:06	管理課ちょっと超えてしょうがない。はい。
0:33:10	%カセ車ウエキですあと 31 番ですけれども、これZだけじゃないですね 1034 アノ。
0:33:18	今、遠藤課長に突然、側面ばねっていう側面、埋め込みってというのは、ZG1034 だけでした。
0:33:26	そうですね。
0:33:28	関連するやつ、あとは、ネット等でもいいんですけども、
0:33:33	耐震重要じゃない。
0:33:36	はい。
0:33:37	G1034 フジイ 1034。
0:33:48	はい。関わる、側面地盤ばねですね。
0:33:55	ウメキ職免染谷ソネはい。
0:34:00	根井。
0:34:03	はい。
0:34:04	はい、どうぞ。
0:34:14	長谷川さん。
0:34:16	もうあれですかね。ありがとうございます。こういう形でですね振り返りにも我々、
0:34:24	1 さしいたいてちょっとこれごとに、また検討して参りますんで本日です。ねいただきましたコメントはですねまた、これ反映して、

0:34:36	ちょっと一部よろしいですかね。衛藤。次回の点、定修の時には西側地盤の検討結果をお出しますけどちょっとその断面ではまだ少し間に合わないかなというふうに思いますけどもその都度、
0:34:48	特に7日だけは、
0:34:53	その時谷津と、
0:34:55	奥瀬早々、
0:34:57	衛藤、これを回収させていただくと、いうことでやらせていただくというふうに考えてございます。
0:35:04	はい。ちょっと
0:35:06	資料のですね433ページからあれ、動きがあるんで、その
0:35:17	はい。
0:35:18	判例神戸がですね。
0:35:22	バイリニア前にあって、これ、最初は、
0:35:26	はい。
0:35:27	はい。
0:35:30	私は聞こえましたですか。バイリニア江藤633ページ判例が、通りやばいなと思います。433。
0:35:42	はい。
0:35:43	はい。
0:35:50	はい。そしたらあと、
0:35:52	ムラシマニワすみませんけど1000件と、だんだん実績と、はい。
0:36:00	ありがとうございます。
0:36:03	はい。規制庁の徳田です。それでは本日のヒアリングはこれで終了とし、何かございますか。よろしいですか。
0:36:10	はい。議員からは、はい。特にございません。はい。
0:36:14	それでは本日のヒアリングはこれで終了とさせていただきます。お疲れ様でした。
0:36:19	どうもありがとうございました。